

人文科学・社会科学系における 大学院教育の関連データ集

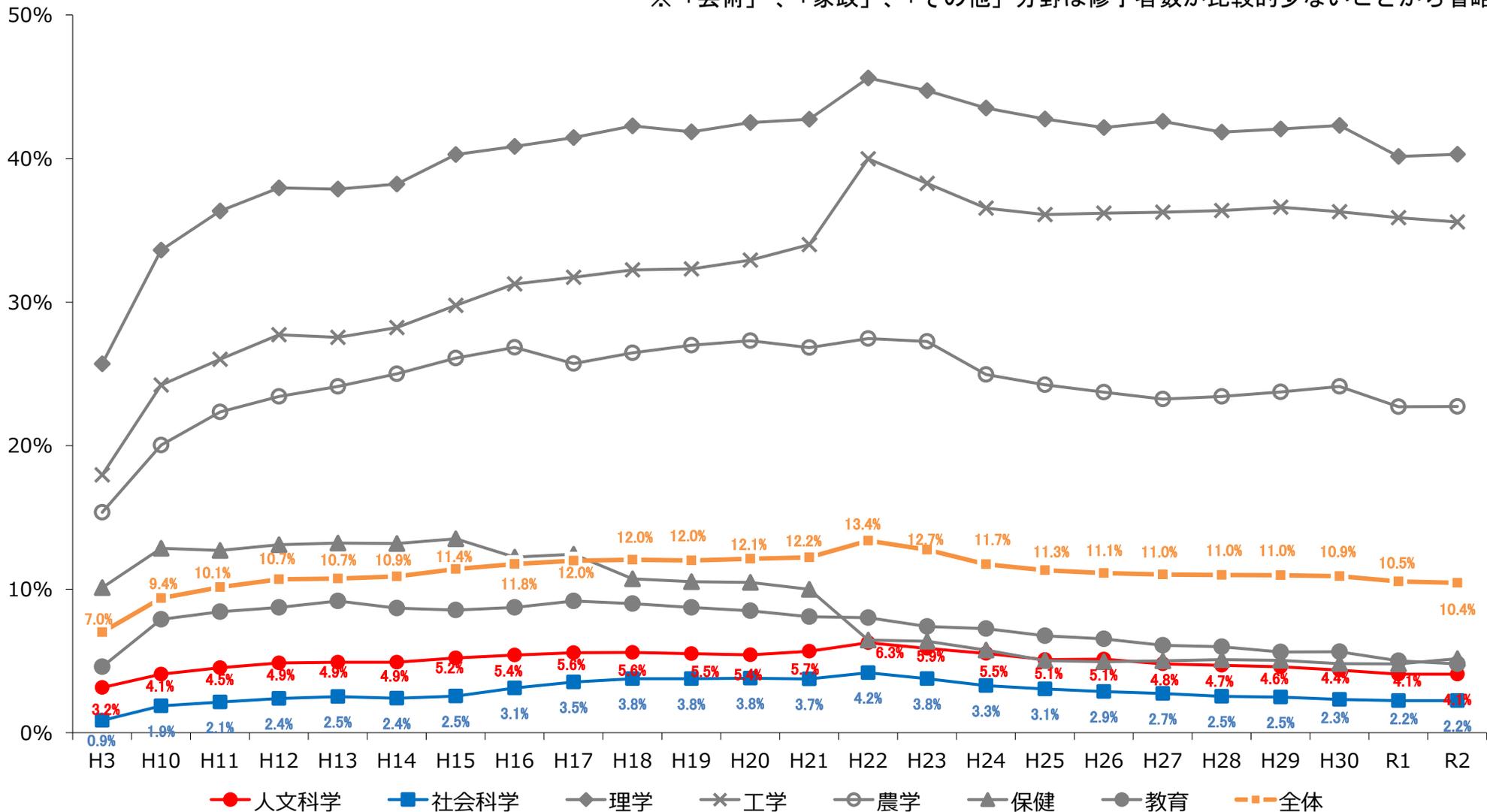
1. 学生数・教員数等	2
2. キャリアパス	25
3. 学位取得までに要する期間	45
4. 大学院教育・研究	54
5. 組織的な取組	63

1. 学生数・教員数等

学士課程修了者の進学率の推移（分野別）

- 修士進学率は全体として横ばいの傾向
- 人文科学・社会科学系の修士進学率は他の分野と比較して低い

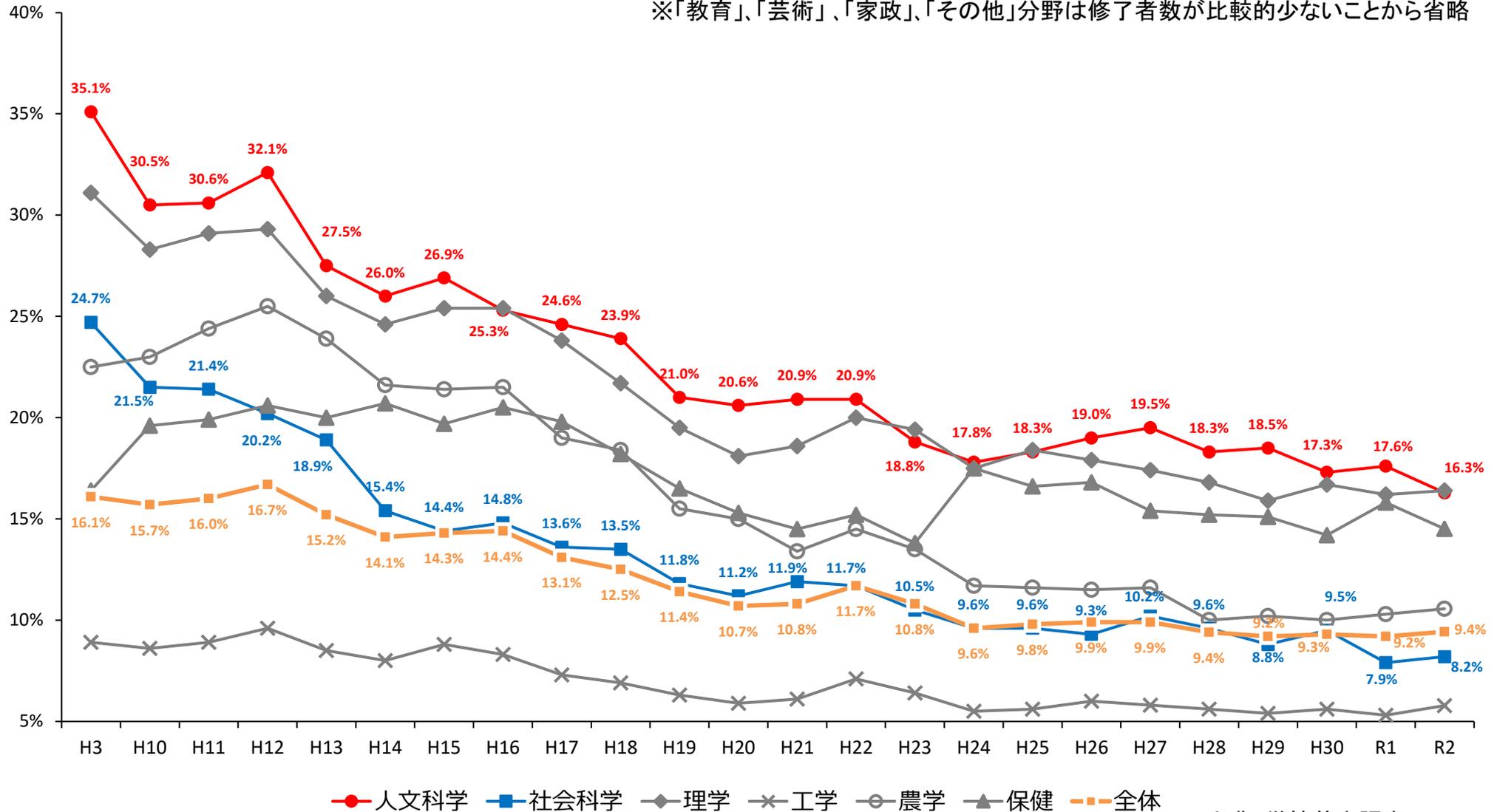
※「芸術」、「家政」、「その他」分野は修了者数が比較的少ないことから省略



修士課程修了者の進学率の推移（分野別）

- 博士進学率は全体として減少傾向
- 人文科学系の博士進学率は他の分野と比較して高く、社会科学系の博士進学率は工学系に次いで低い

※「教育」、「芸術」、「家政」、「その他」分野は修了者数が比較的小さいことから省略

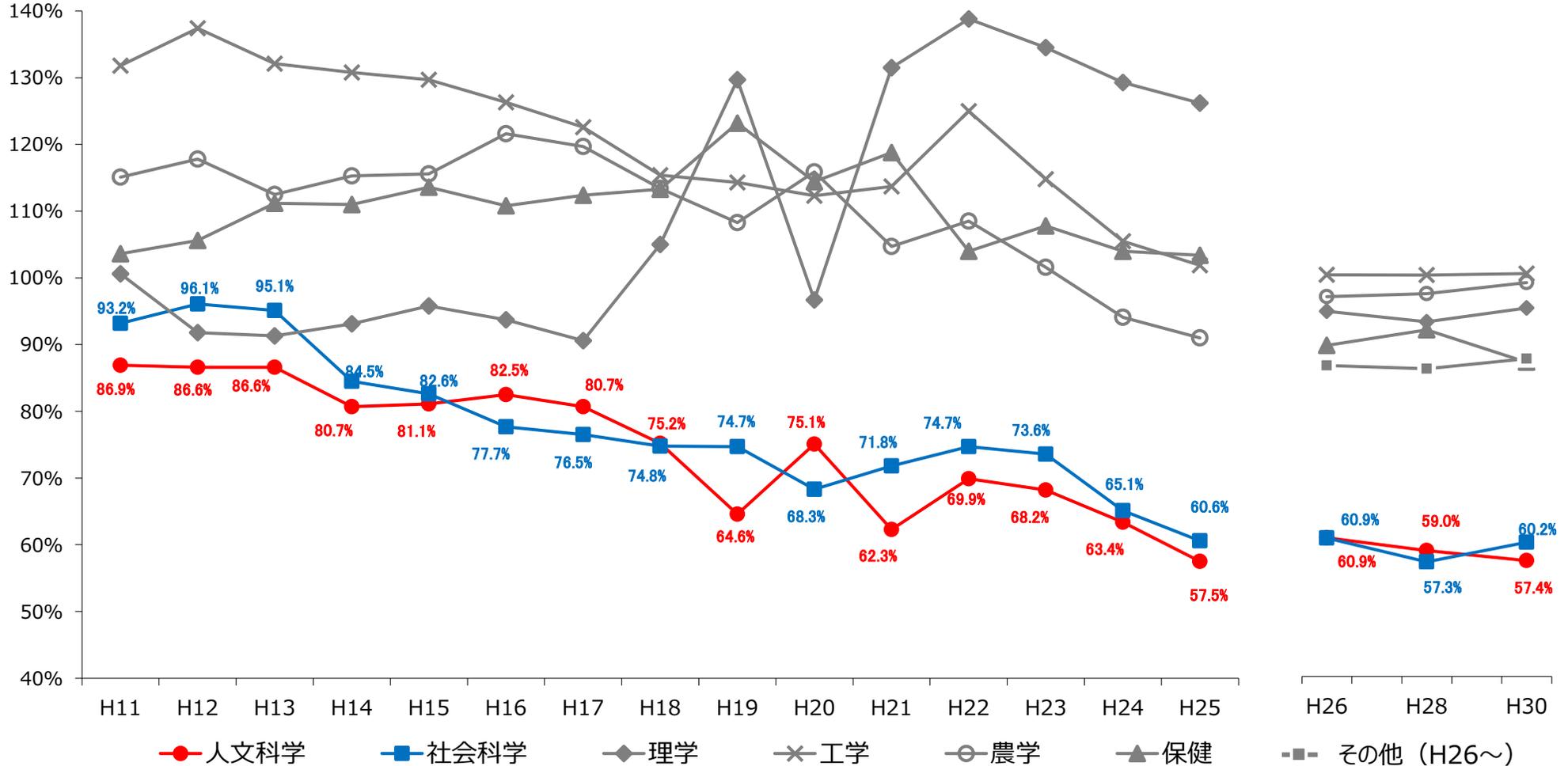


出典：学校基本調査

修士課程入学者充足率の推移（分野別）

● 人文科学系と社会科学系の修士課程の入学者充足率（＝入学者／入学定員）は、他の分野と比べて低く、6割程度となっている

※平成25年度以前と平成26年度以降のグラフは出典が異なる。

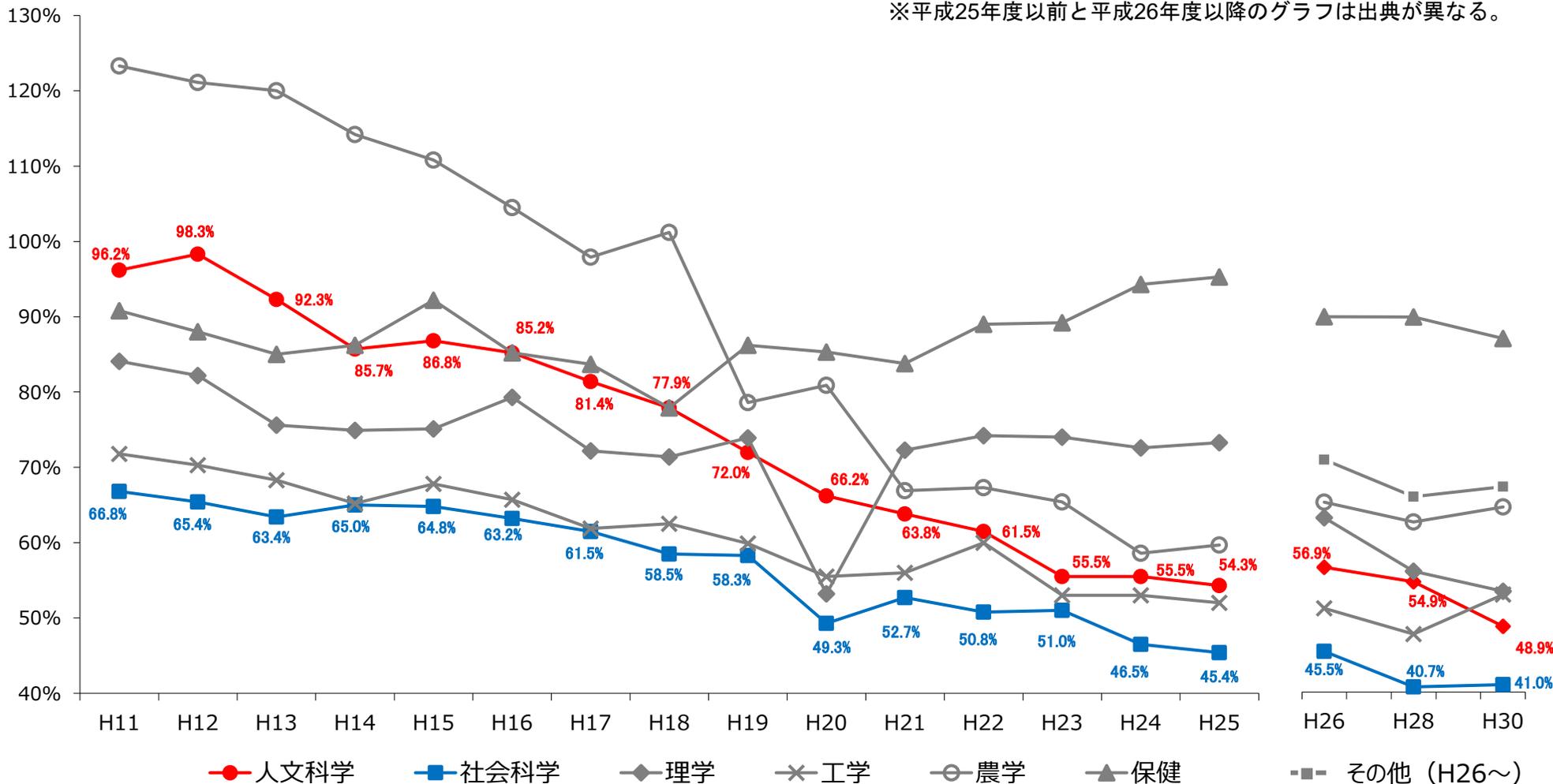


出典：（平成25年まで）学校基本統計及び全国大学一覧より文部科学省作成
 （平成26年）「大学院における「第2次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（平成28年2月 株式会社リベルタス・コンサルティング）＜文部科学省：先導的・大学の改革推進委託事業＞
 （平成28年）「大学院における「第3次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（平成30年3月 株式会社リベルタス・コンサルティング）＜文部科学省：先導的・大学の改革推進委託事業＞
 （平成30年）「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（令和2年3月 株式会社リベルタス・コンサルティング）＜文部科学省：先導的・大学の改革推進委託事業＞

博士課程入学者充足率の推移（分野別）

- 博士課程の入学者充足率（＝入学者／入学定員）は全体的に低下傾向にあり、平成30年度においては人文科学・社会科学系の入学者定員充足率は5割を下回っている

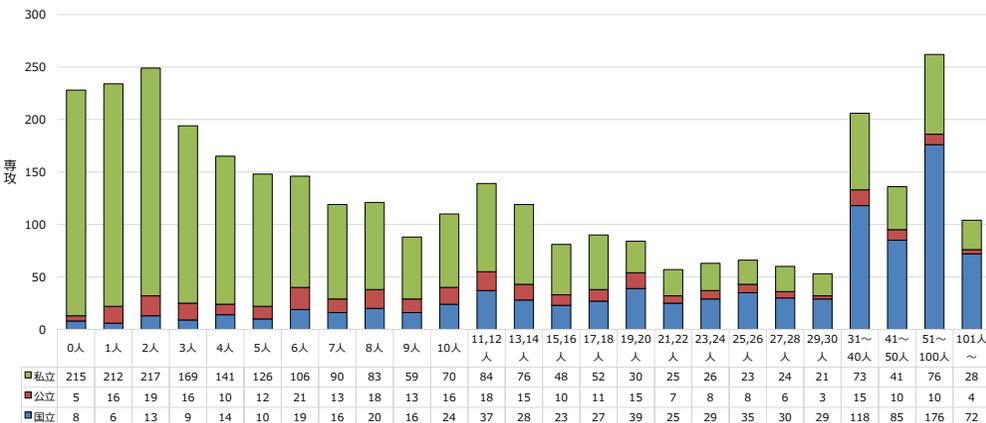
※平成25年度以前と平成26年度以降のグラフは出典が異なる。



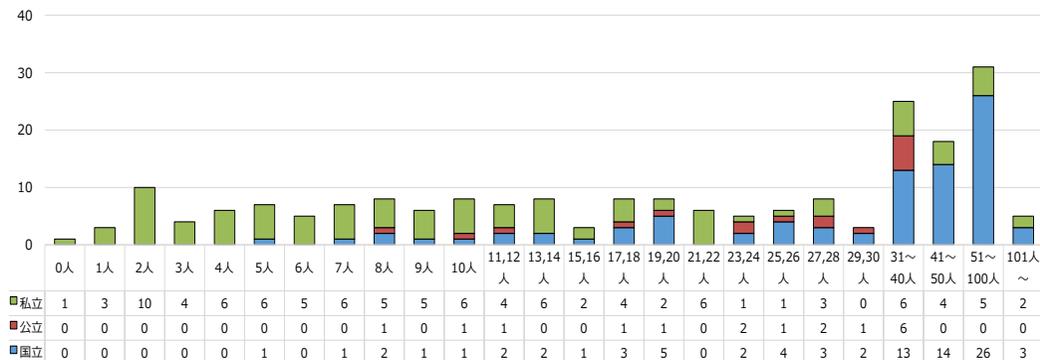
出典：（平成25年まで）学校基本統計及び全国大学一覧より文部科学省作成
 （平成26年）「大学院における「第2次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（平成28年2月 株式会社リベルタス・コンサルティング）＜文部科学省：先導的の大学改革推進委託事業＞
 （平成28年）「大学院における「第3次大学院教育振興施策要綱」等を踏まえた教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（平成30年3月 株式会社リベルタス・コンサルティング）＜文部科学省：先導的の大学改革推進委託事業＞
 （平成30年）「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（令和2年3月 株式会社リベルタス・コンサルティング）＜文部科学省：先導的の大学改革推進委託事業＞

専攻別大学院入学者数の分布（修士・博士前期）

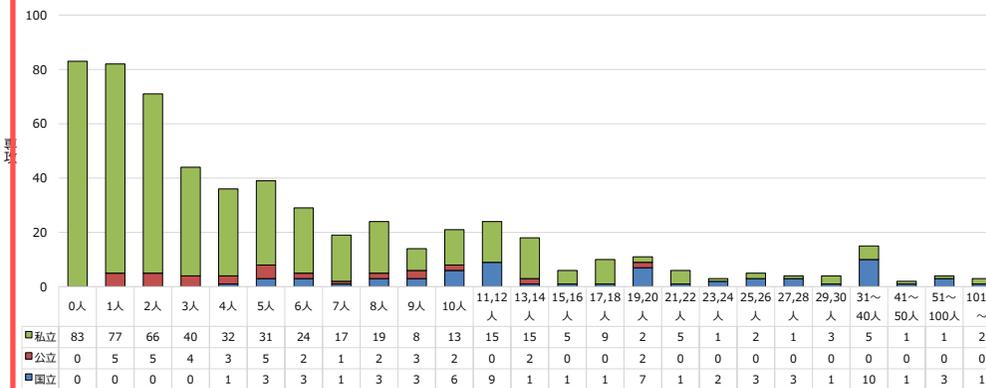
全体：3322専攻（国立：908専攻、公立：299専攻、私立：2115専攻）



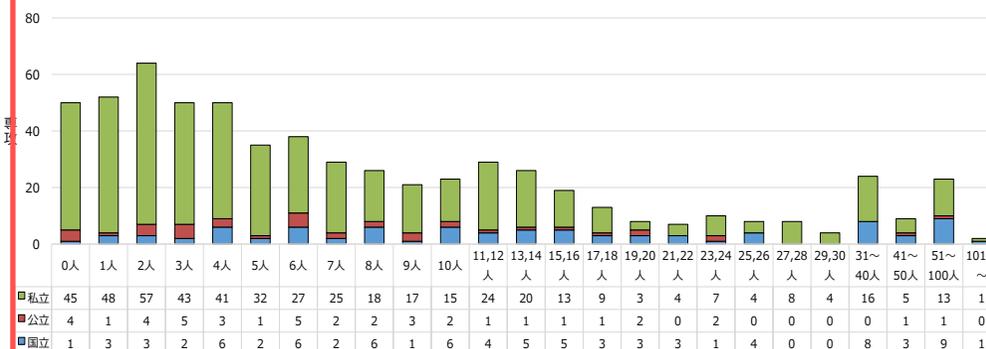
理学：206専攻（国立：86専攻、公立：17専攻、私立：103専攻）



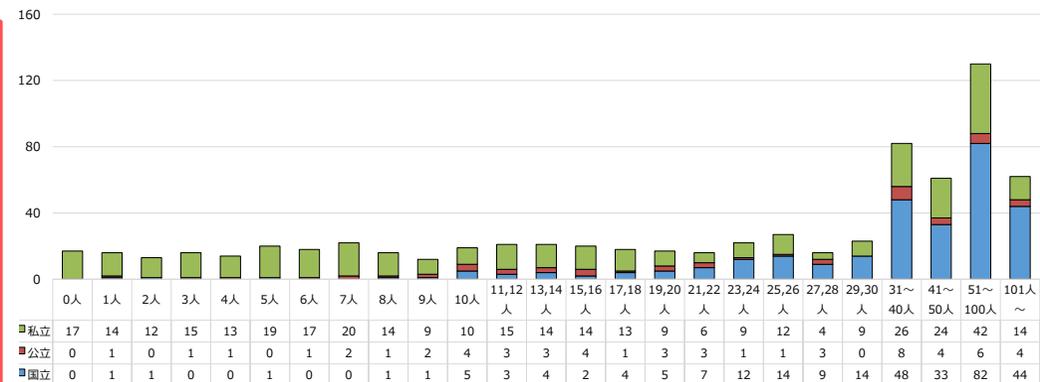
人文科学：577専攻（国立：64専攻、公立：36専攻、私立：477専攻）



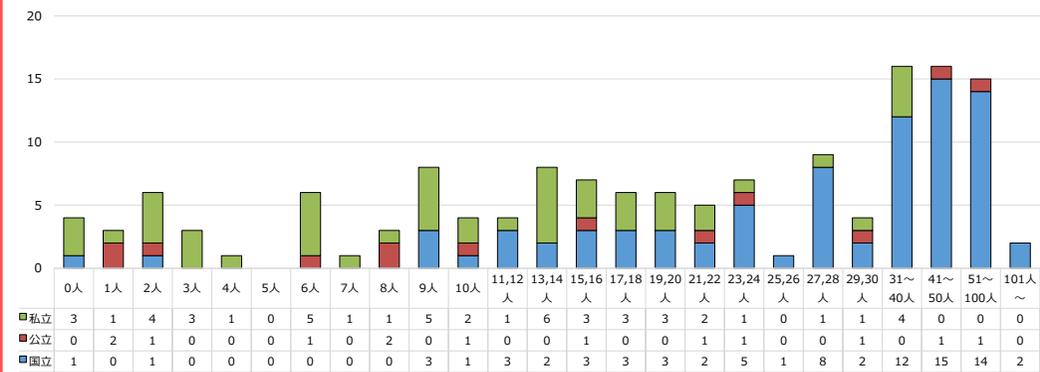
社会科学：628専攻（国立：87専攻、公立：42専攻、私立：499専攻）



工学：719専攻（国立：291専攻、公立：57専攻、私立：371専攻）



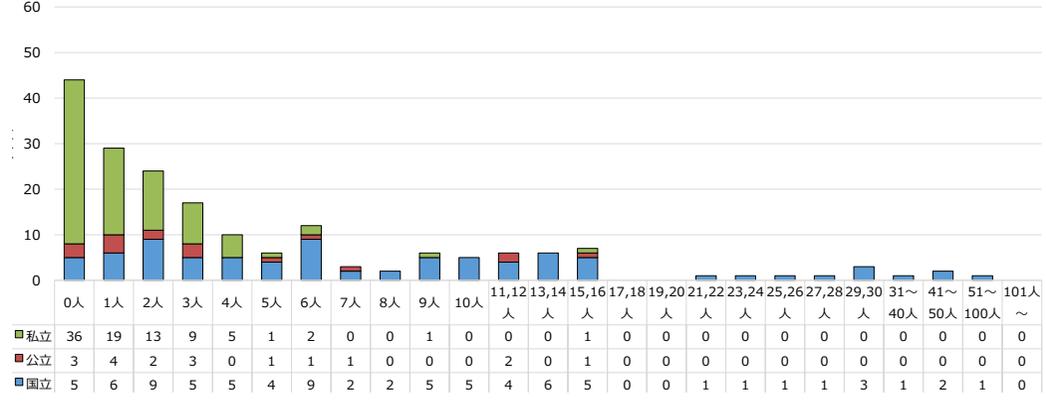
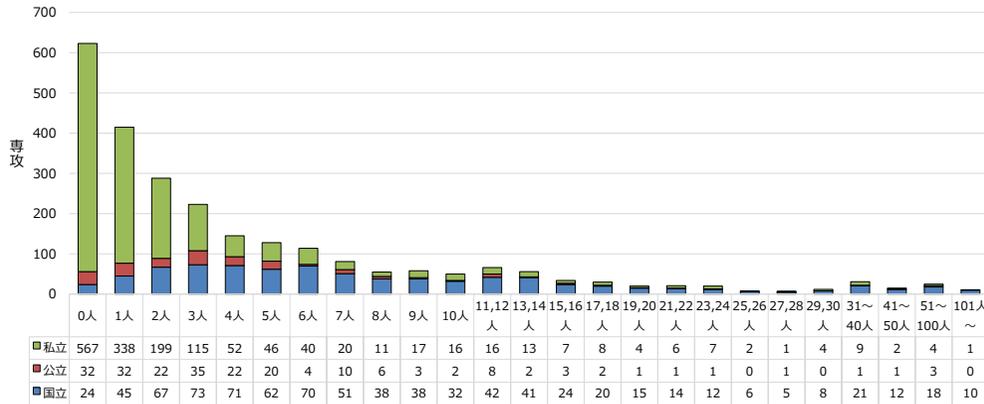
農学：145専攻（国立：81専攻、公立：13専攻、私立：51専攻）



専攻別大学院入学者数の分布（博士後期）

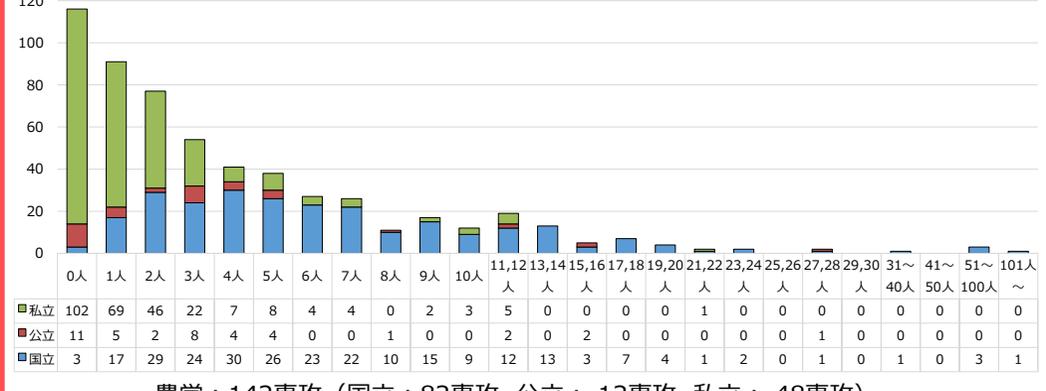
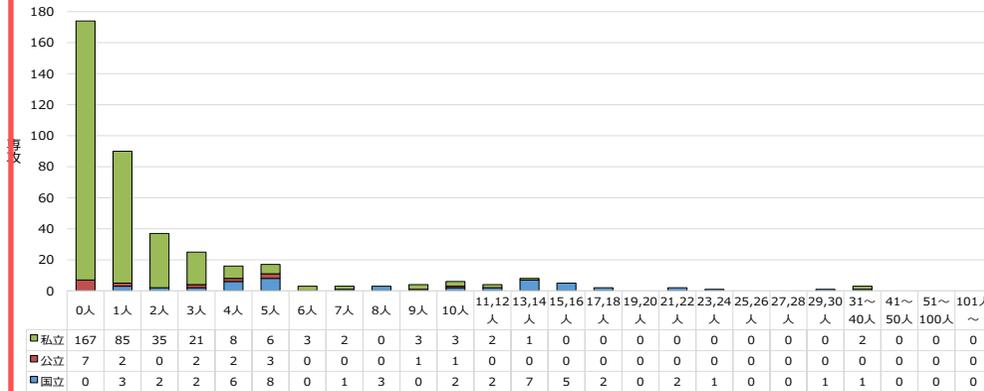
全体：2536専攻（国立：819専攻、公立：212専攻、私立：1505専攻）

理学：188専攻（国立：83専攻、公立：18専攻、私立：87専攻）



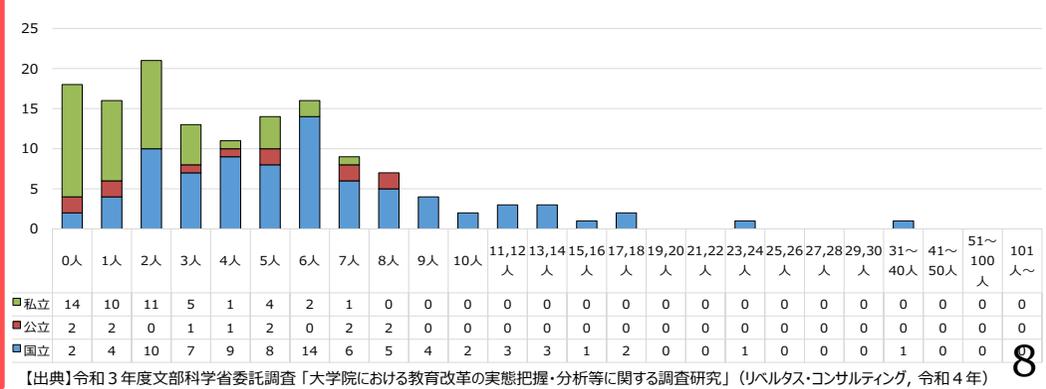
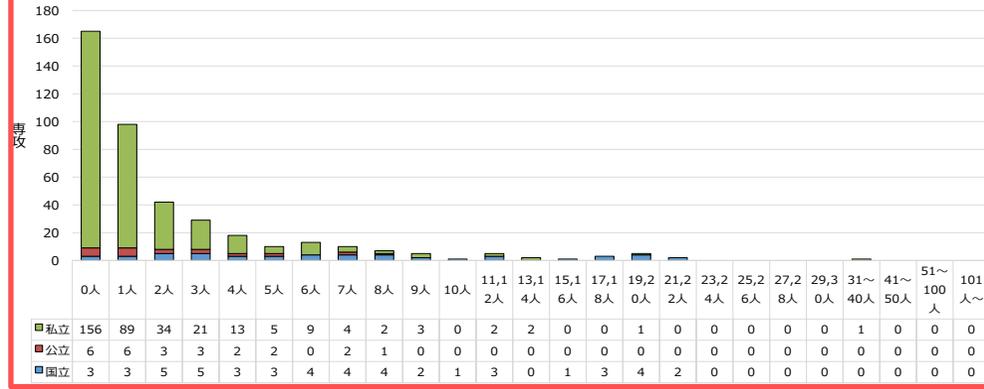
人文科学：404専攻（国立：48専攻、公立：18専攻、私立：338専攻）

工学：569専攻（国立：256専攻、公立：40専攻、私立：273専攻）



社会科学：417専攻（国立：50専攻、公立：25専攻、私立：342専攻）

農学：142専攻（国立：82専攻、公立：12専攻、私立：48専攻）

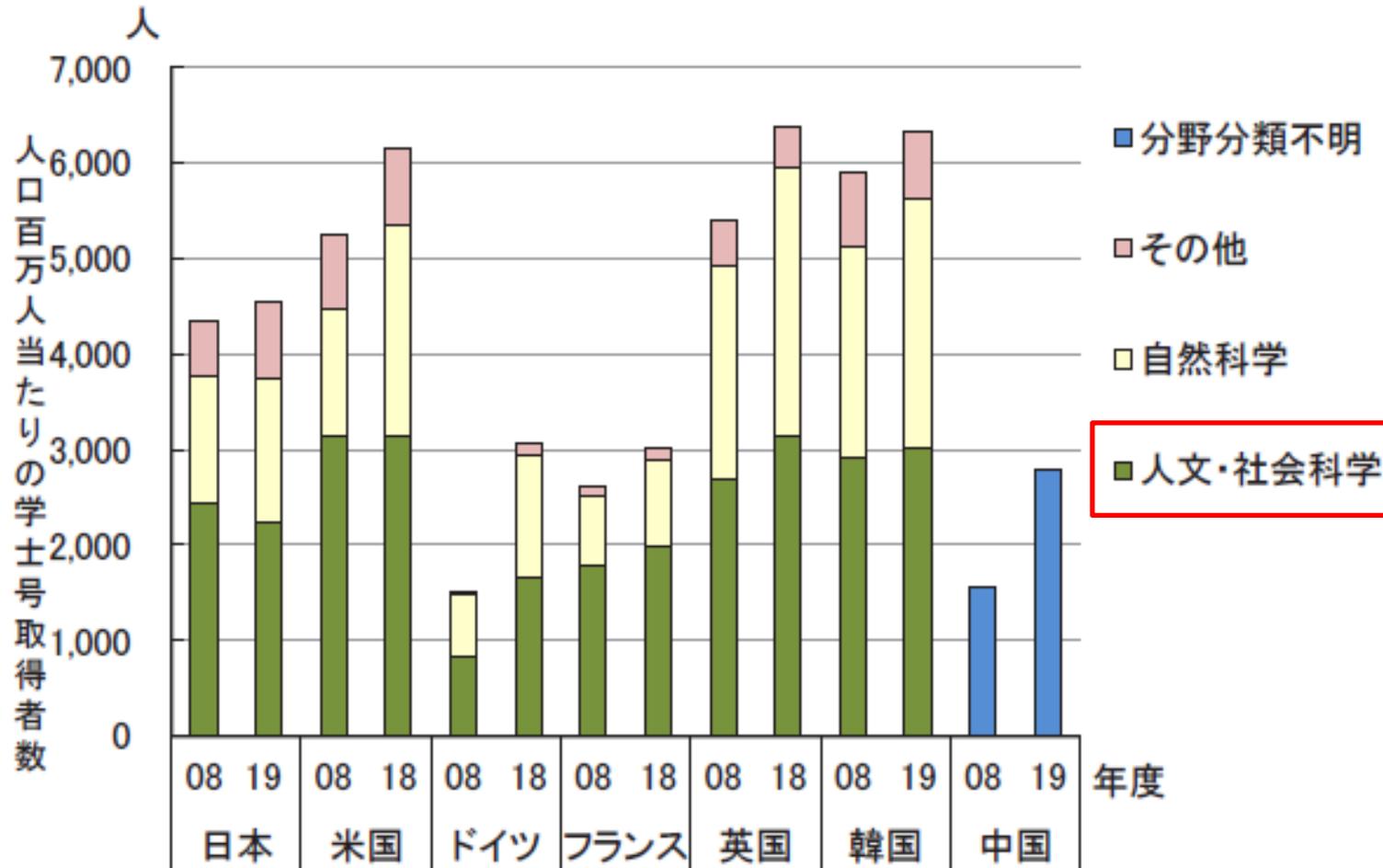


【出典】令和3年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベラス・コンサルティング，令和4年）

人口100万人当たりの学士号取得者数の国際比較

- 人文・社会科学分野における人口当たりの学士号取得者数は、諸外国と比較して大きな差はない

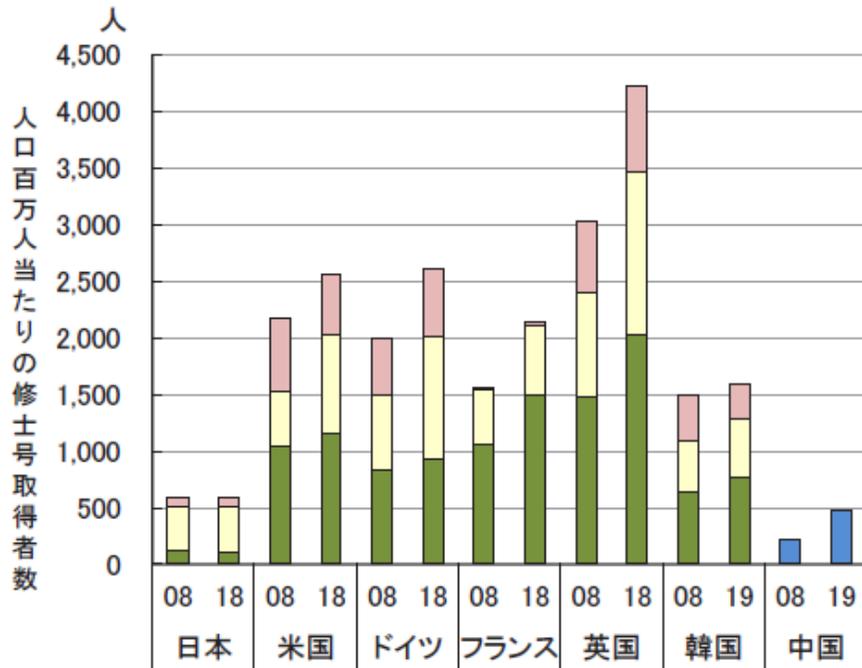
学士



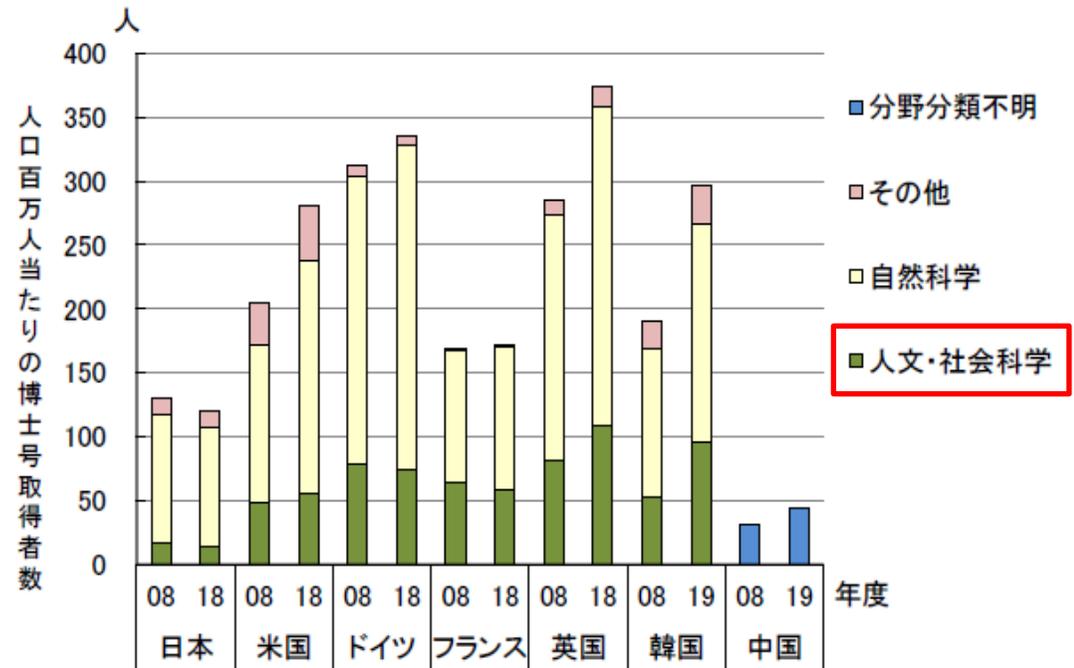
人口100万人当たりの修士号・博士号取得者数の国際比較

- 人文・社会科学分野における人口当たりの修士号・博士号取得者数は、諸外国と比較して少ない

修士



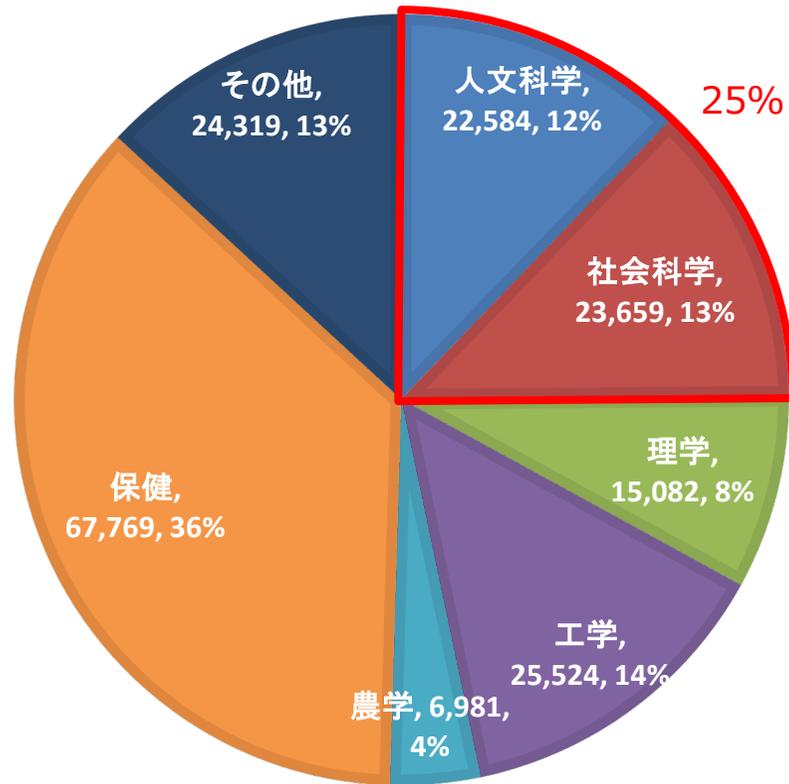
博士



大学本務教員数（令和元年度）

- 本務教員全体に占める人文科学、社会科学分野の教員割合は約25%
- 人文科学、社会科学分野の本務教員は私立大学に多い(約7割)

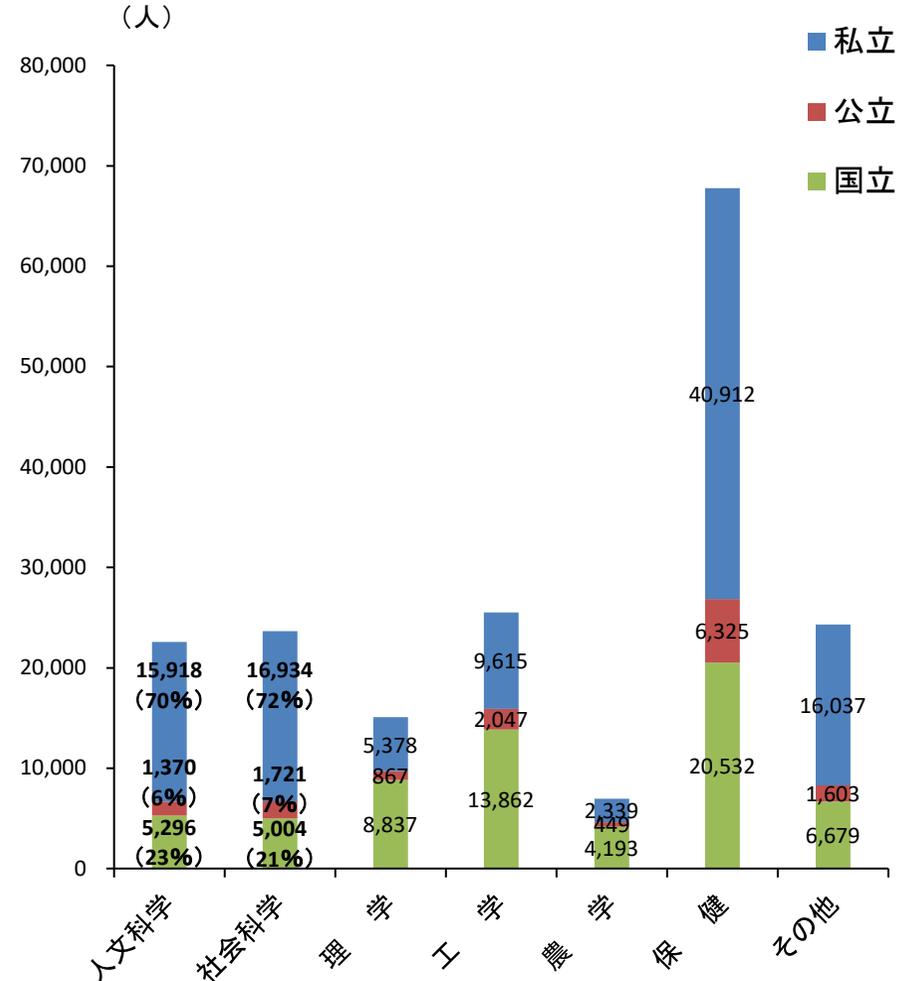
本務教員数(分野別割合)



■ 人文科学 ■ 社会科学 ■ 理学 ■ 工学 ■ 農学 ■ 保健 ■ その他

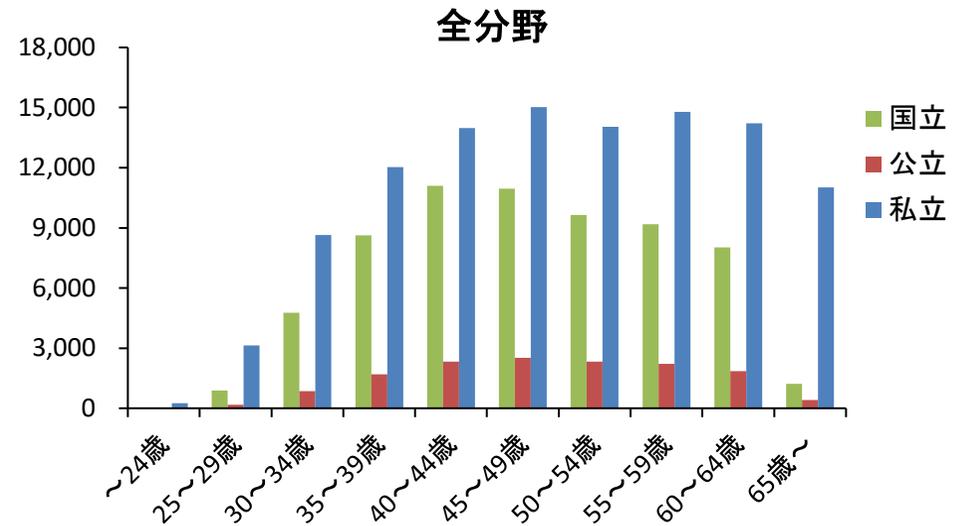
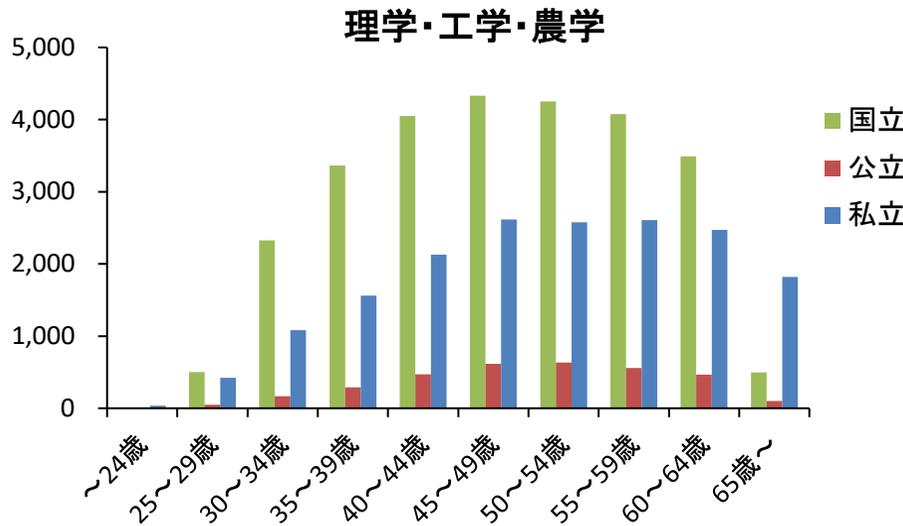
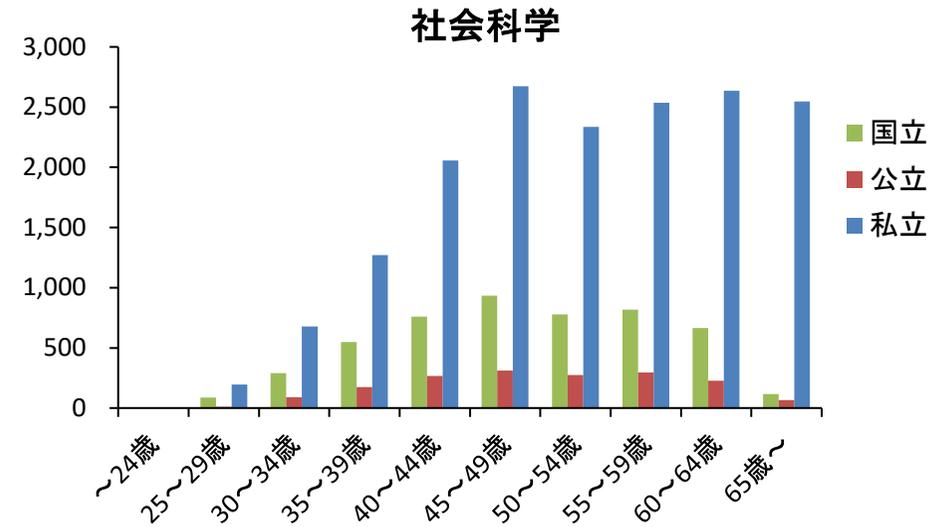
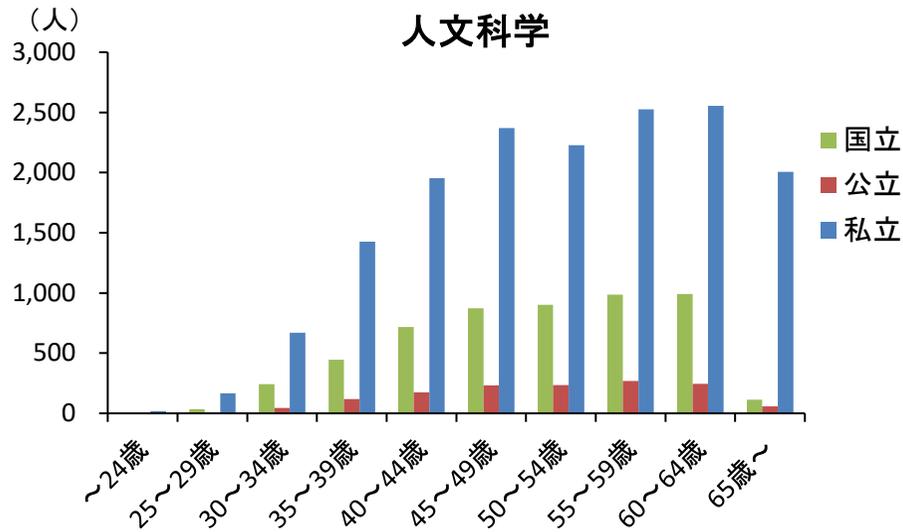
※「その他」は「芸術」、「教育」、「家政」、「商船」、「その他」の分野を含む

本務教員数(分野別)



大学本務教員数（令和元年度）

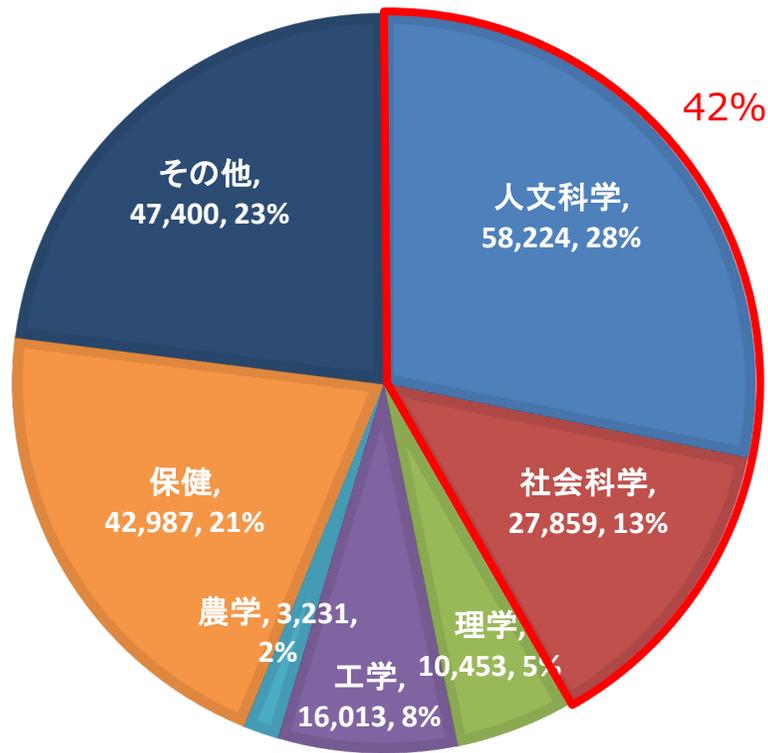
- 人文科学、社会科学分野の本務教員は、他の分野に比べて年齢層が高い傾向にある



大学兼務教員数（令和元年度）

- 人文科学分野の兼務教員は、他の分野と比較して最も多い
- 本務教員と同様に、人文科学、社会科学分野の兼務教員は私立大学に多い（約8割）

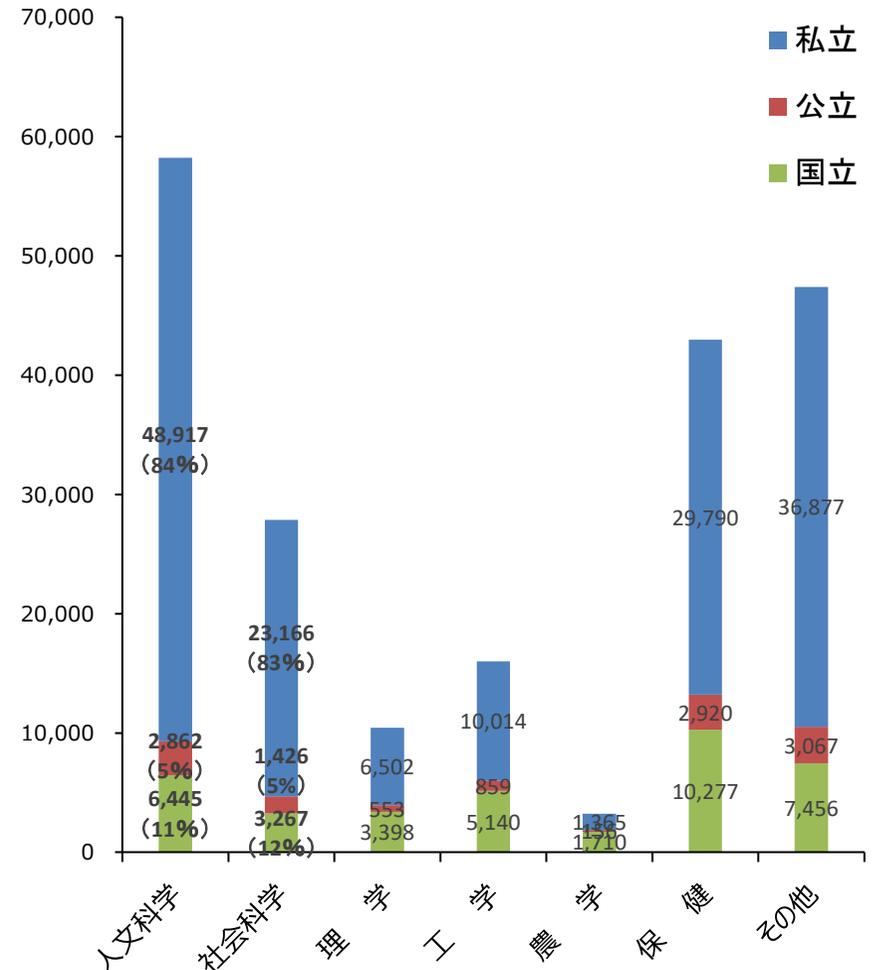
兼務教員数（分野別割合）



■ 人文科学 ■ 社会科学 ■ 理学 ■ 工学 ■ 農学 ■ 保健 ■ その他

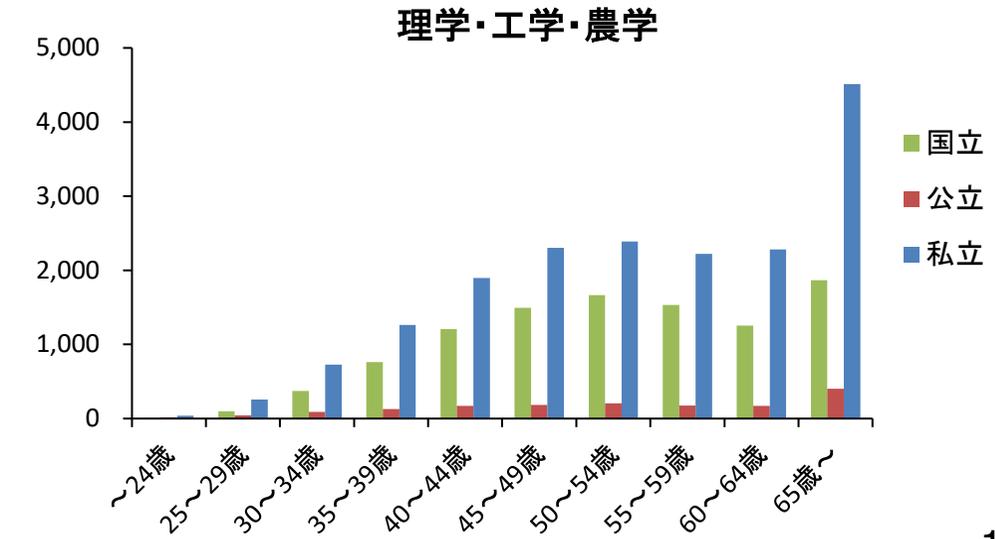
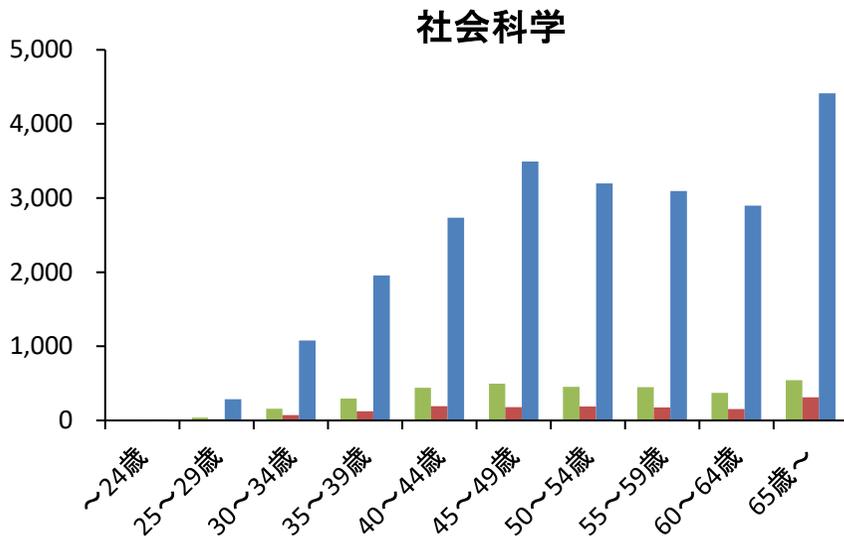
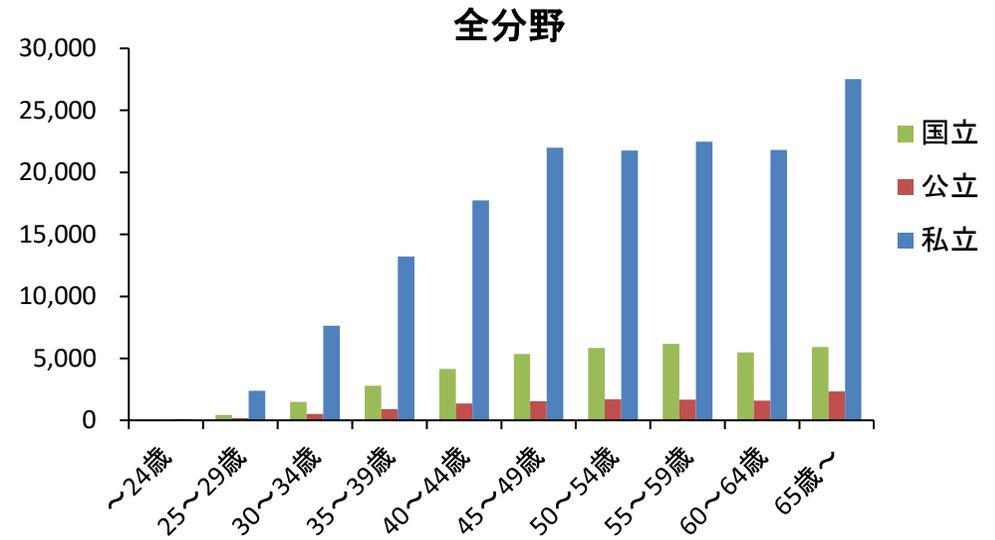
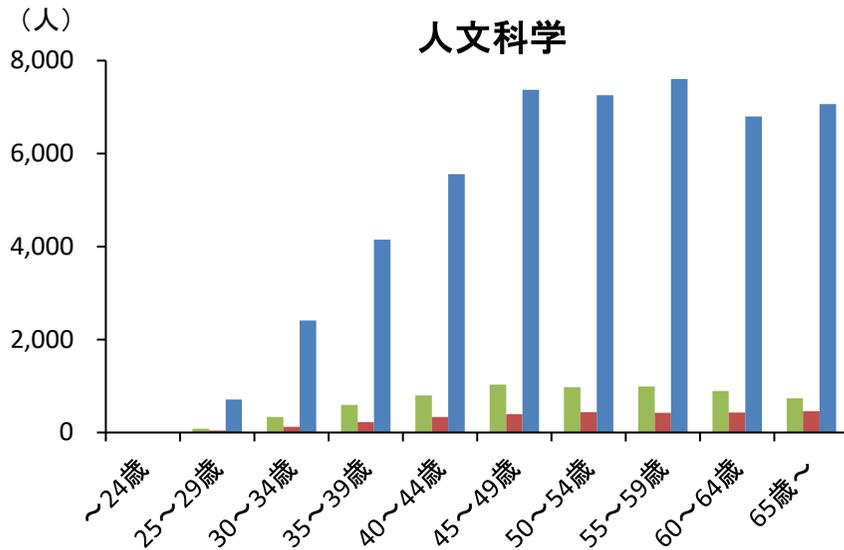
※「その他」は「芸術」、「教育」、「家政」、「商船」、「その他」の分野を含む

兼務教員数（分野・所属別）



大学兼務教員数（令和元年度）

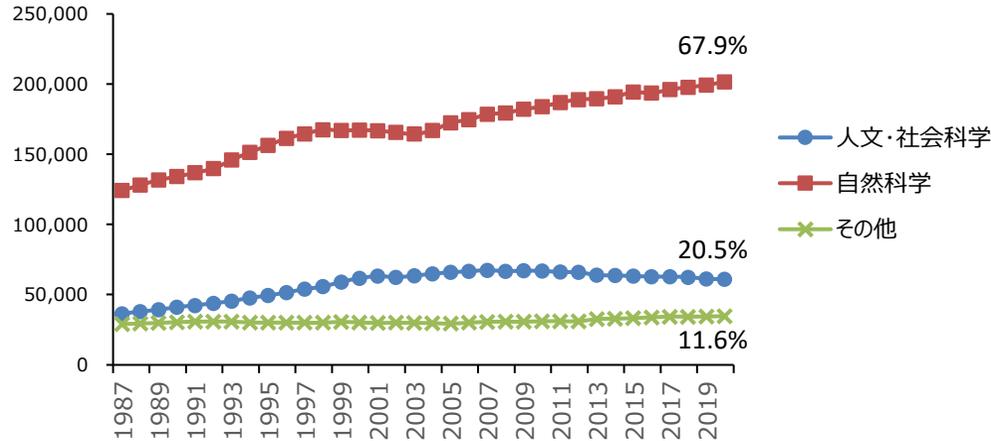
- 兼務教員は、本務教員に比べて、分野によらず年齢層が高い傾向にある
- 特に理学・工学・農学分野では、65歳以上の兼務教員が多い



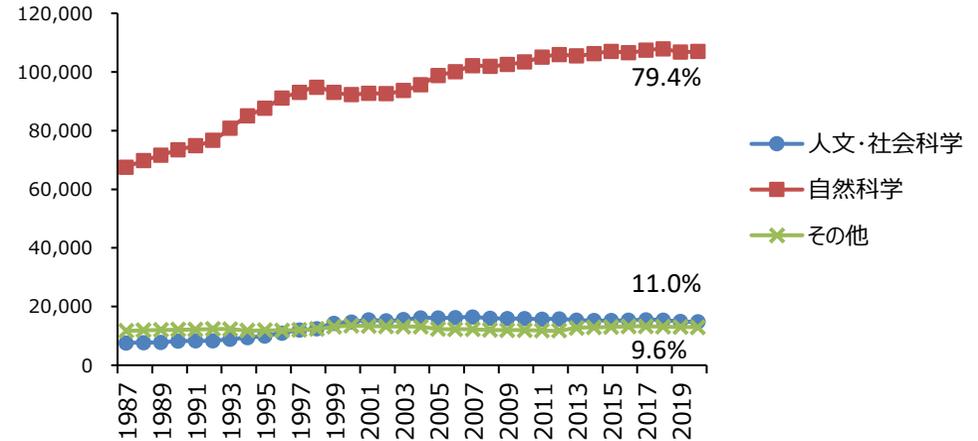
分野別研究者数

- 大学の研究者数は自然科学系を主軸に増加傾向
- 人文・社会科学系は私立大学を中心に増加傾向にあったものの、近年は横ばい、あるいは微減の傾向

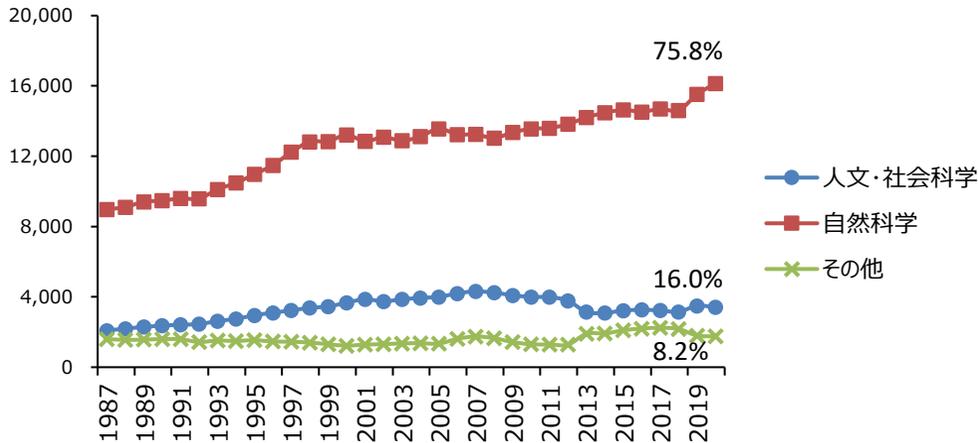
研究者数※（全大学）



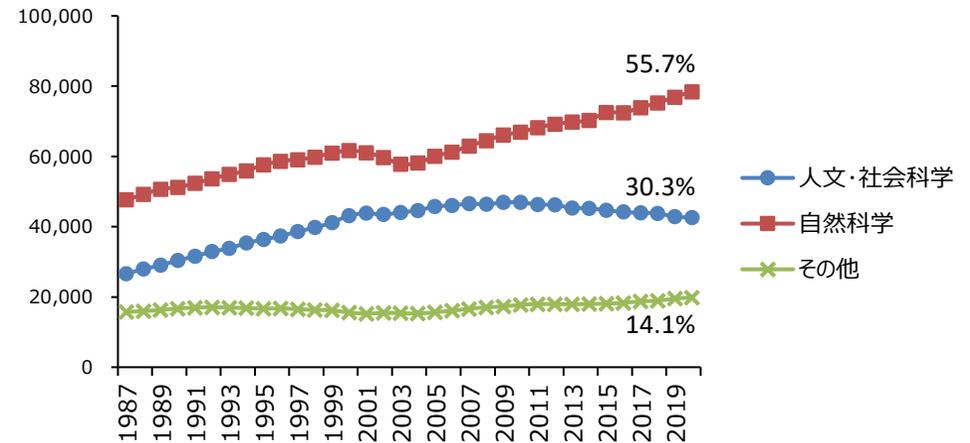
研究者数（国立大学）



研究者数（公立大学）



研究者数（私立大学）

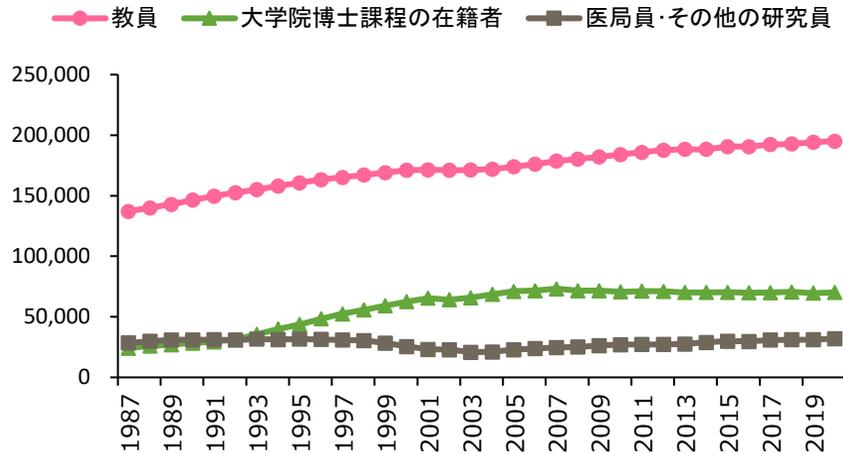


※研究者：大学（短期大学を除く）の課程を修了した者（又はこれと同等以上の専門的知識を有する者）であり、特定の研究テーマをもって研究を行っている者で、本務者（教員、博士課程在籍者、医局員、その他の研究員）もしくは兼務者を指す

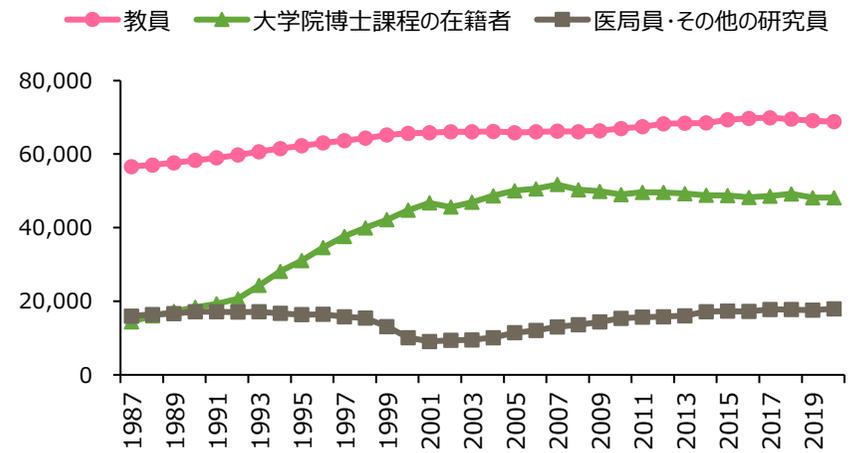
研究本務者の内訳（全分野）

- 国立大学では教員数はほとんど増えず、博士課程在籍者が研究者数を押し上げている
- 国立大学に比べて、公立大学及び私立大学では教員数が増加している

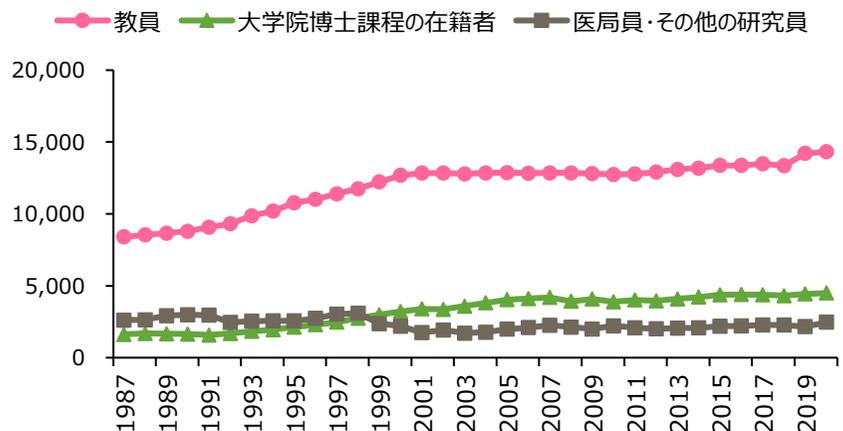
研究本務者の内訳（全大学）



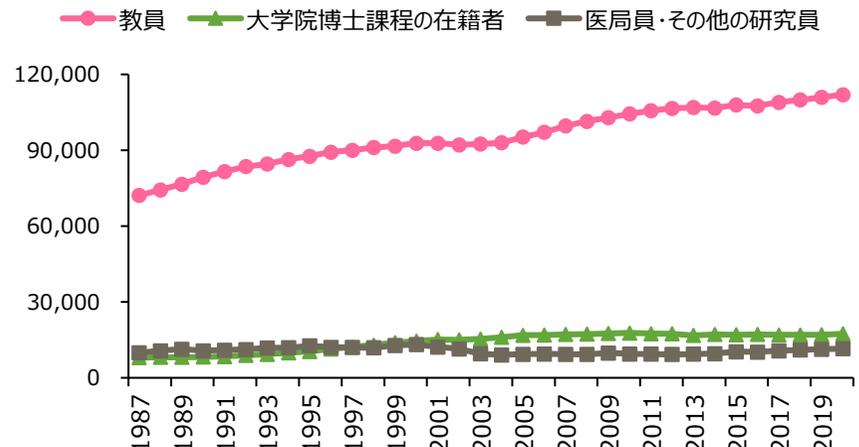
研究本務者の内訳（国立大学）



研究本務者の内訳（公立大学）



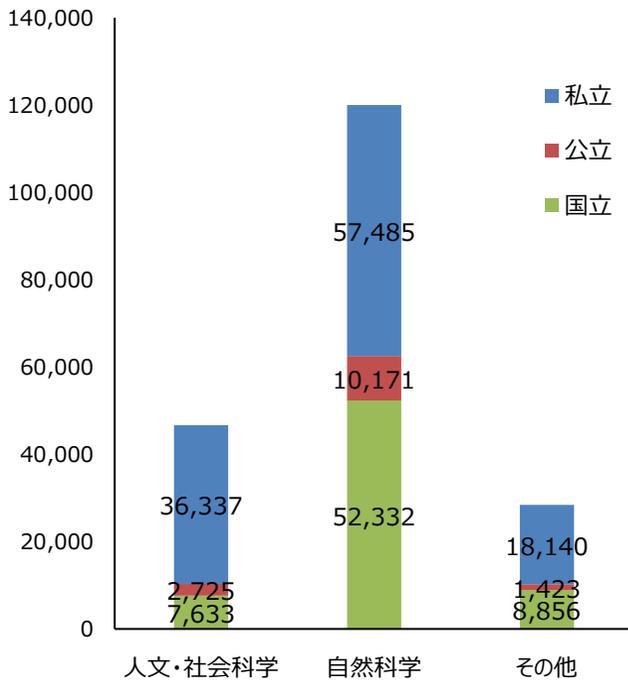
研究本務者の内訳（私立大学）



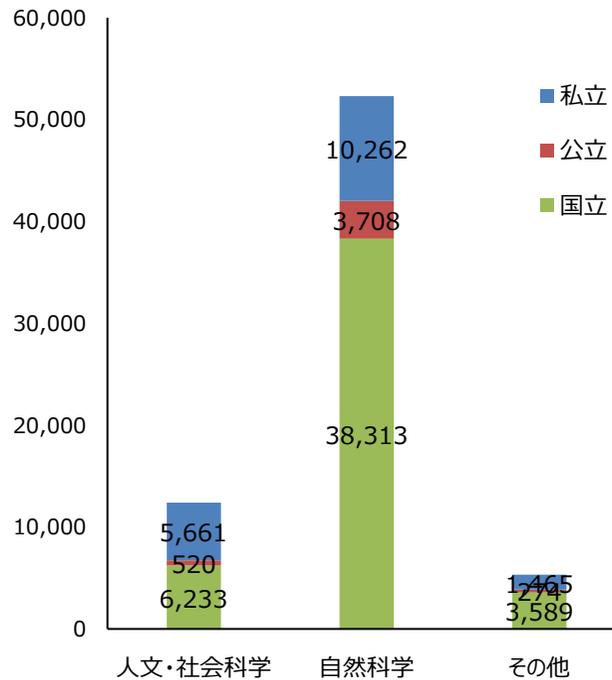
研究本務者の内訳

- 研究本務者の教員については私立大学が占める割合が大きく、人文・社会科学においてより顕著
- 博士課程在籍者及び医局員・その他の研究員については国立大学が占める割合が大きい

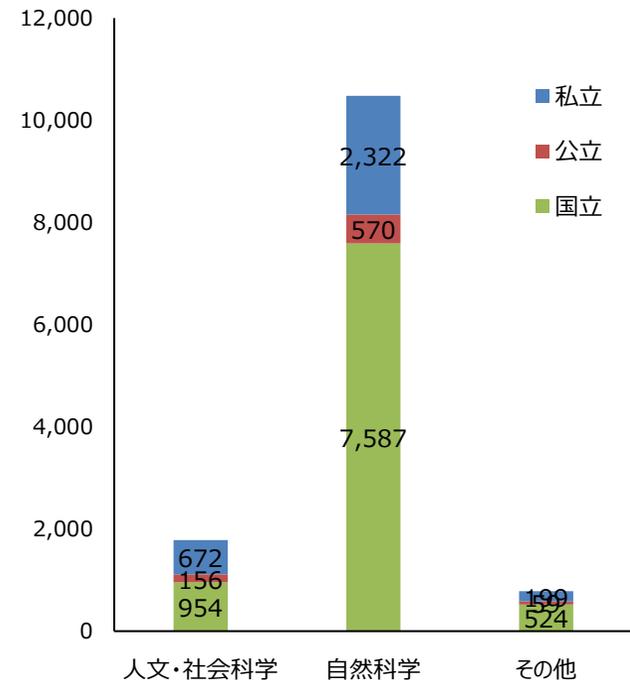
教員（研究本務者）



博士課程在籍者（研究本務者）



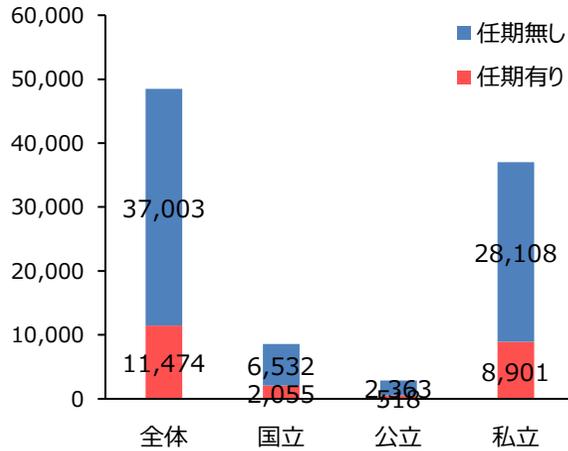
医局員・その他の研究員（研究本務者）



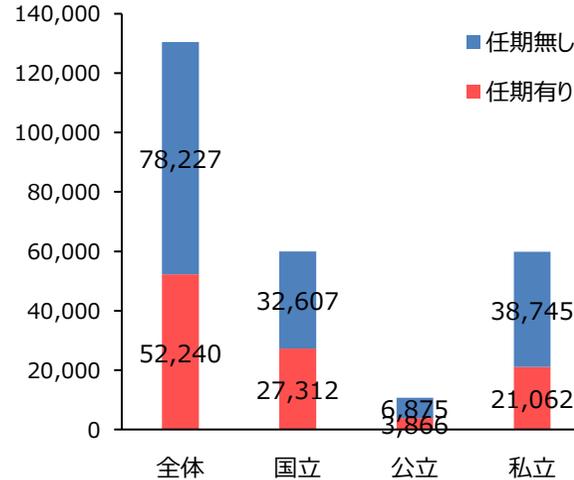
研究本務者の任期の有無

- 人文・社会科学系の研究本務者は、自然科学系に比べて任期無しの高割合が高い
- 国立・公立・私立大学間において、任期の有無の割合については大きな差は見られない

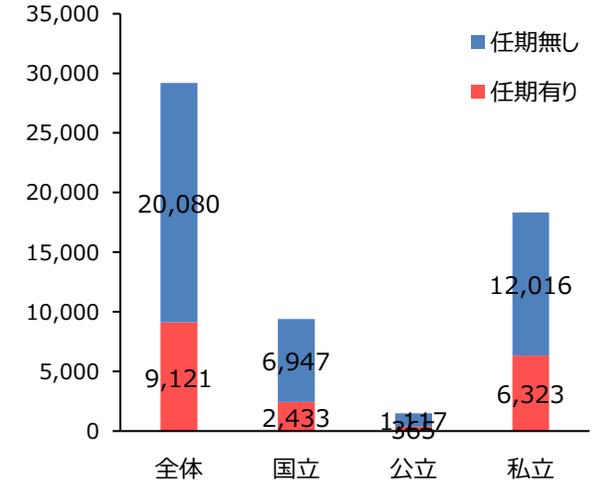
人文・社会科学



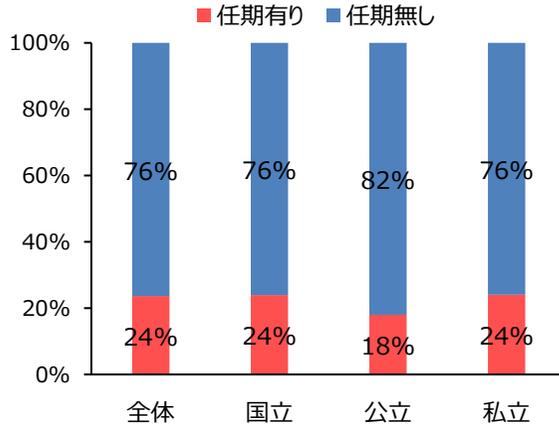
自然科学



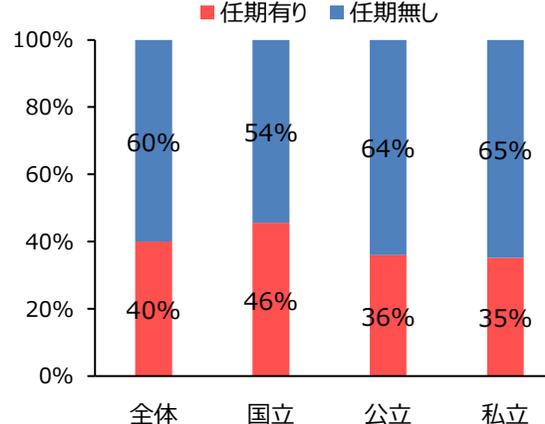
その他



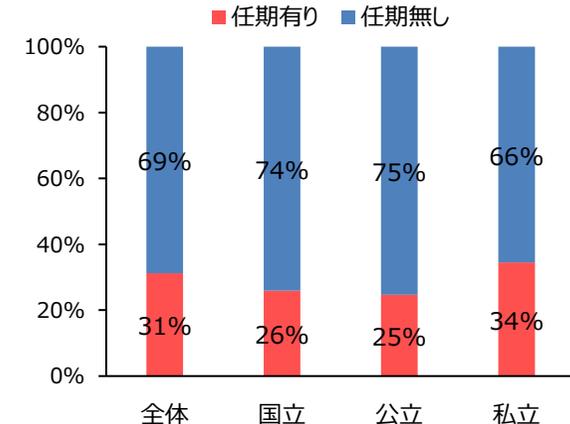
人文・社会科学



自然科学



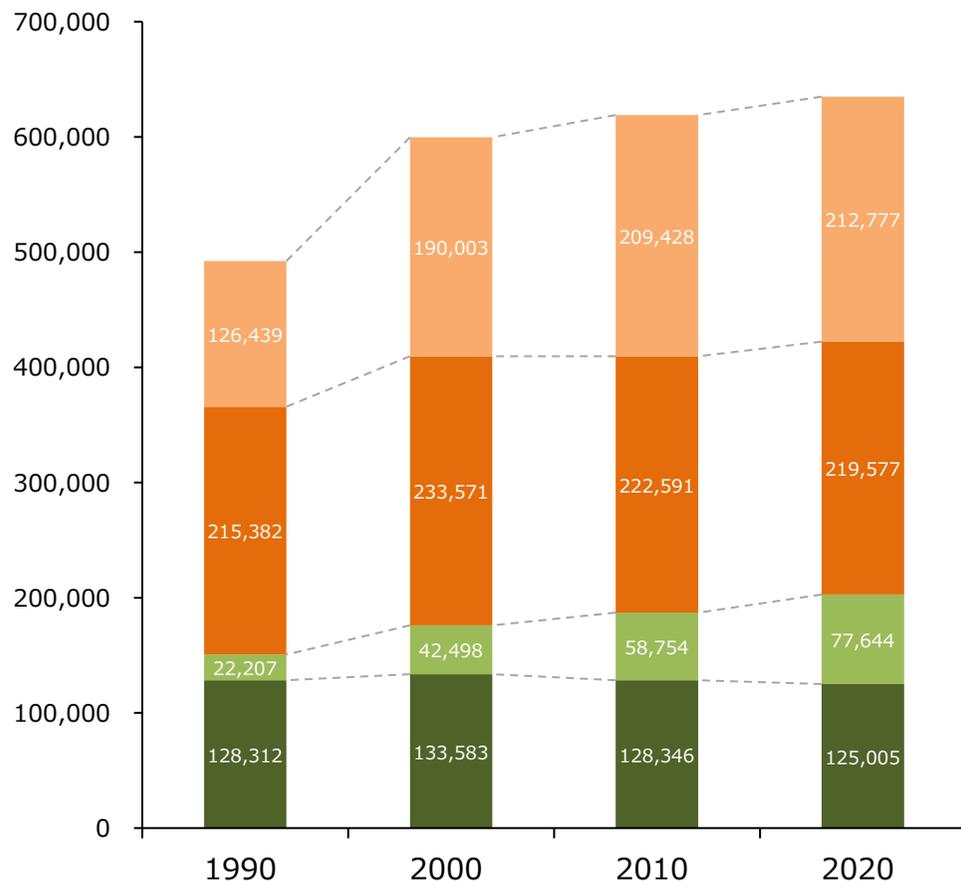
その他



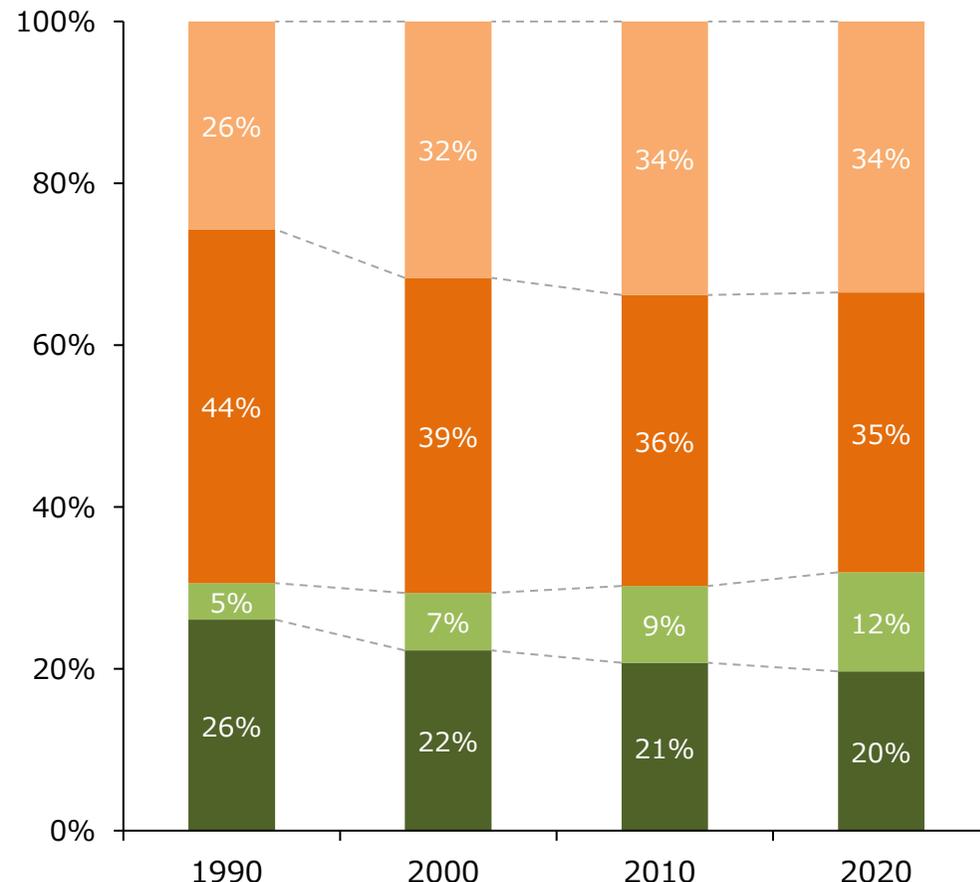
※任期無し: 任期無し研究者の定義は出典元に基づく。
 ※任期有り: 研究本務者の教員及びその他の研究者のうち、任期無し研究者以外の者。

男女別・分野別入学者数（学部）

人文・社会科学・その他、自然科学の男女別入学者数の推移



全体を100%としたときの人文・社会科学・その他、自然科学の男女別入学者の割合の推移

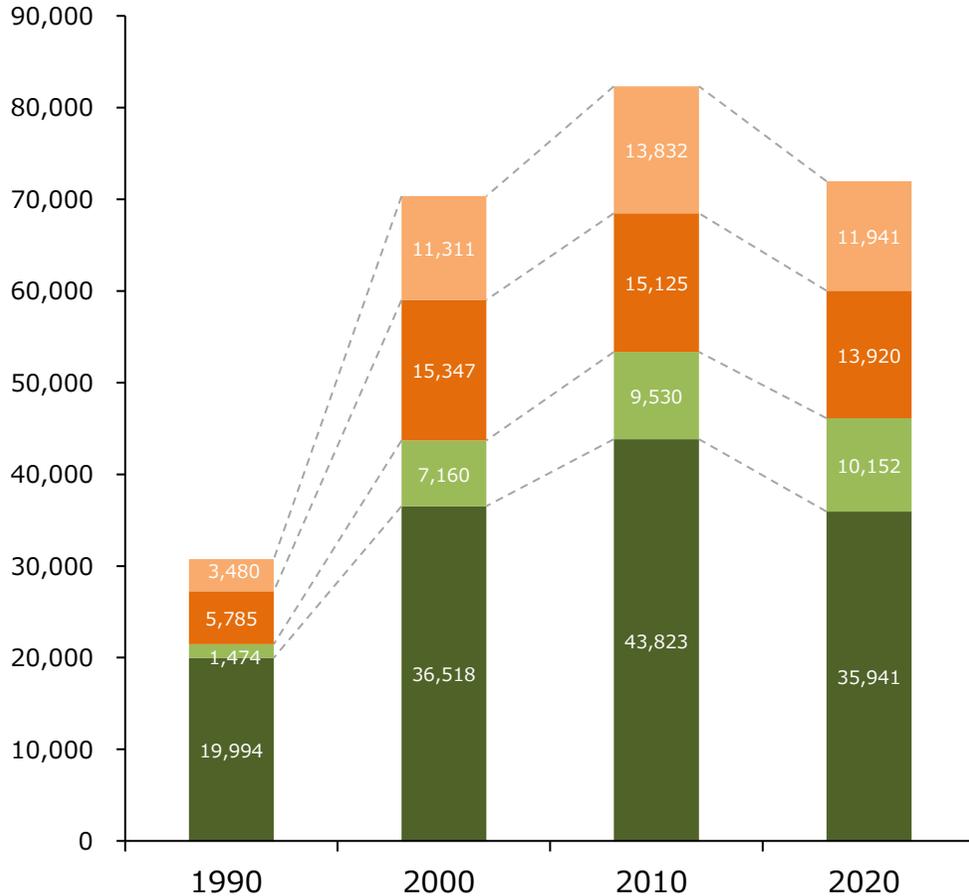


■ 自然科学 (男性) ■ 自然科学 (女性)
■ 人文・社会科学・その他 (男性) ■ 人文・社会科学・その他 (女性)

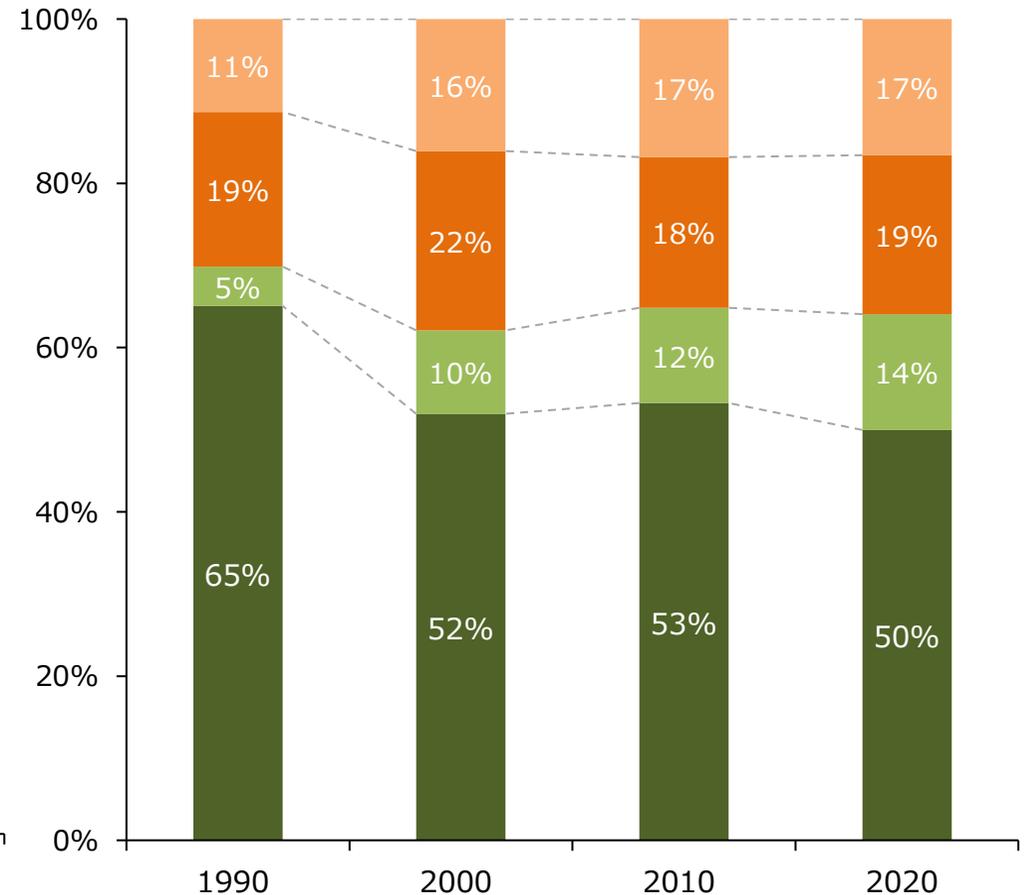
■ 自然科学 (男性) ■ 自然科学 (女性)
■ 人文・社会科学・その他 (男性) ■ 人文・社会科学・その他 (女性)

男女別・分野別入学者数（修士）

人文・社会科学・その他、自然科学の男女別入学者数の推移



全体を100%としたときの人文・社会科学・その他、自然科学の男女別入学者の割合の推移

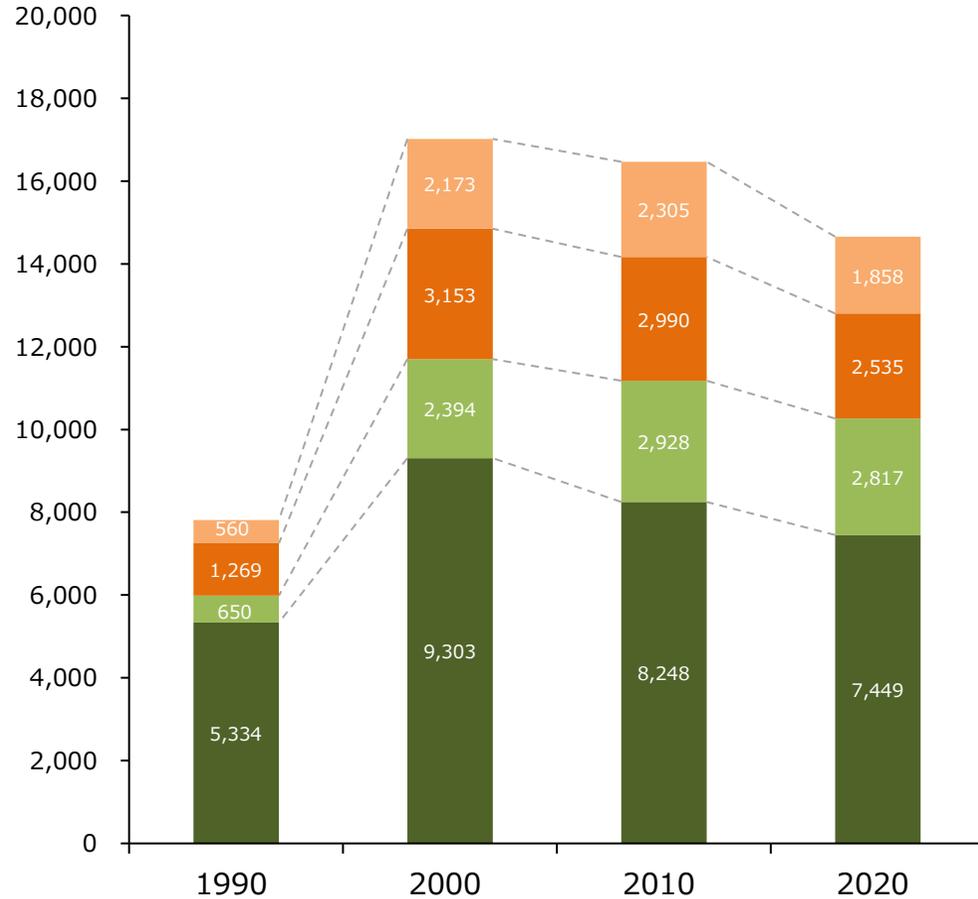


■ 自然科学（男性） ■ 自然科学（女性）
■ 人文・社会科学・その他（男性） ■ 人文・社会科学・その他（女性）

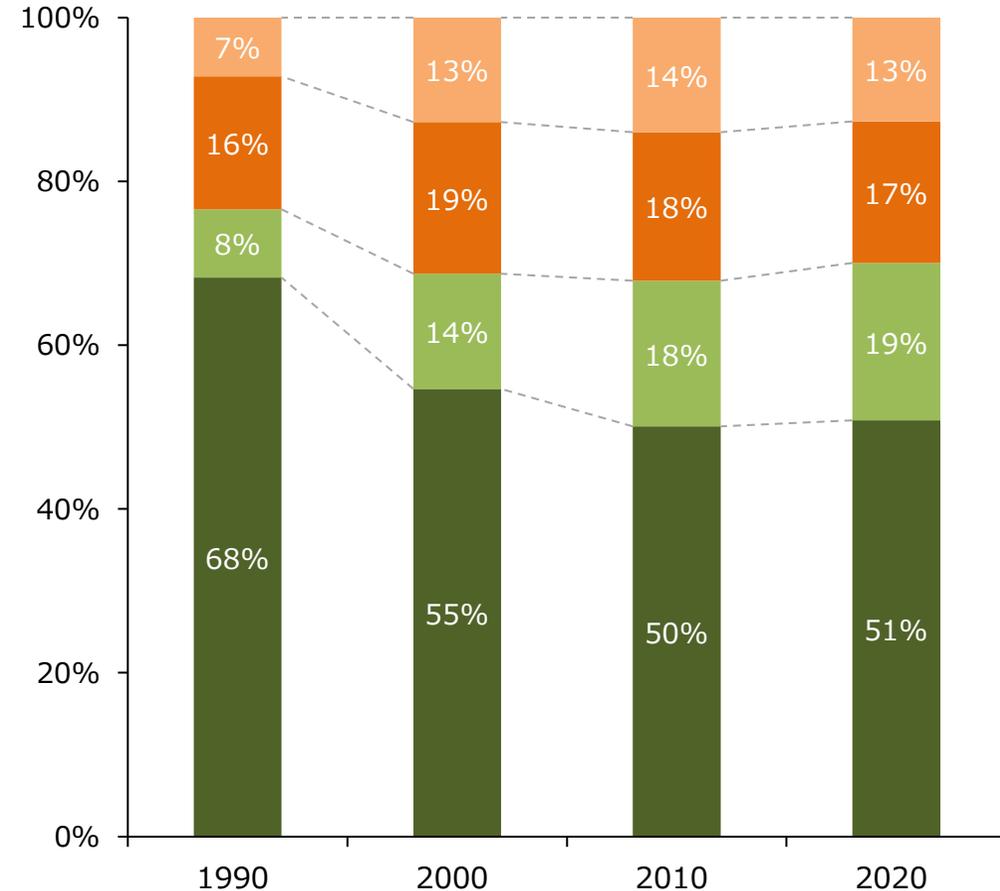
■ 自然科学（男性） ■ 自然科学（女性）
■ 人文・社会科学・その他（男性） ■ 人文・社会科学・その他（女性）

男女別・分野別入学者数（博士）

人文・社会科学・その他、自然科学の男女別入学者数の推移



全体を100%としたときの人文・社会科学・その他、自然科学の男女別入学者の割合の推移

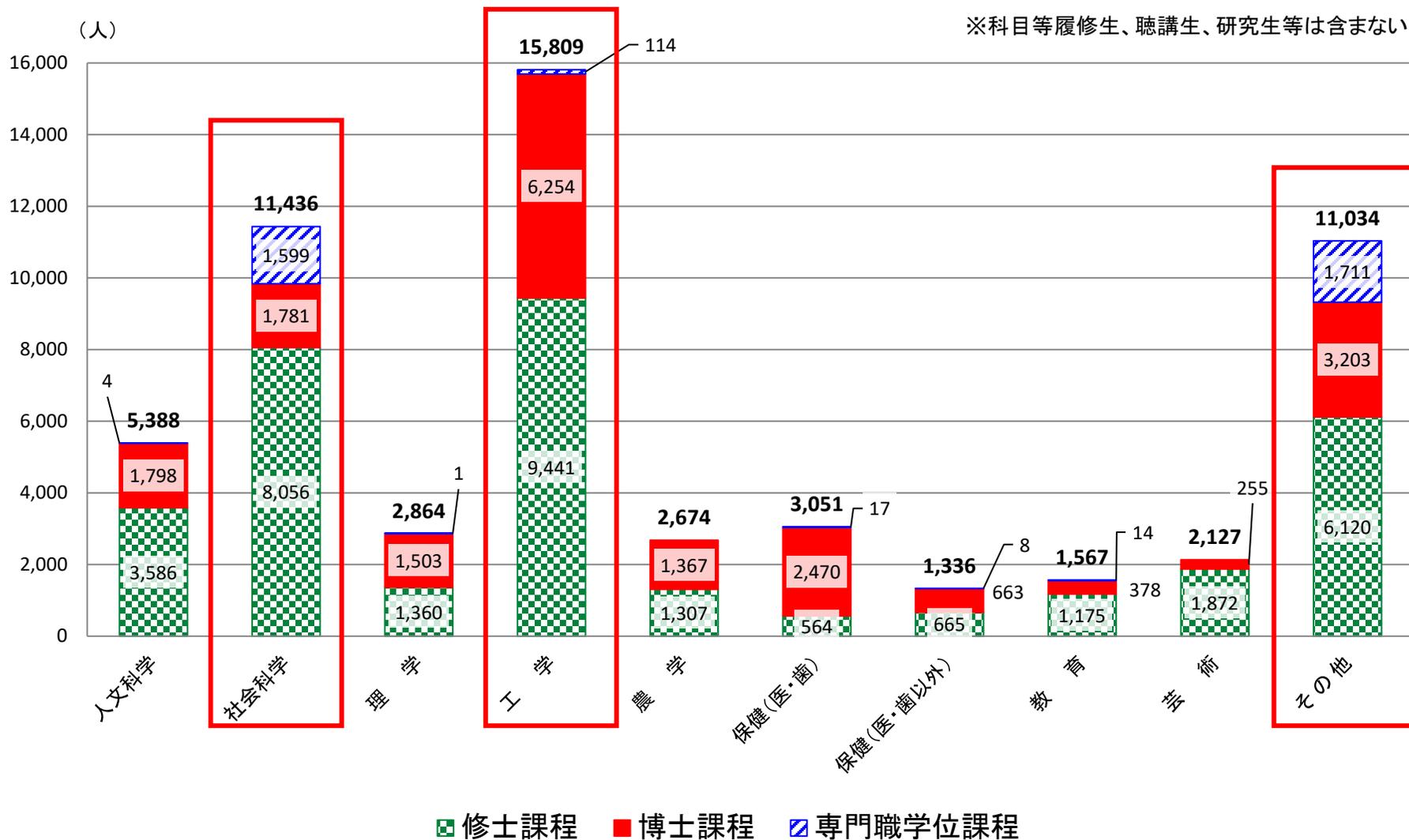


■ 自然科学 (男性) ■ 自然科学 (女性)
■ 人文・社会科学・その他 (男性) ■ 人文・社会科学・その他 (女性)

■ 自然科学 (男性) ■ 自然科学 (女性)
■ 人文・社会科学・その他 (男性) ■ 人文・社会科学・その他 (女性)

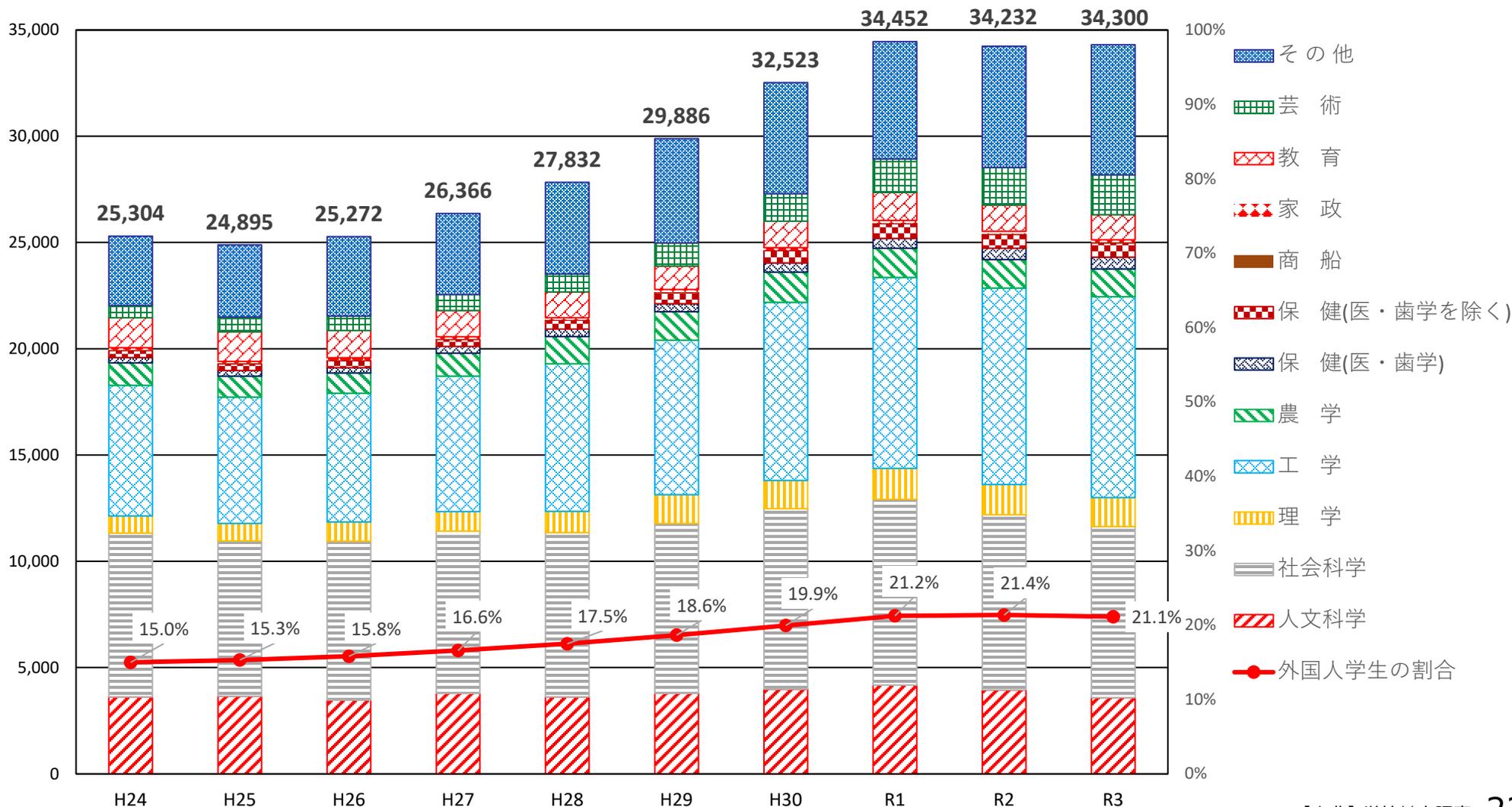
大学院への専攻分野別の外国人学生の受入れ状況

- 大学院への外国人学生の受入れは、「工学」、「社会科学」、「その他」の分野で多くなっている。



修士課程に在籍する外国人学生数（分野別推移）

- 近年、修士課程における外国人学生数及び外国人学生の割合は増加傾向にあり、令和2年の外国人学生数は平成24年の約1.4倍である。
- 分野では「社会科学」と「工学」の外国人学生数が多く、全体の約5割を占める。



博士課程に在籍する外国人学生数（分野別推移）

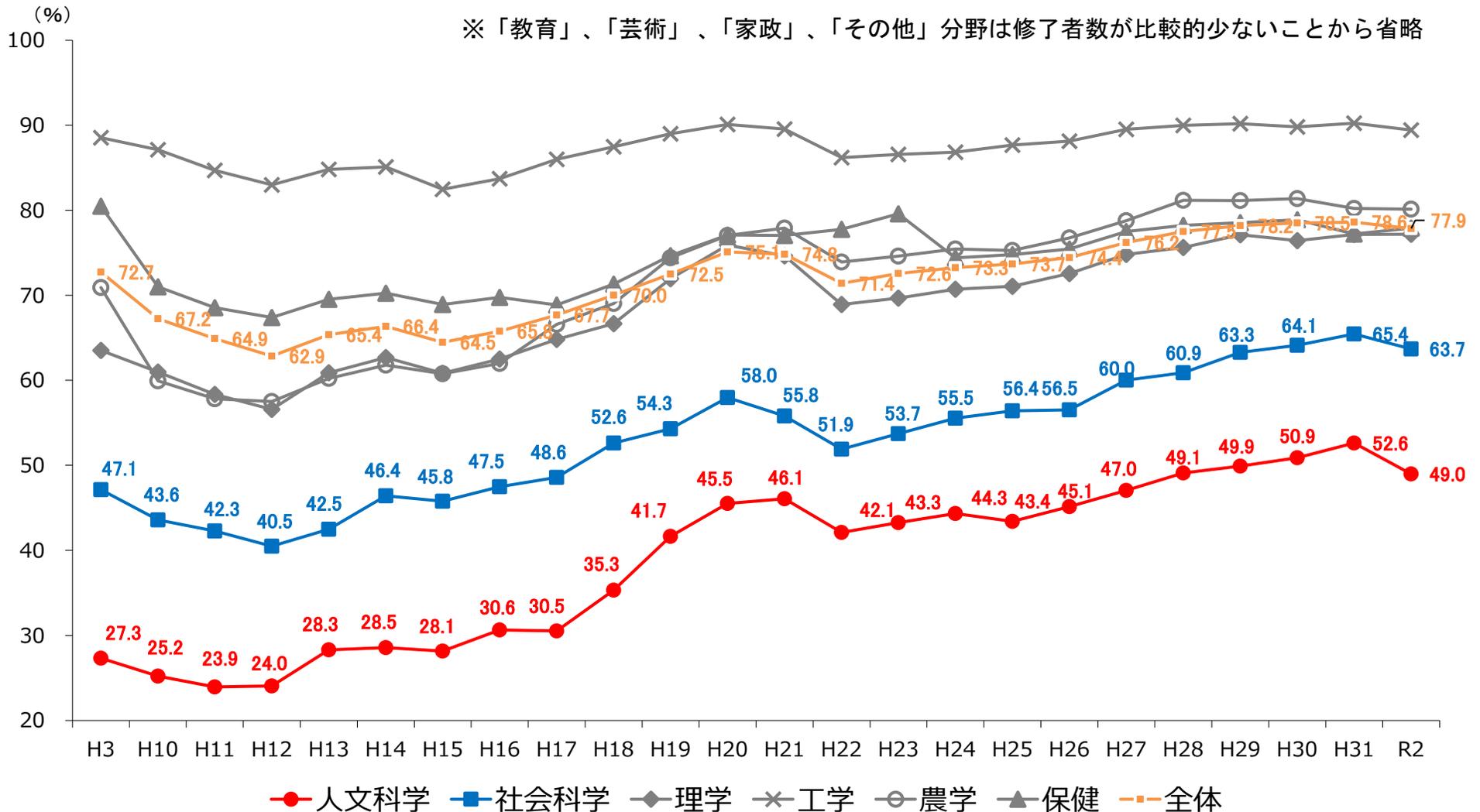
- 近年、博士課程における外国人学生数及び外国人学生の割合は増加傾向にある。
- 分野では「工学」の外国人学生数が多く、全体の約3割を占める。



2. キャリアパス

修士課程修了者の就職率の推移（分野別）

- 人文科学、社会科学分野の修士課程修了者の就職率は、他の分野に比べて低い傾向が続いている。近年は緩やかな上昇傾向が見られていたが、R2年度は下落した。

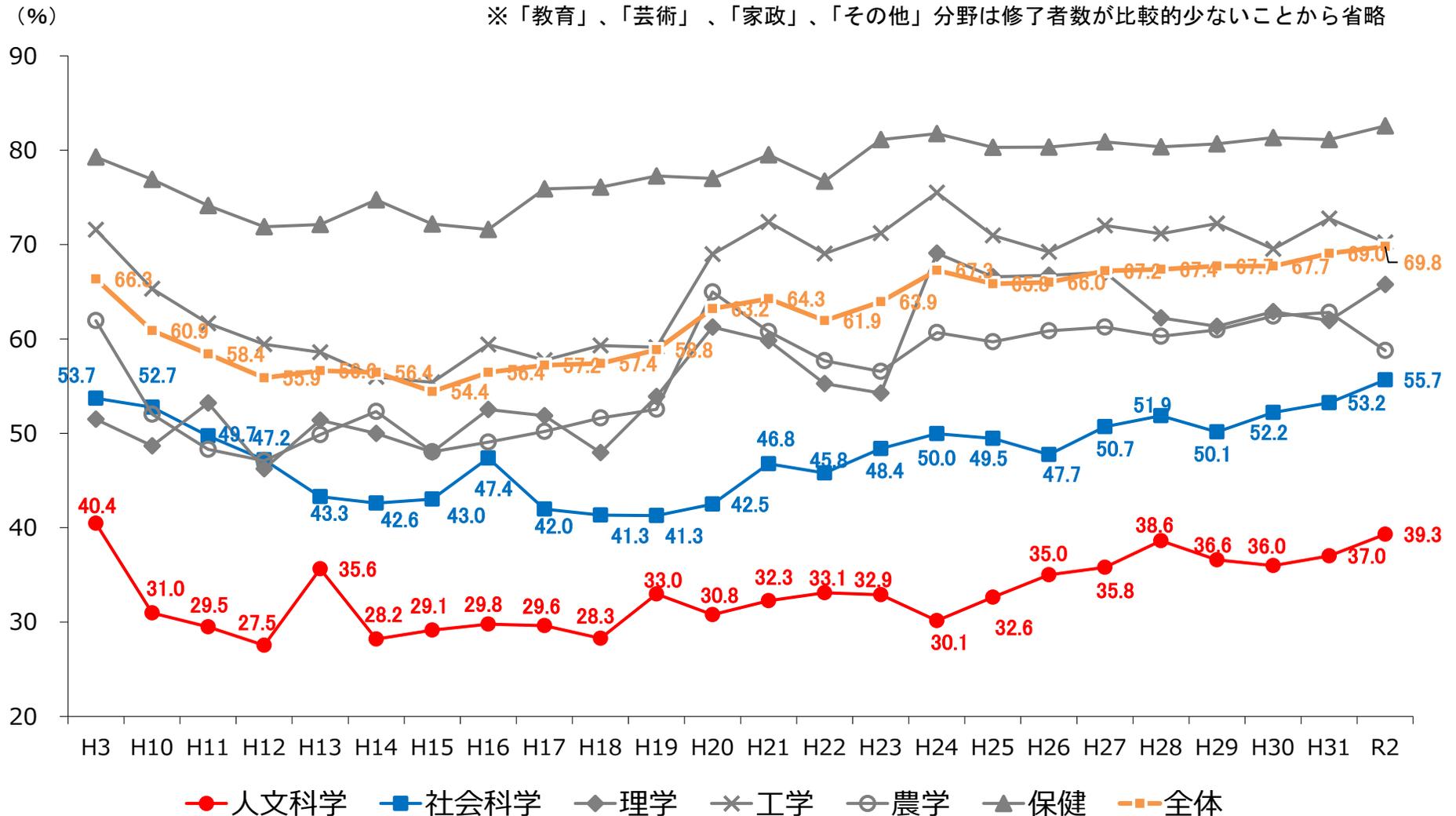


※各年度は修了年度

出典：学校基本調査

博士課程修了者の就職率の推移（分野別）

- 人文科学、社会科学分野の博士課程修了者の就職率は、他の分野に比べて低い傾向が続いている。



※各年度は修了年度

出典：学校基本調査

人文科学系大学院生のキャリア形成状況

大学等教員等以外の就職者等

大学教員、高専教員、短大教員を除く就職者数

博士 315
(修了者の33.3%)

※有期雇用労働者、
臨時労働者等を含む

修士 1,955
(修了者の49.8%)

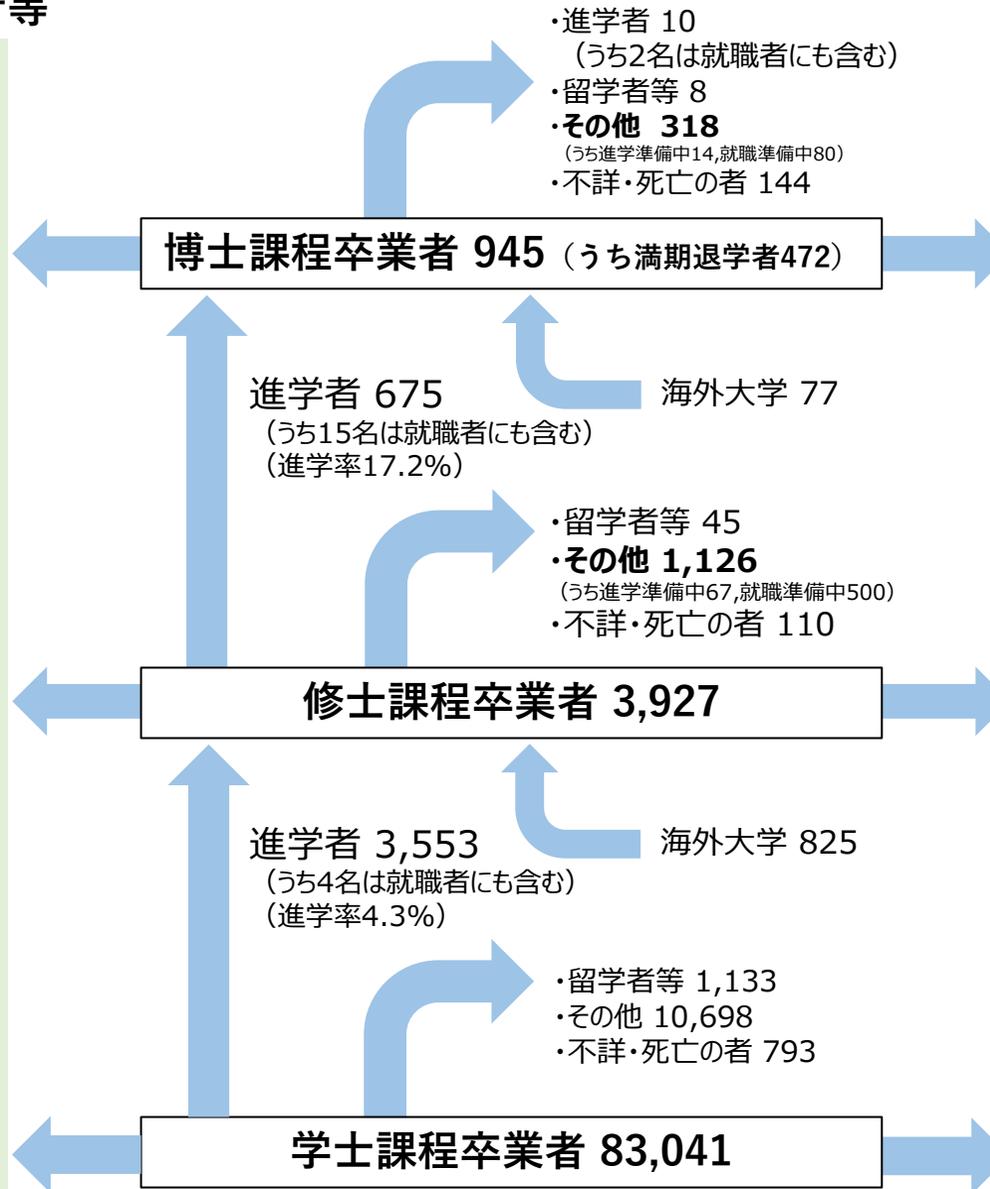
学士 66,850
(修了者の80.5%)

大学教員等

博士
大学教員 147
(修了者の15.6%)
高専教員 1
短大教員 4

修士
大学教員 24
(修了者の0.61%)
高専教員 4
短大教員 3

学士
大学教員 5
高専教員 12
短大教員 1

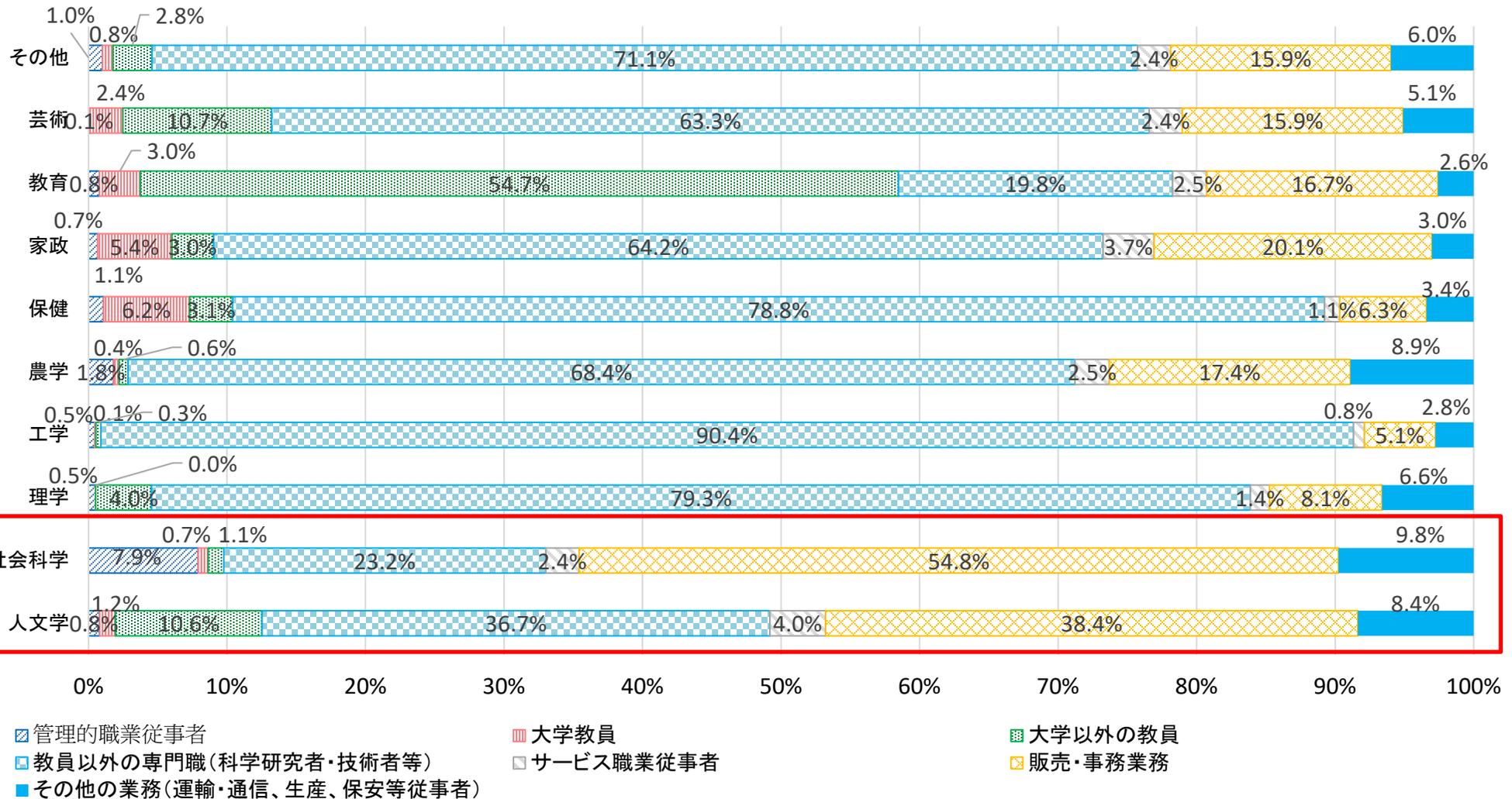


(注) 社会人学生の入学者数は記載されていない。満期退学者も便宜的に卒業者と見なしている。

【出典】令和3年度学校基本調査より作成 28

修士課程修了後の就職先（分野別・職業別）

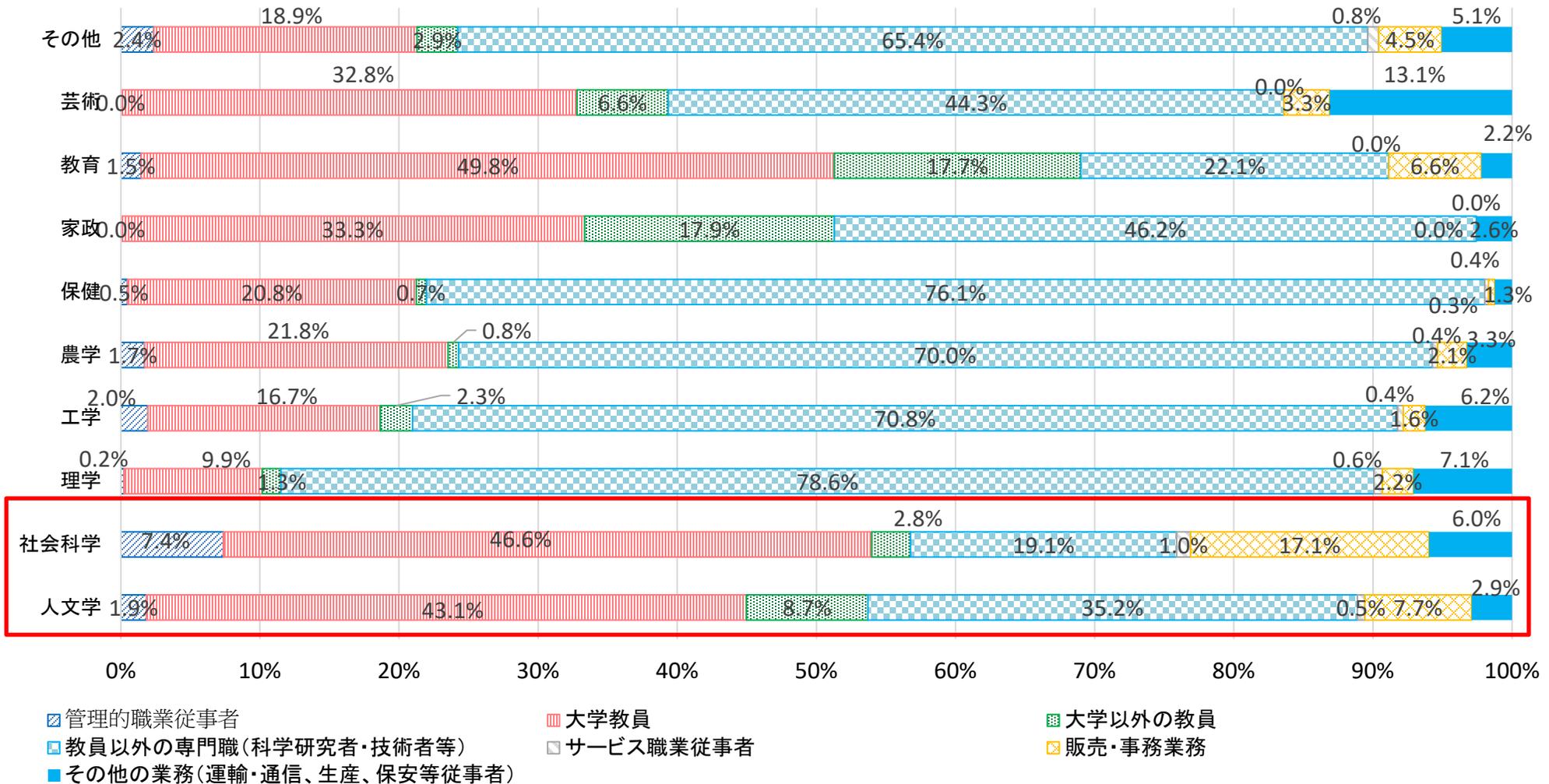
- 理工農・保健分野においては、修士課程修了後、技術者等として専門的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては販売・事務業務に従事する者の割合が高い。



※ 所定の単位を取得し、学位を取得せず退学した者(いわゆる満期退学者)の数を含む

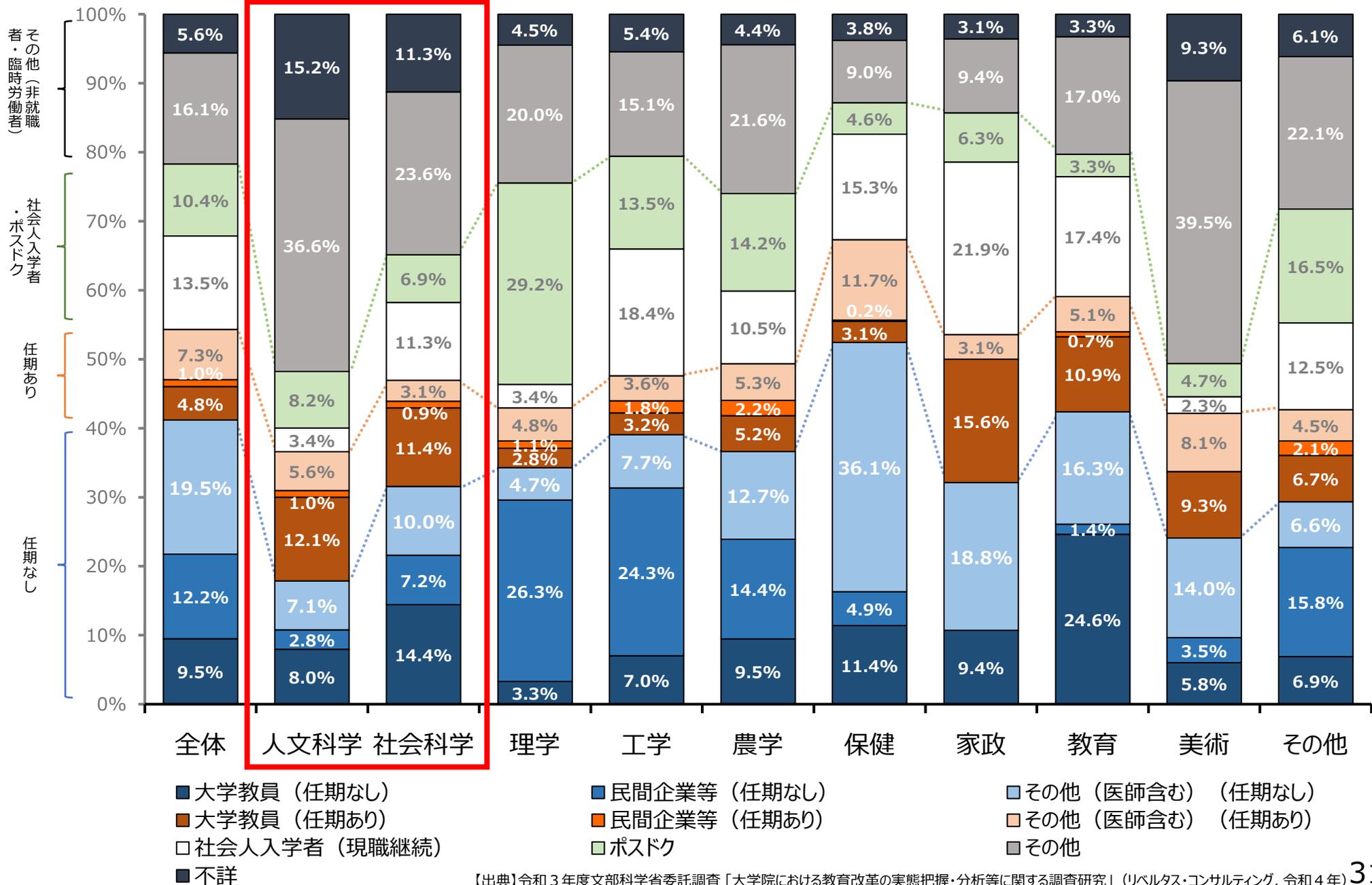
博士課程修了後の就職先（分野別・職業別）

- 理工農・保健分野においては、博士課程修了後、大学教員以外の専門的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては大学以外も含めて教員になる者の割合が高い。



※ 所定の単位を取得し、学位を取得せず退学した者（いわゆる満期退学者）の数を含む

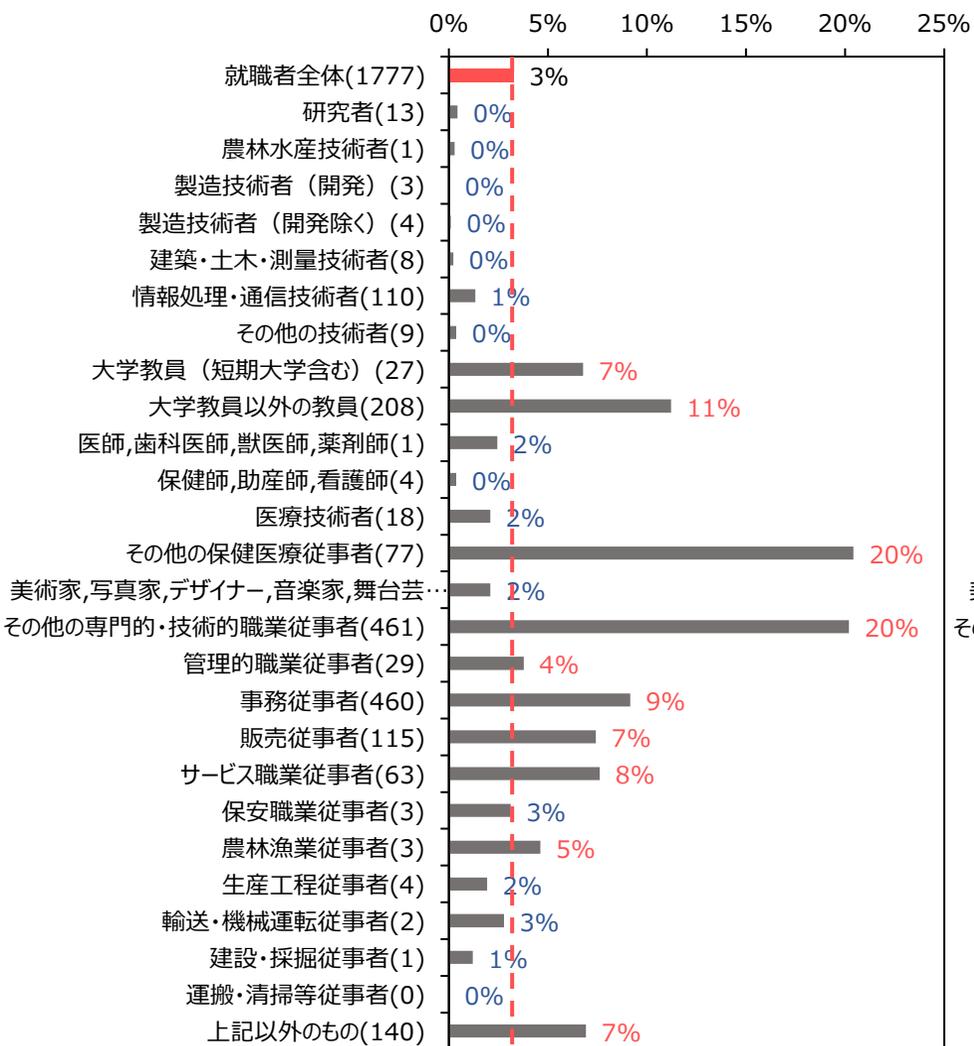
博士後期課程修了後の進路



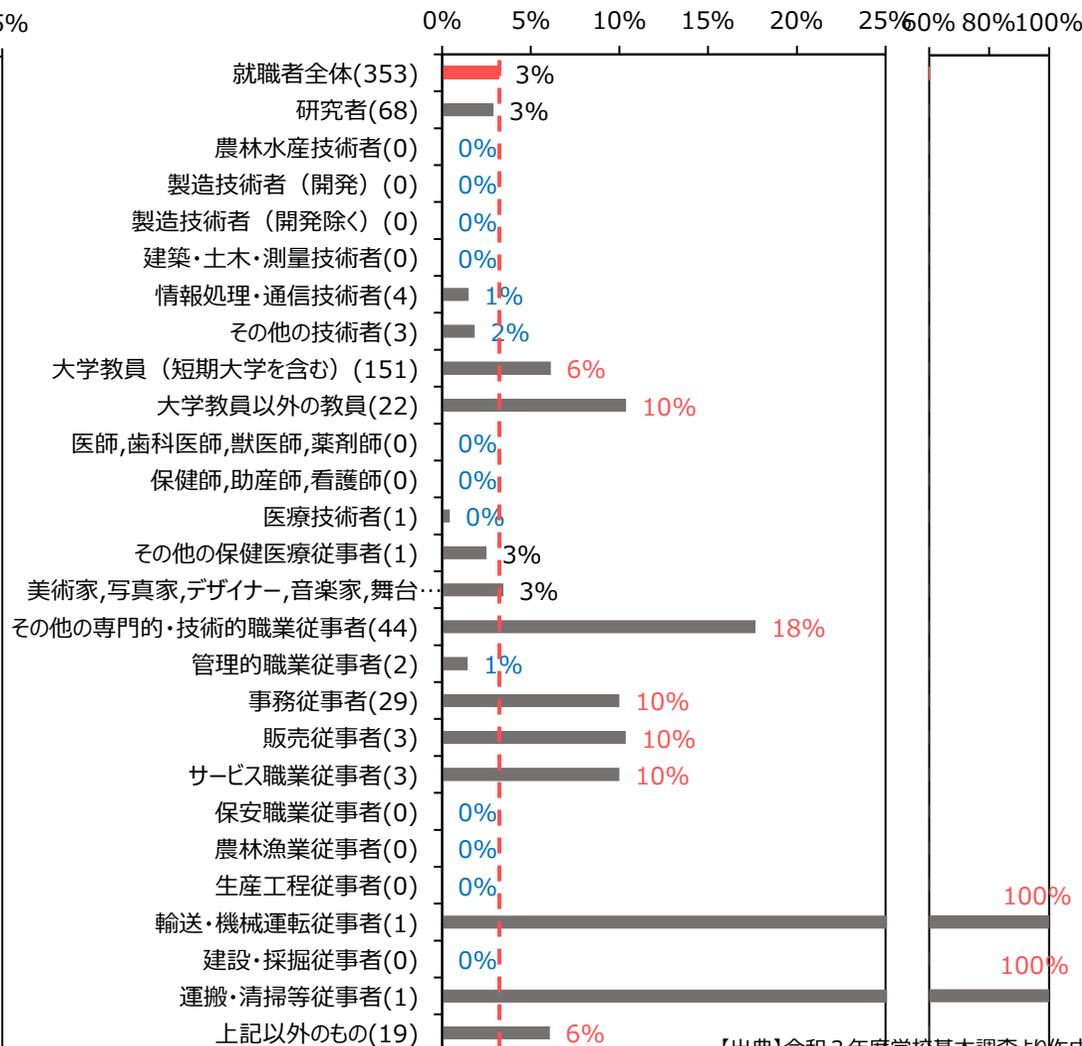
就職先・課程ごとの人文科学系の割合（令和3年度）

全分野の修了者に占める人文科学系修了者の割合と、各職業に就職した全分野の修了者に占める人文科学系修了者の割合を比較。分野相対的に人文科学系修了者の就職者数が多い職業、少ない職業を可視化。

職業別 全分野の**修士課程**修了就職者に占める**人文科学系**の割合（カッコ内は人数）



職業別 全分野の**博士課程**修了就職者に占める**人文科学系**の割合（カッコ内は人数）



【出典】令和3年度学校基本調査より作成

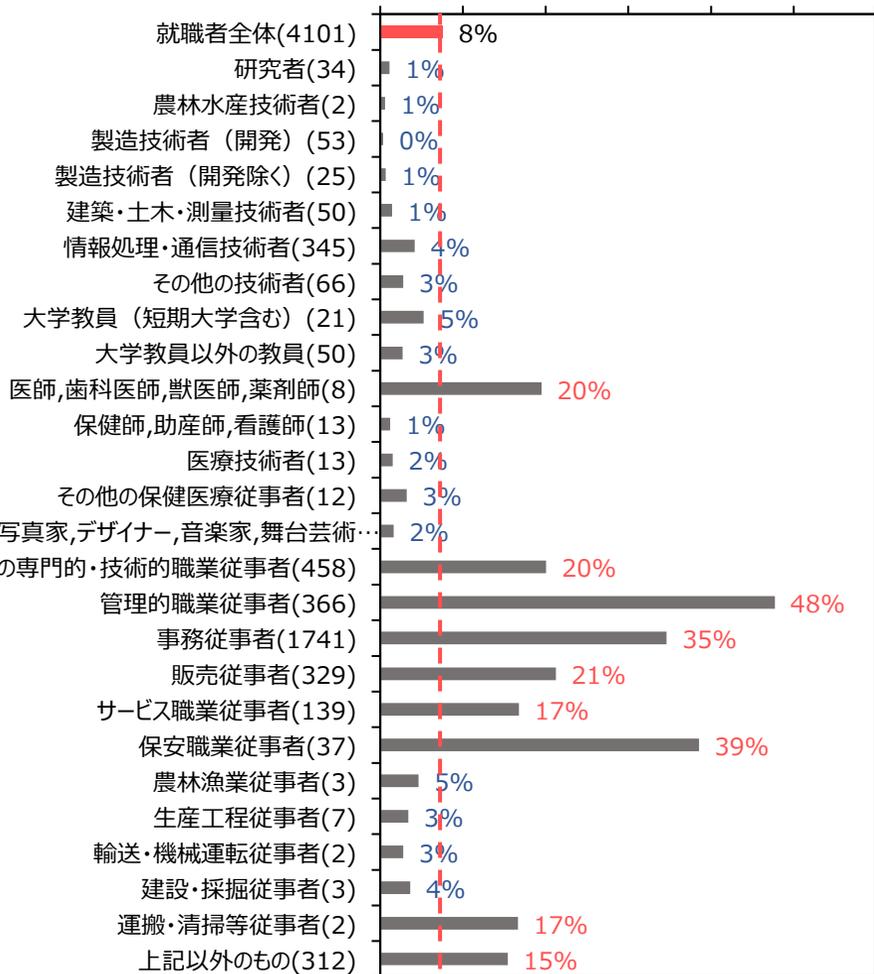
- 人文科学系の修士卒就職者は、平均と比べてその他の保健医療従事者や、その他の専門的・技術的職業従事者、大学以外の教員、事務従事者などに多い。
- 博士卒就職者では、平均と比べてその他の専門的・技術的職業従事者や事務従事者、販売従事者、サービス職業従事者、大学以外の教員などに多い。
- 大学教員に就職する割合は平均と比べて修士、博士ともにやや高い。

就職先・課程ごとの社会科学系の割合（令和3年度）

全分野の修了者に占める社会科学系修了者の割合と、各職業に就職した全分野の修了者に占める社会科学系修了者の割合を比較。分野相対的に社会科学系修了者の就職者数が多い職業、少ない職業を可視化。

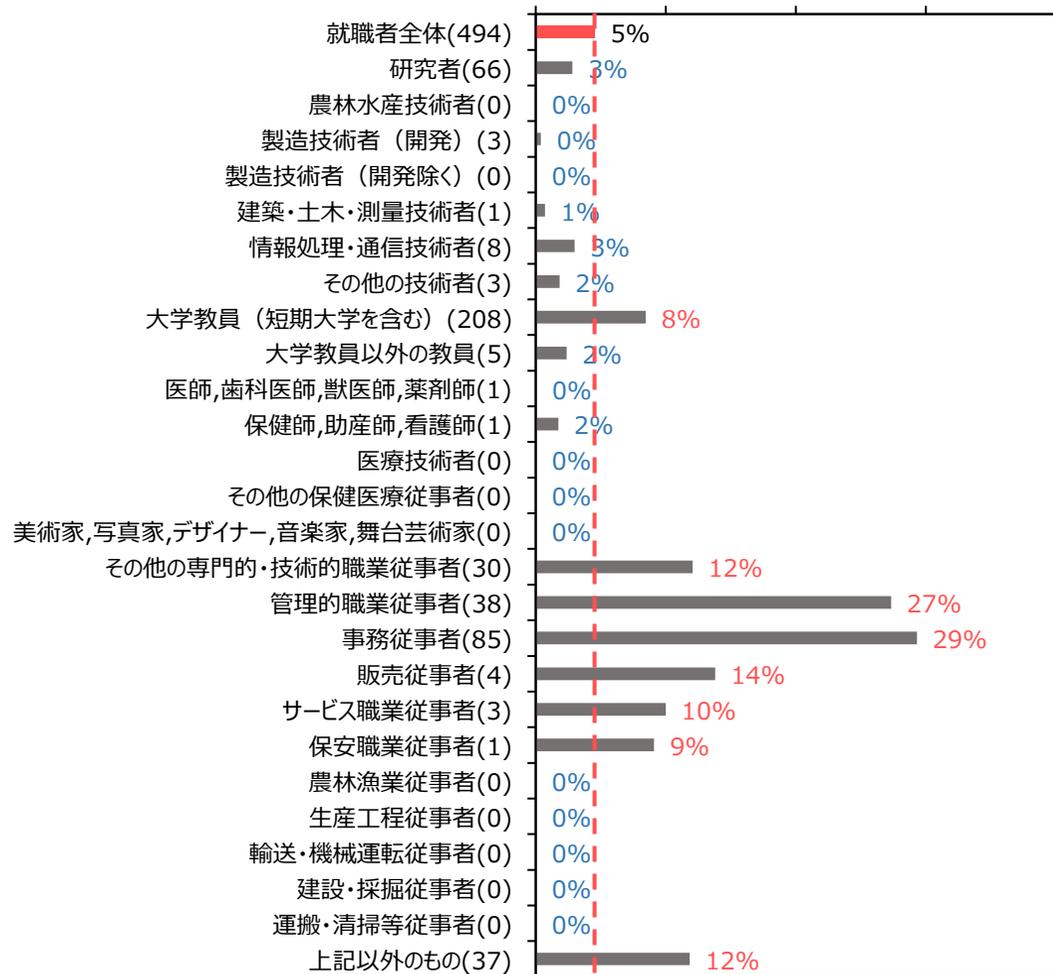
職業別 全分野の**修士課程**修了就職者に占める**社会科学系**の割合（カッコ内は人数）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



職業別 全分野の**博士課程**修了就職者に占める**社会科学系**の割合（カッコ内は人数）

0% 10% 20% 30% 40%



【出典】令和3年度学校基本調査より作成

- 社会科学系の修士卒就職者は、平均と比べて管理的職業従事者や保安職業従事者、事務従事者、その他の専門的・技術的職業従事者などに多い。
- 博士卒就職者では、平均と比べて事務従事者や管理的職業従事者、販売従事者やその他の専門的・技術的職業従事者などに多い。
- 大学教員に就職する割合は平均と比べて修士では低く、博士ではやや高い。

(補足) 職業の具体例

研究者：

公的研究機関、大学附属研究所又は企業の研究所・試験所・研究室などの試験・研究施設において、自然科学、人文・社会科学の分野の基礎的又は応用的な学問上・技術上の問題を解明するため、新たな理論・学説の発見又は技術上の革新を目標とする専門的・科学的な仕事に従事するもの。
※研究所・試験所・研究室などの研究施設において、専ら試験・研究に関連する技能的な仕事に従事するものは除く。大学教授、大学附属研究所教授は教員に含む。

大学教員：大学学長、大学副学長、大学教授、大学准教授、大学講師、大学助教、学部長、大学院教授、大学附属研究所教授、短期大学教授、医師（大学教授）、医科大学教授、歯科大学教授、獣医科大学教授等。

大学教員以外の教員：

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校・高等専門学校・専修学校・各種学校・その他の教育施設において、幼児・児童・生徒・学生の教育・養護に従事するもの。教育に従事する大学以外の学長・校長、部局長、少年院・少年鑑別所における教育従事者等。
※各種学校以外において、教養・レクリエーションなどのための指導に従事するものや個人教授所（塾）や個人家庭において学習指導に従事するもの、児童福祉施設において児童の保育・生活指導などに従事するものは含まない。

その他の保健医療従事者：

専門的・技術的な医療・保健衛生の仕事に従事するもののうち、医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者以外のもの。栄養士、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師、医療監視員、薬事監視員等。

その他の専門的・技術的職業従事者：

裁判官、司法書士、司法修習生、行政書士、公認会計士、税理士、宗教家、小説家、作家、著述家、記者、アナウンサー、編集者、社会福祉事業専門員、職業スポーツ家、個人教師（塾講師）、通訳、図書館司書、学芸員、職業・教育カウンセラー等。

管理的職業従事者：

事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制など、経営体の全般又は課（課相当を含む）以上の内部組織の経営・管理に従事するもの。公務員、議員、法人・団体役員、法人・団体管理職員等。

サービス職業従事者：

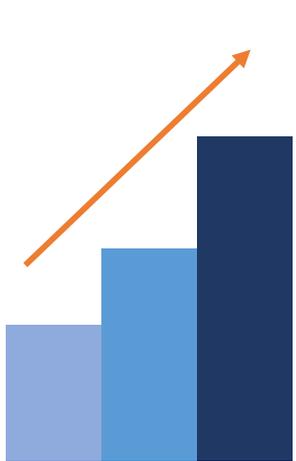
個人の家庭における家事サービス、介護・身の回り用務・調理・接客・娯楽など個人に対するサービス、及び他に分類されないサービスの仕事に従事するもの。介護職員、歯科助手、理容師、飲食物調理従事者、接客職業従事者等。

保安職業従事者：

国家の防衛、社会・個人・財産の保護、法と秩序の維持などの仕事に従事するものをいう。自衛官、防衛大学校・防衛医科大学校学生、警察官、海上保安官、看守、消防員等。

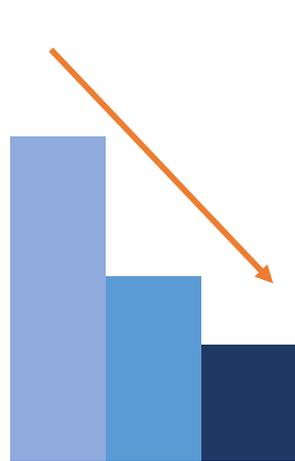
課程・分野ごとの就職先の割合

- 各分野・各課程ごとに、就職者の何パーセントがそれぞれの職業に就いているか、その割合を学士卒、修士卒、博士卒で比較。
- 以下はグラフの形状の分類と推察される進学に伴う就職動向の変化。



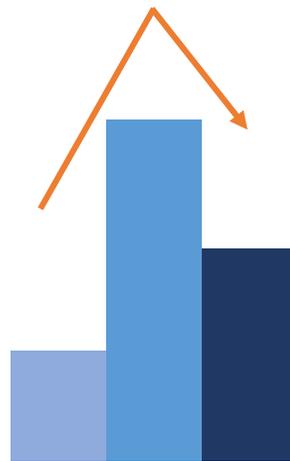
学士 修士 博士

学位と就職者
割合が正に相関



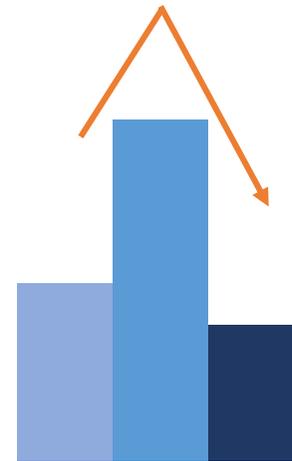
学士 修士 博士

学位と就職者
割合が負に相関

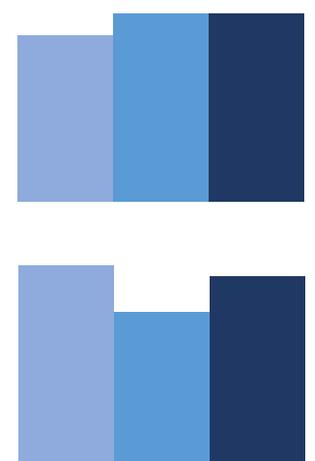


学士 修士 博士

修士において就職者割合が高い
(博士まで進学しなくとも就職できる等)



学士 修士 博士



学士 修士 博士

その他

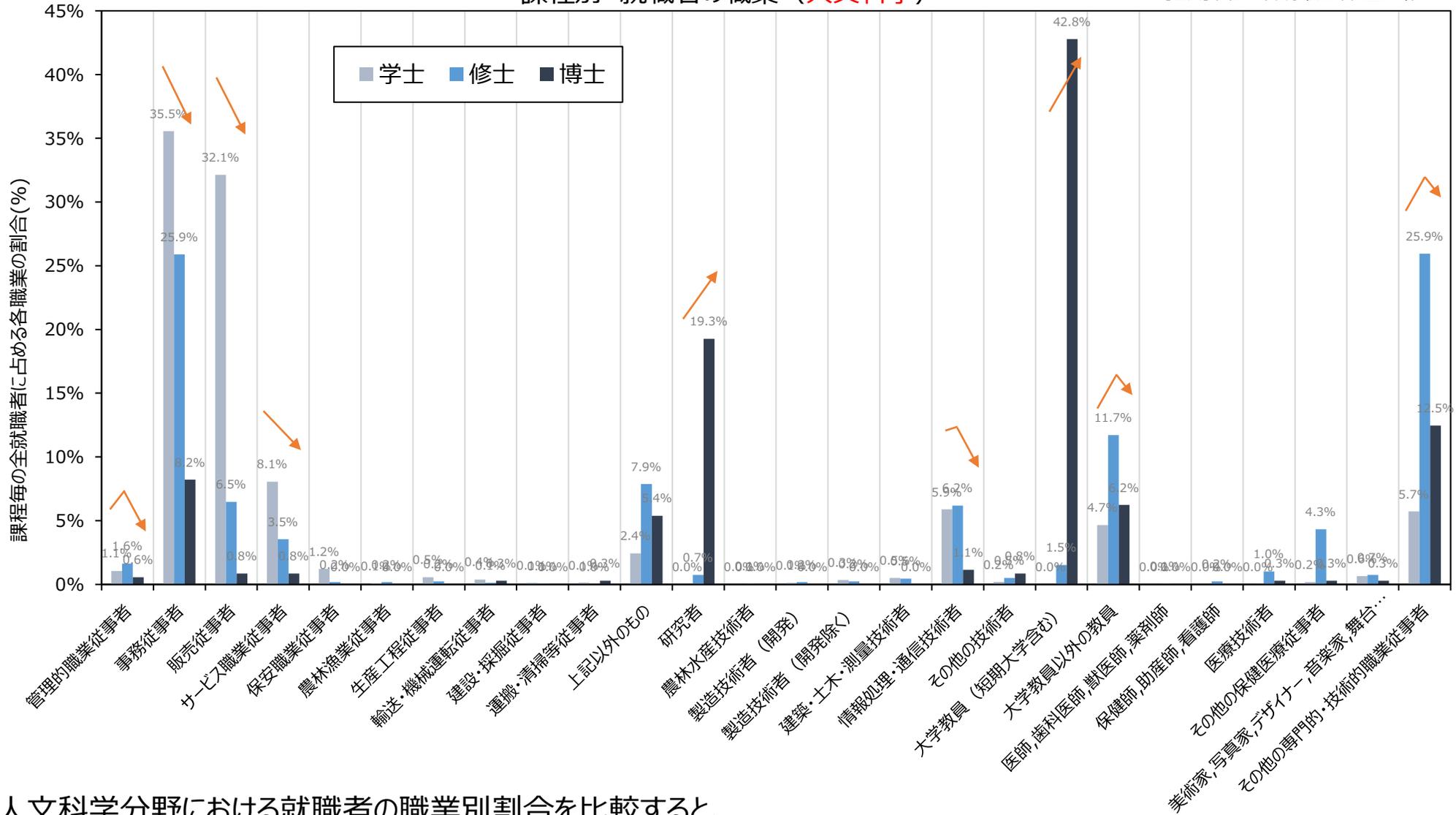
<留意事項>

- あくまでも傾向把握に向けた分析であり、精度や進学の優位性が必ずしも担保されたものではない
- 「就職者」の数であり、「進学」を選んだ者はカウントされていない

課程・分野ごとの就職先の割合（令和3年度）

課程別 就職者の職業（人文科学）

【出典】令和3年度学校基本調査より作成



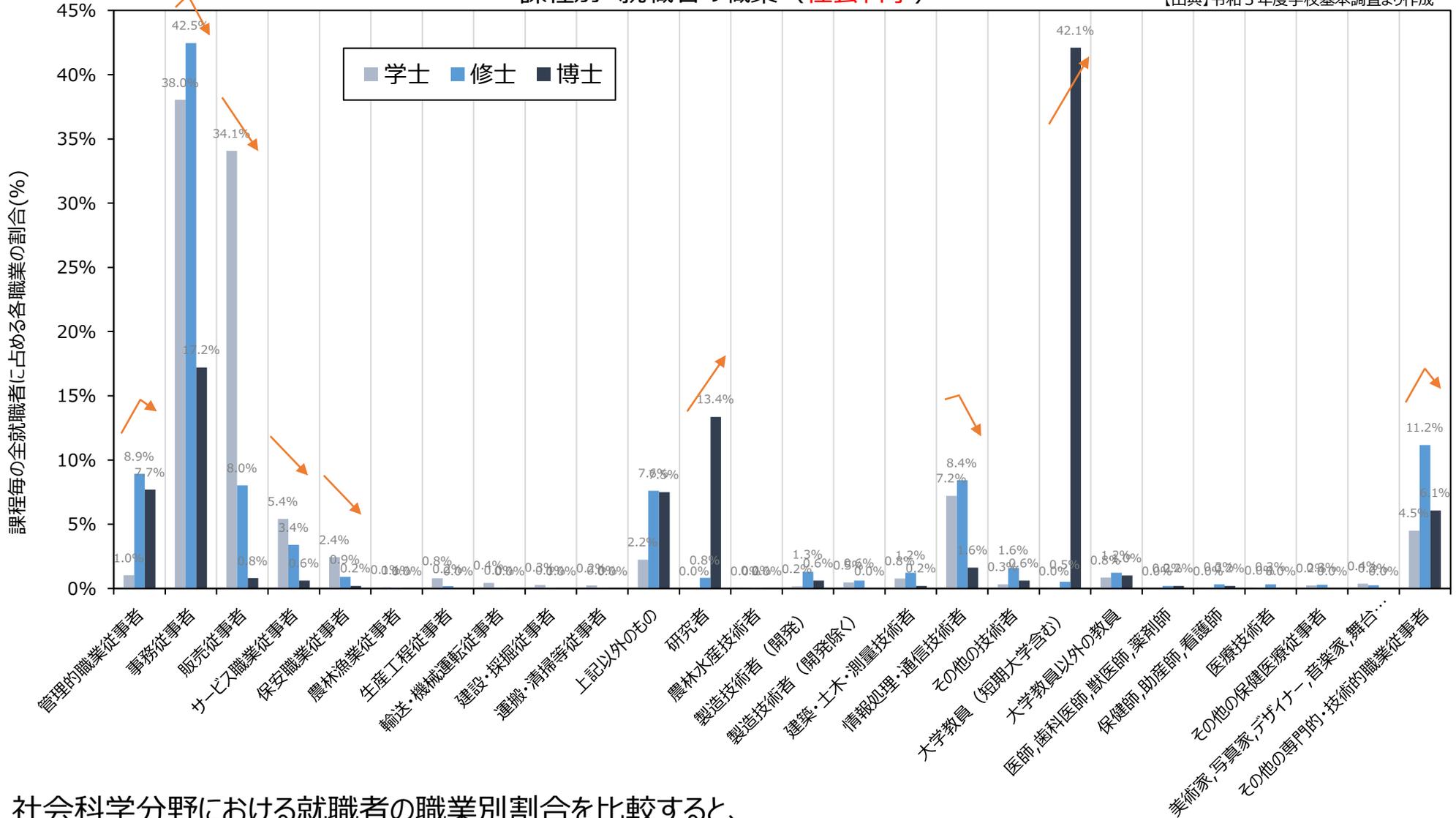
人文科学分野における就職者の職業別割合を比較すると、

- 博士卒において優勢な大学教員への就職に比べて、大学以外の教員への就職は修士卒が高い。
- 事務従事者や販売従事者、サービス職業従事者への就職割合は、学部卒から修士卒、博士卒になるに連れて減少。
- 情報処理・通信技術者への就職割合は、学部卒・修士卒に比べて、博士卒になると減少。

課程・分野ごとの就職先の割合（令和3年度）

課程別 就職者の職業（社会科学）

【出典】令和3年度学校基本調査より作成



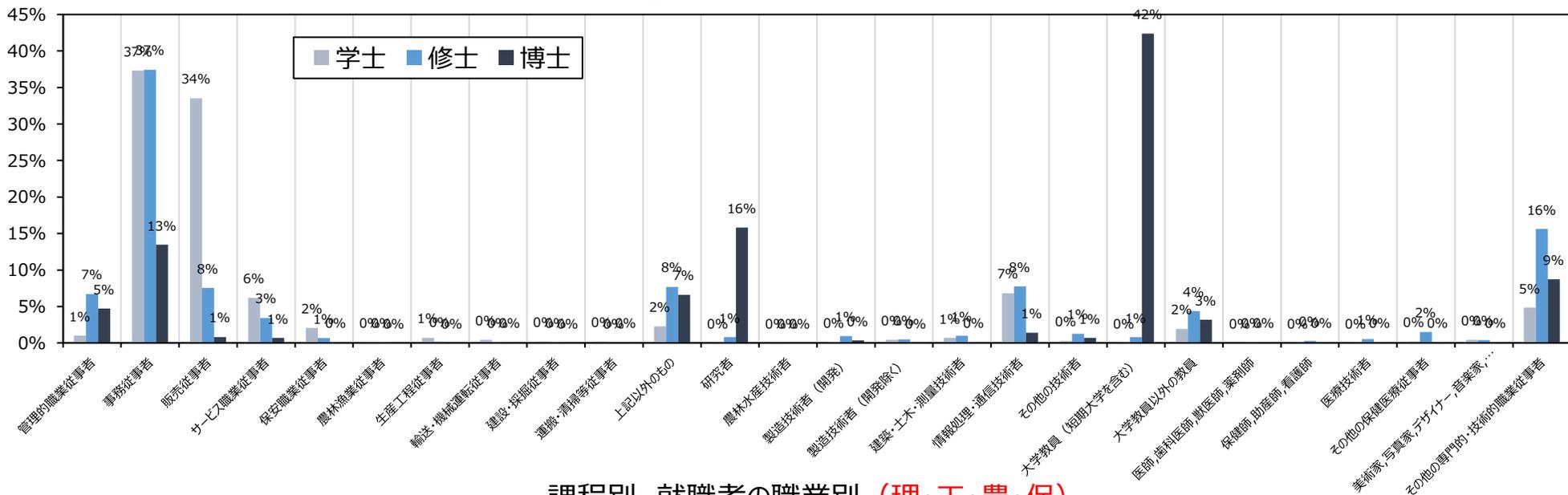
社会科学分野における就職者の職業別割合を比較すると、

- 学部卒に比べて院卒の管理的職業従事者への就職割合が大きく増加。
- 販売従事者やサービス従事者、保安職業従事者等への就職割合は院卒になると減少。
- 事務従事者や情報処理・通信技術者への就職割合は、学部卒・修士卒に比べて、博士卒になると大きく減少。 37

(参考) 課程・分野ごとの就職先の割合 (令和3年度)

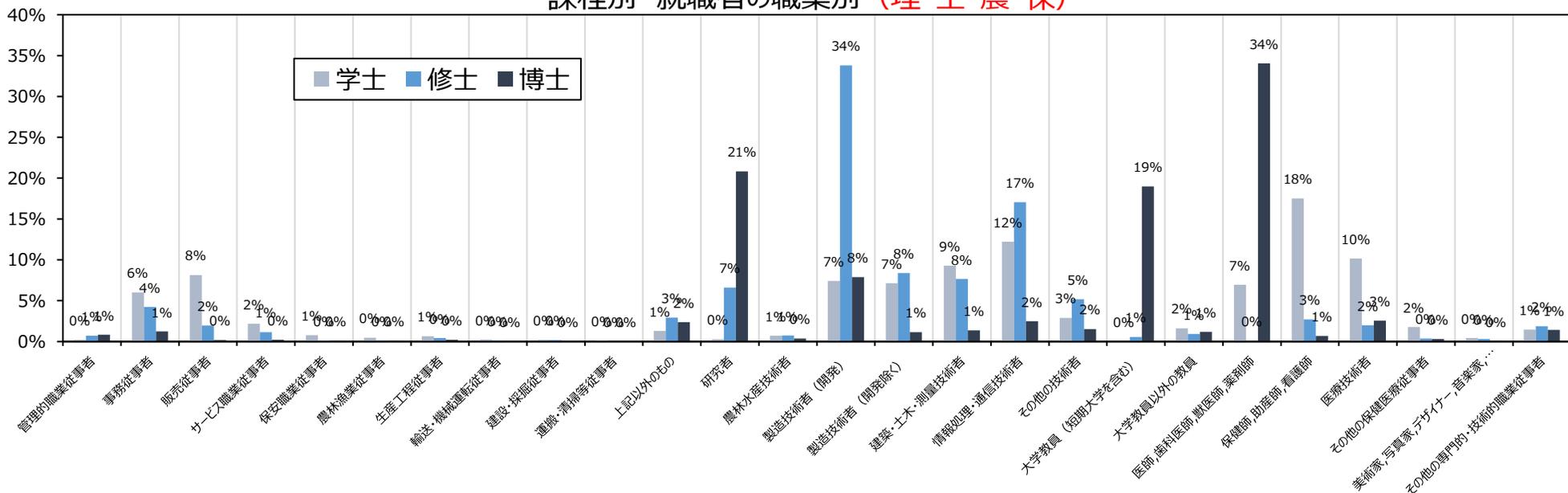
課程別 就職者の職業 (人・社)

課程毎の全就職者に占める各職業の割合(%)



課程別 就職者の職業別 (理・工・農・保)

課程毎の全就職者に占める各職業の割合(%)

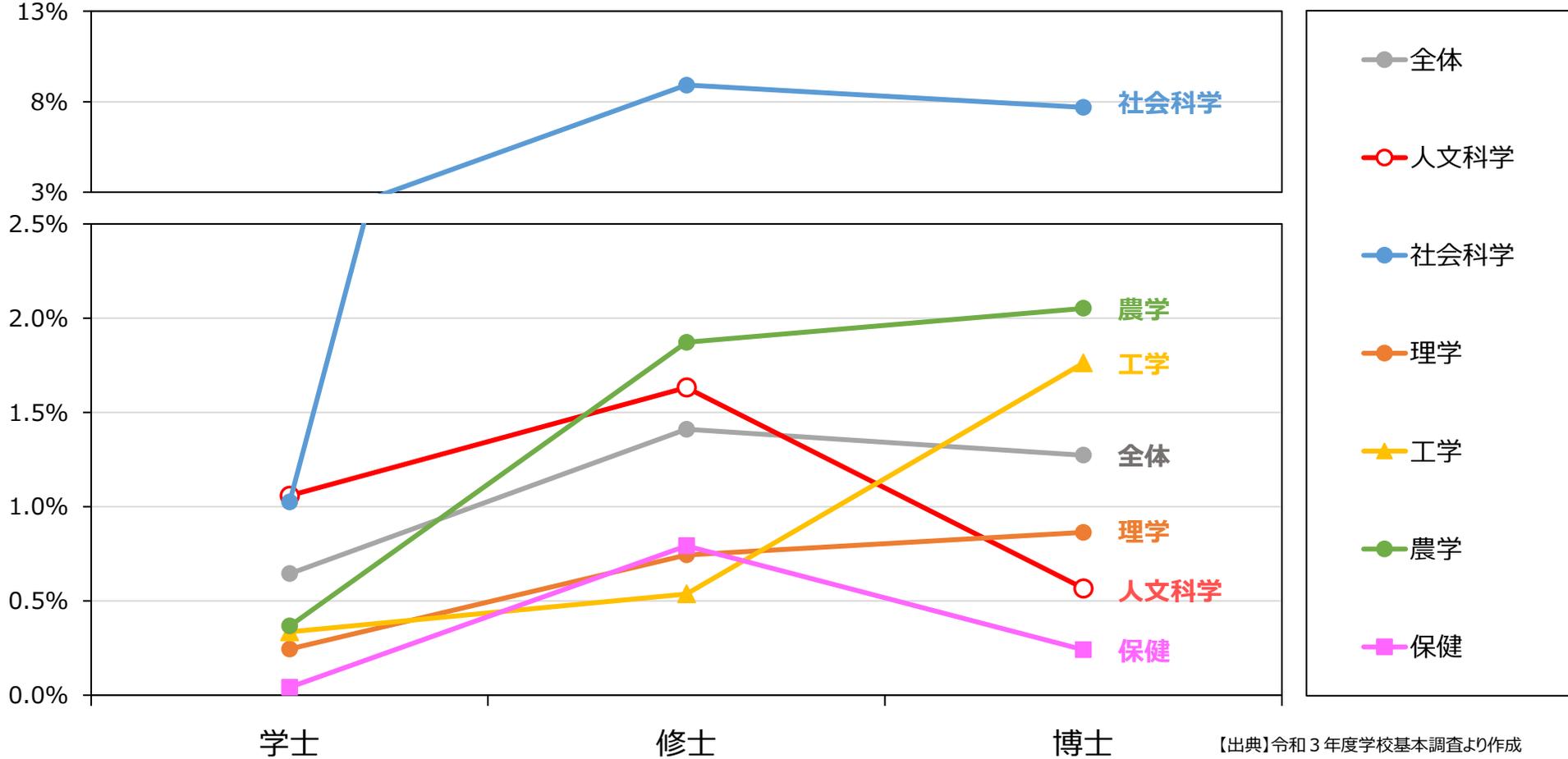


就職者に占める管理的職業従事者の割合（令和3年度）

管理的職業従事者

事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制など、経営体の全般又は課（課相当を含む）以上の内部組織の経営・管理に従事するもの。公務員、議員、法人・団体役員、法人・団体管理職員等。

各課程・各分野の全就職者に占める管理的職業従事者の割合(%)

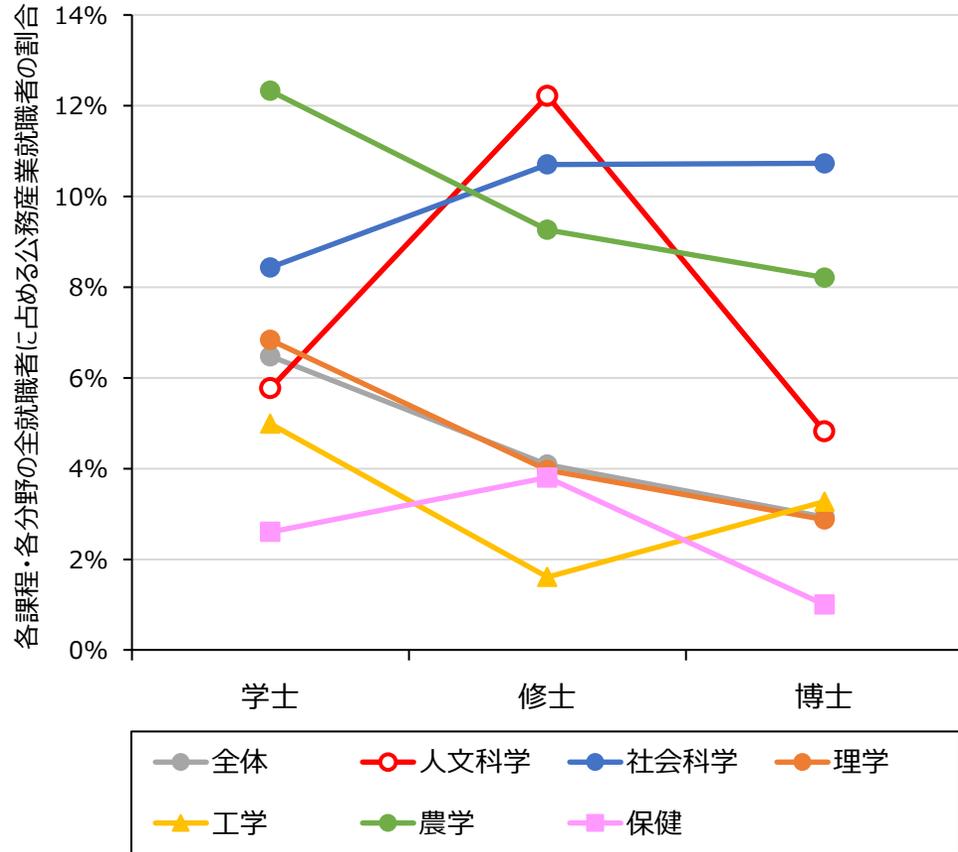


【出典】令和3年度学校基本調査より作成

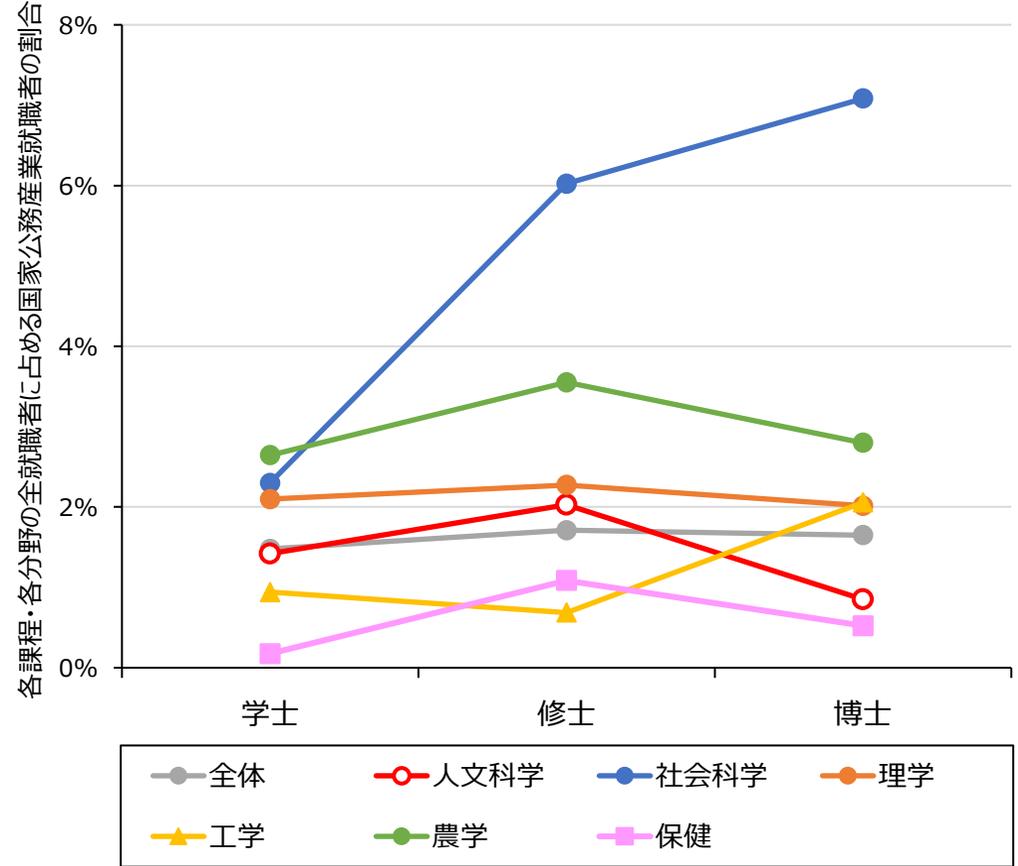
- 社会科学分野は社会科学分野の修士卒・博士卒就職者に占める管理的職業従事者割合が他の分野に比して高い
- 理学、工学、農学分野では、課程が上がるにつれて同分野の就職者に占める管理的職業従事者割合が増加（学士<修士<博士）
- 社会科学（及び保健）分野では修士卒での割合が最も高く、続いて博士卒となり、学士卒が最も低い（学士<博士<修士）
- 人文科学分野でも修士卒での割合が最も高いが、学士卒よりも博士卒での割合が低い（博士<学士<修士）
- 他分野と比べ、人文科学分野での博士卒就職者に占める管理的職業従事者割合は低い（医者等への就職が多い保健分野を除く）

就職者に占める公務産業（国家公務・地方公務）の割合（令和3年度）

公務産業（国家公務・地方公務）



国家公務のみ

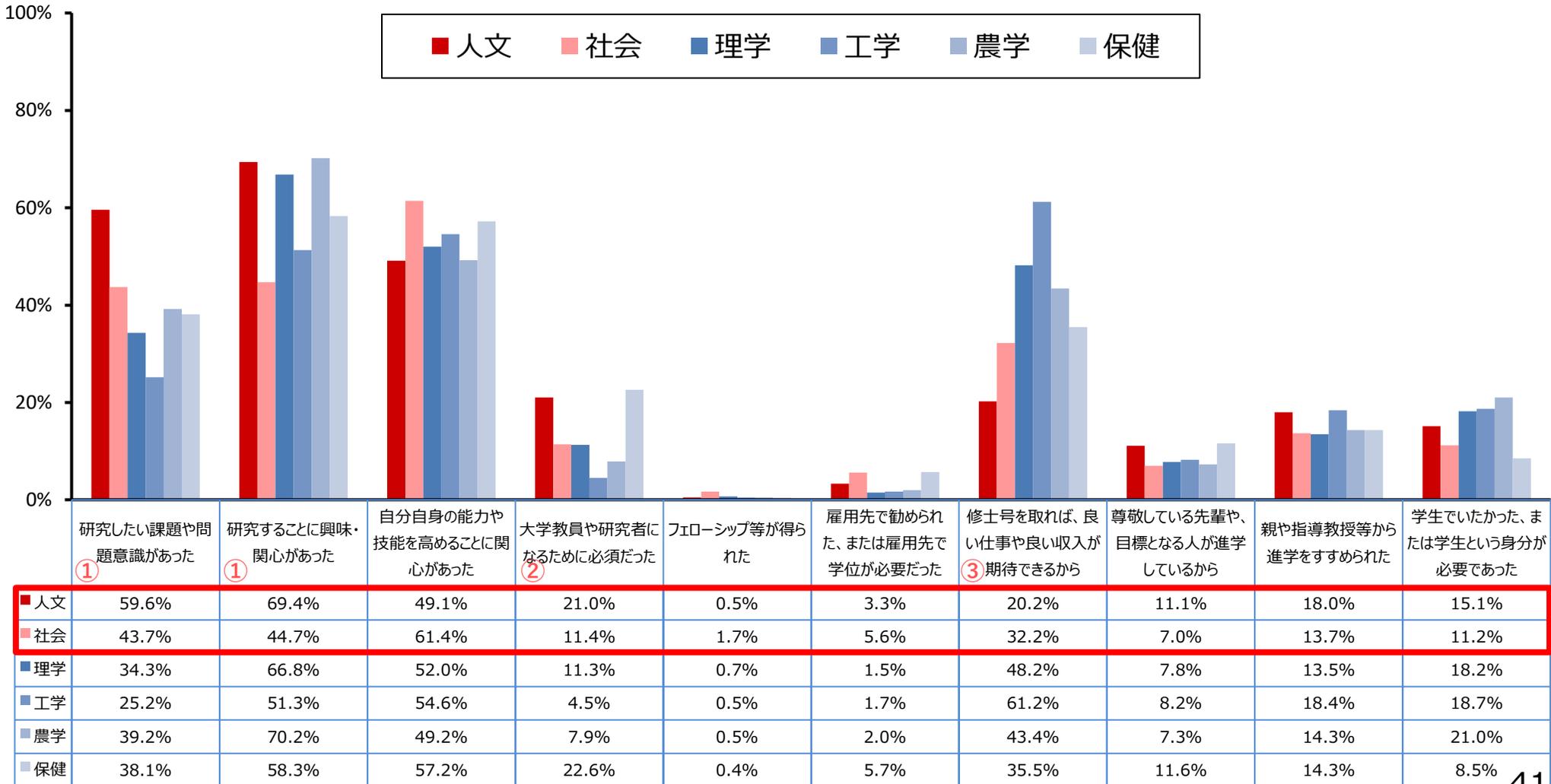


【出典】令和3年度学校基本調査より作成

- 全分野で見ると、大学院への進学により就職者全体に占める公務産業への就職割合は低下するが、国家公務は横ばい（国家公務よりも地方公務での大学院卒人材の就職割合が低い）。
- 社会科学分野では、課程が上がるにつれて同分野内での公務産業への就職割合が増加する傾向（特に国家公務）。
- 人文科学分野では、修士卒において公務産業（特に地方公務）への就職割合が高く、博士卒において最も低い。
- 理学・農学分野では、大学院進学によって公務産業への就職割合が減少。国家公務においては横ばい。
- 工学分野では、修士卒よりも博士卒分野での公務産業就職割合が高く、唯一V字を描いている。

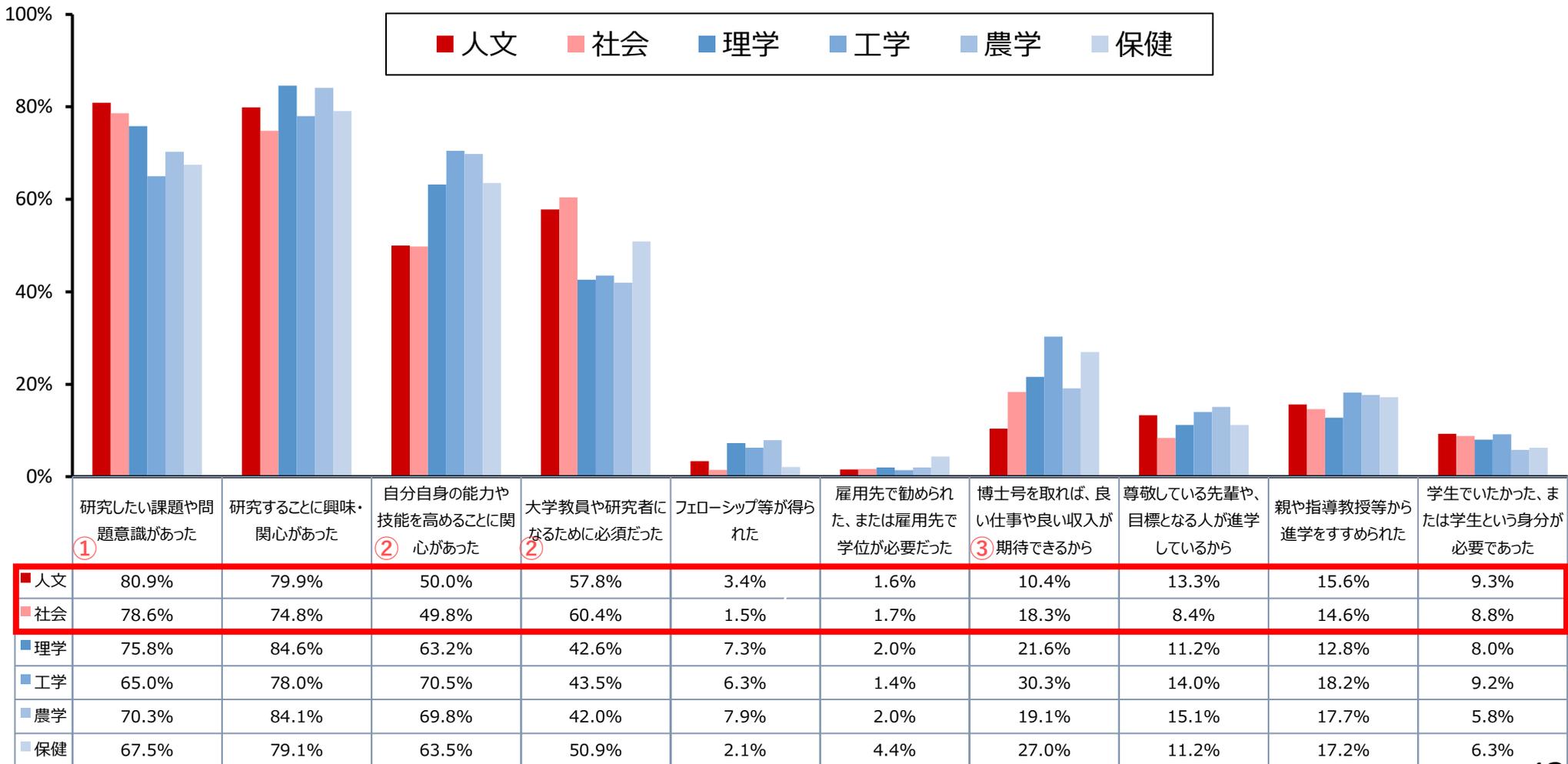
修士課程への進学理由

- ① 人文科学系は社会科学系よりも研究そのものに対する関心が高く、理工農系よりも特定の課題や問題意識に照らして進学行動を取る割合が高い(専門分野へのこだわりが強い?)
- ② 人文科学系では大学教員を志向して進学する割合が高い(医者のキャリアパスが想定される保健を除く)
- ③ 人文科学・社会科学系ともに良い仕事や良い収入のインセンティブは高くないが、人文科学系では特に低い



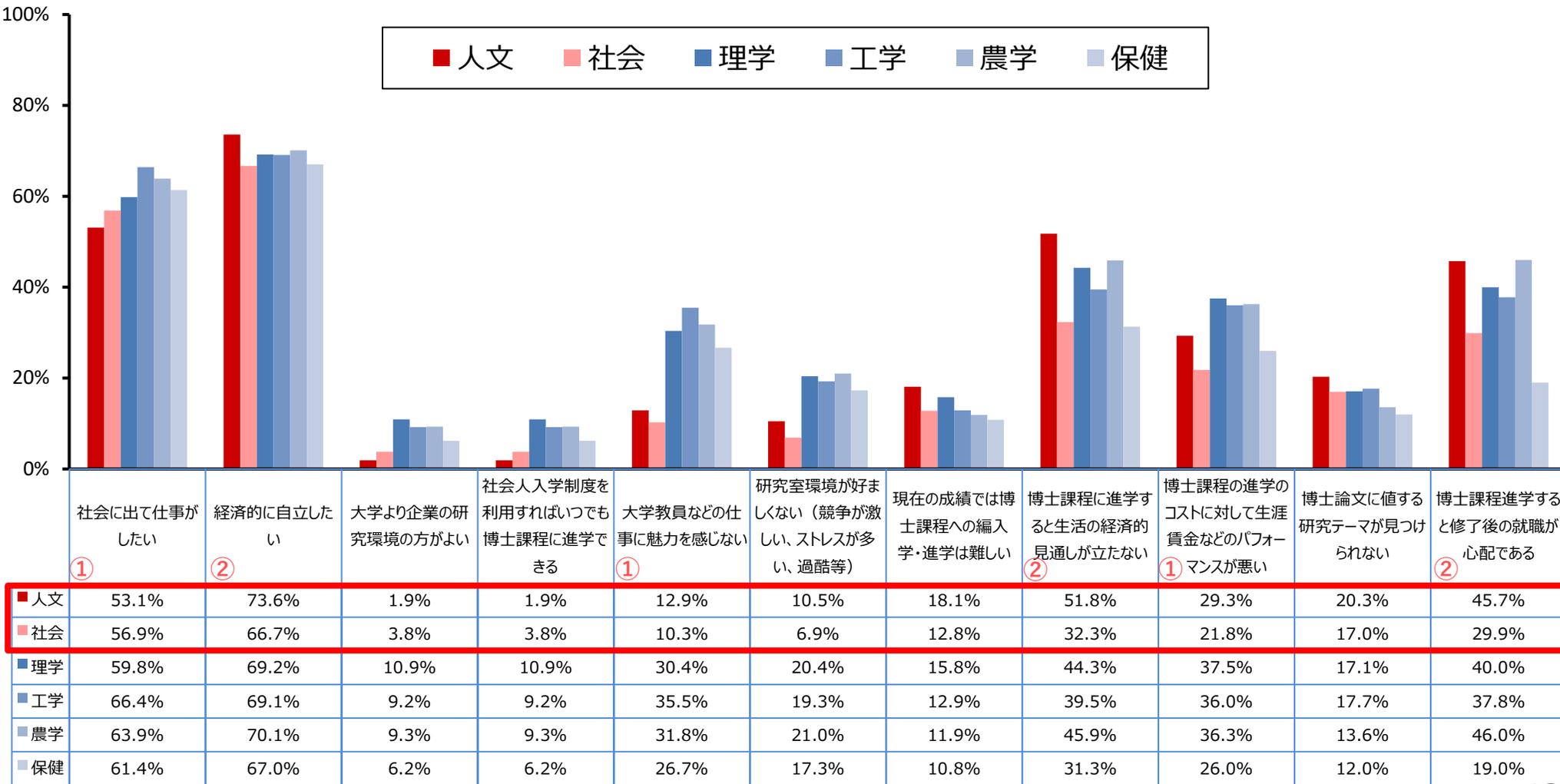
博士課程への進学理由

- ① 修士課程進学とは異なり、博士課程進学では人文科学系に加えて社会科学系も特定の課題や問題意識に照らして進学行動を取る割合が高い
- ② 一方、人文科学・社会科学系の博士進学理由では、自らの能力や技能を高めること(自己啓発)への関心が弱く、大学教員・研究者を強く意識したものとなっている
- ③ 修士と同様、人文科学・社会科学系ともに良い仕事や収入のインセンティブは高くないが、人文科学系では特に低い



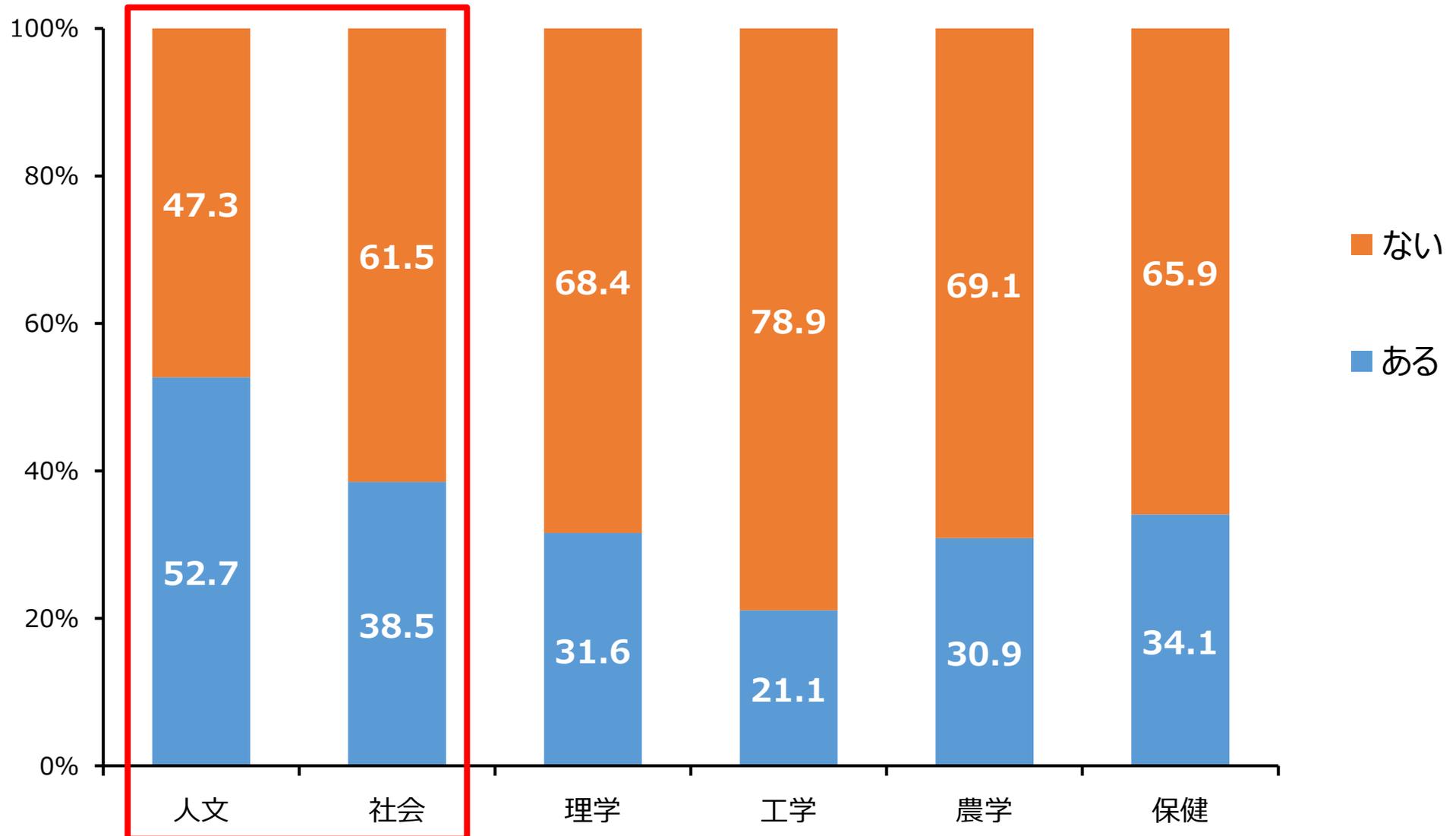
博士課程進学ではなく就職を選択した理由

- ① 人文科学・社会科学系では「社会に出て仕事がしたい」や「生涯賃金のパフォーマンスが悪い」、「大学教員などの仕事に魅力を感じない」を選んだ者が少ない(=就職者であっても、修士課程修了者のアカデミア志向が強い)
- ② 人文科学系は社会科学系よりも「経済的な自立」や「生活の経済的見通しが立たない」を選ぶ者が多く、「修了後の就職が心配である」を選ぶ者も多い



就職予定者の博士課程へ進学検討の有無

- 人文科学・社会科学系の修士卒求職者は、他の分野に比べて博士課程への進学を検討した割合が高い

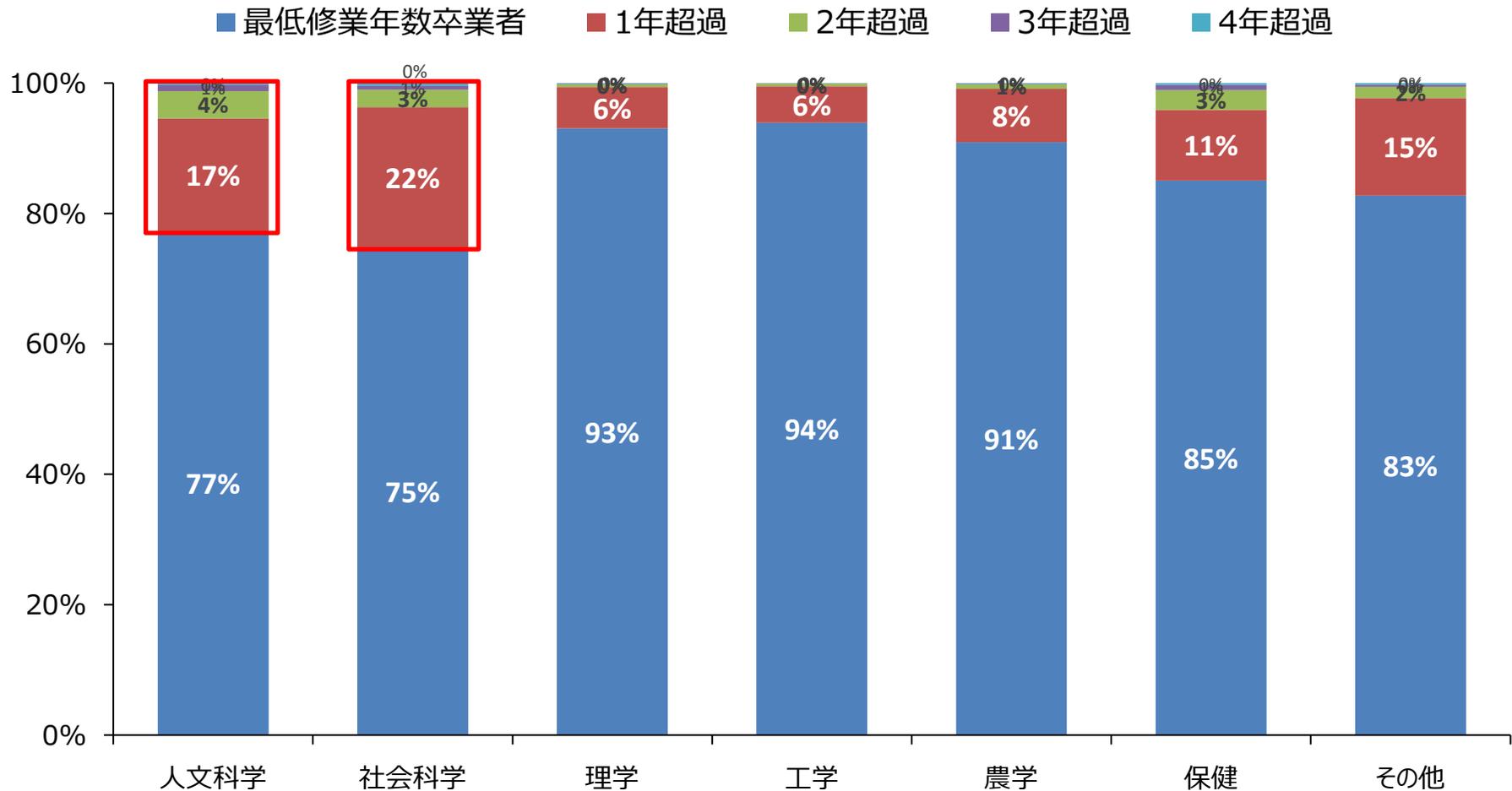


3. 学位取得までに要する期間

修士課程卒業者の修業年限超過率（平成30年度）

- 人文科学、社会科学分野の修士課程卒業者の修業年限超過率は約2割であり、他の分野と比較して超過率が高い

修士課程卒業者



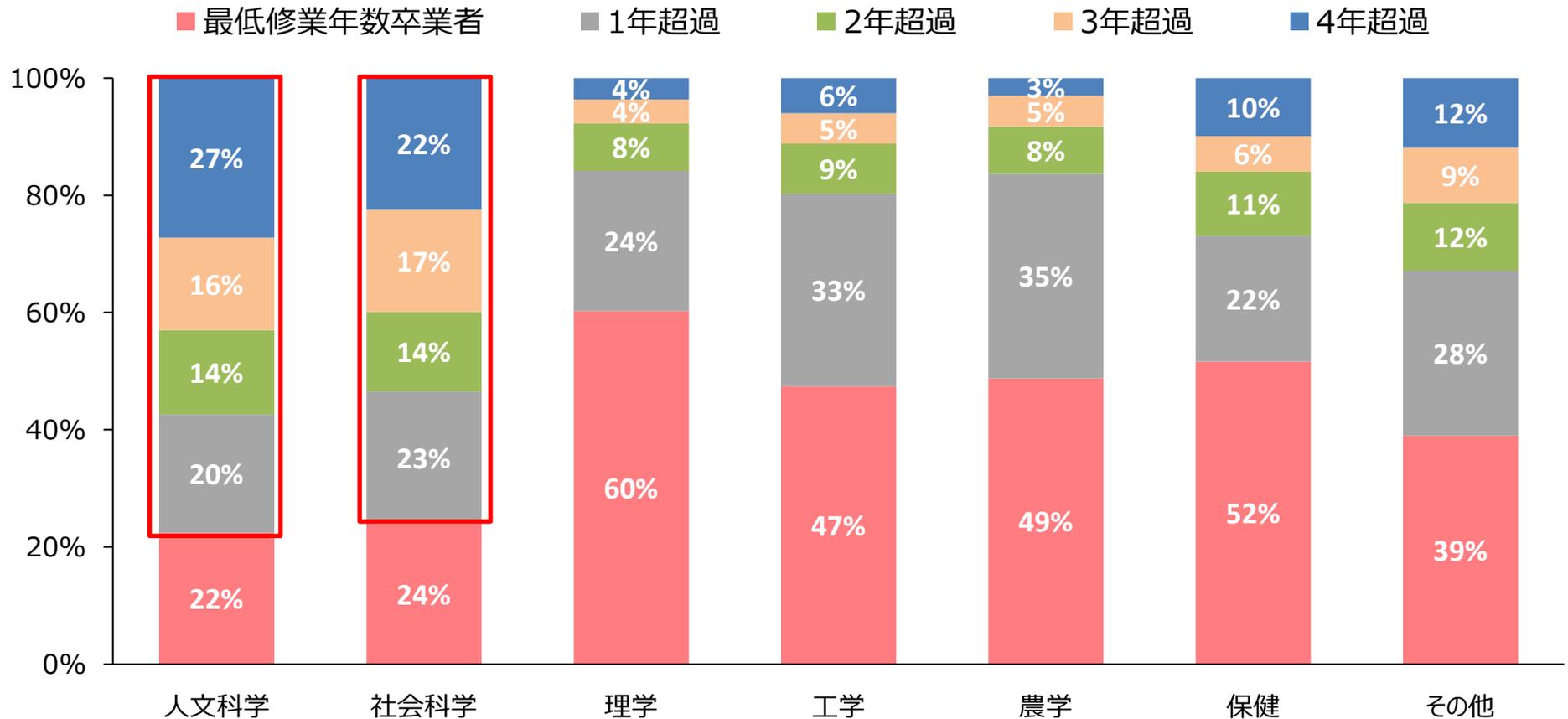
※「その他」には学科系統分類における「その他」の他、「教育」、「家政」、「芸術」、「商船」を含む。
※修士課程卒業者は、「その他（編入者）」を除いた値。

出典：令和2年度学校基本調査

博士課程卒業者の修業年限超過率（平成30年度）

- 人文科学、社会科学分野の博士課程卒業者（満期退学者を含む）の修業年限超過率は約8割であり、他の分野と比較して超過率が高い

博士課程卒業者



※博士課程卒業者は満期退学者を含んだ値。

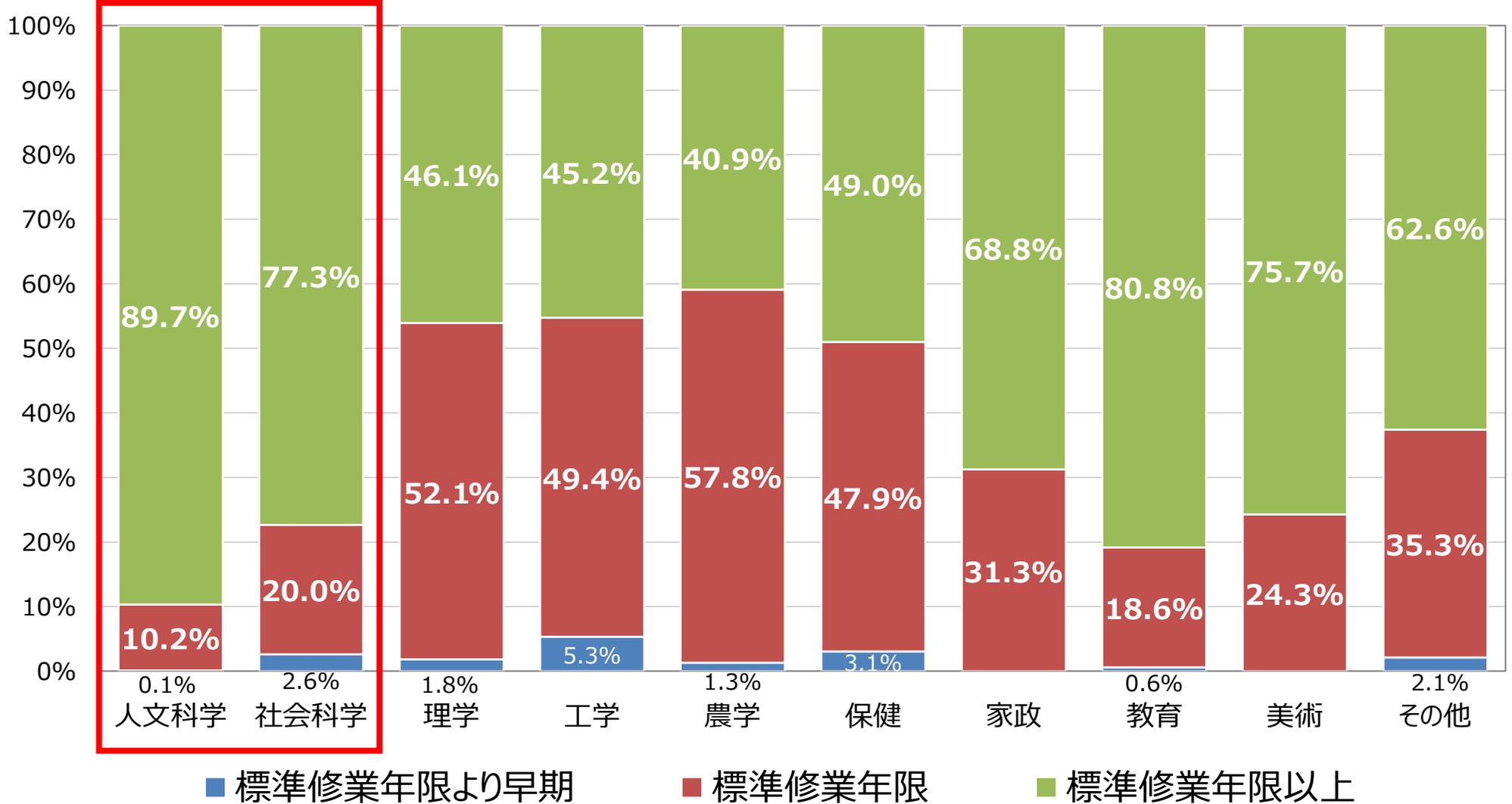
※「その他」には学科系統分類における「その他」の他、「教育」、「家政」、「芸術」、「商船」を含む。

※修士課程卒業者は、「その他（編入者）」を除いた値。

出典：令和2年度学校基本調査

博士課程の標準修業年限超過割合（令和2年度実績）

- 令和4年度に公表された最新の調査においても、人文科学・社会科学系の博士修了者の標準修業年限超過割合は極めて高く、人文科学系においては約9割が標準修業年限を超過している

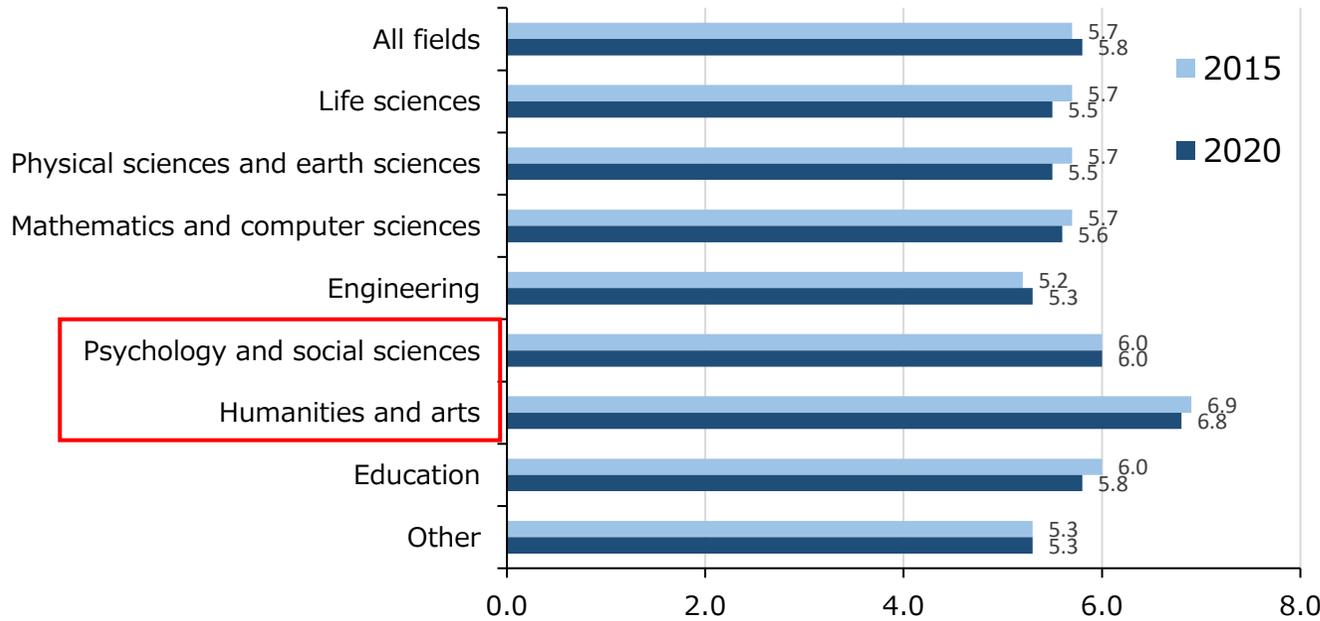


※長期履修制度の利用者を除いた値

【出典】令和3年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング、令和4年） 48

海外の事例

米国大学における博士課程プログラム修了（博士号取得）までに要する期間



- 米国の博士課程での博士号取得までの平均年数は、2020年において全分野では 5.8年となっており、Psychology and social sciencesにおいては 6.0年、Humanities and artsにおいては 6.8年となっている

【出典】 Survey of Earned Doctorates (NSF) のデータを基に文部科学省が作成

Figure 12: Time to completion

In your institution, how long do your graduates on average take to complete their full-time doctoral studies?

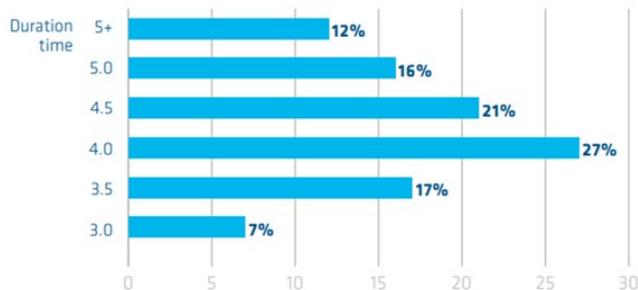
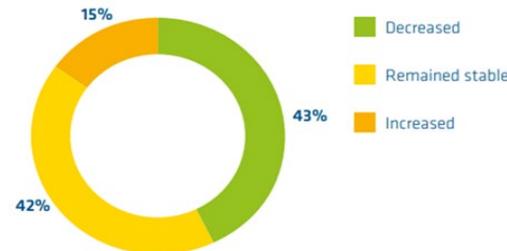


Figure 13: Average time to complete the doctoral programme compared to 10 years ago

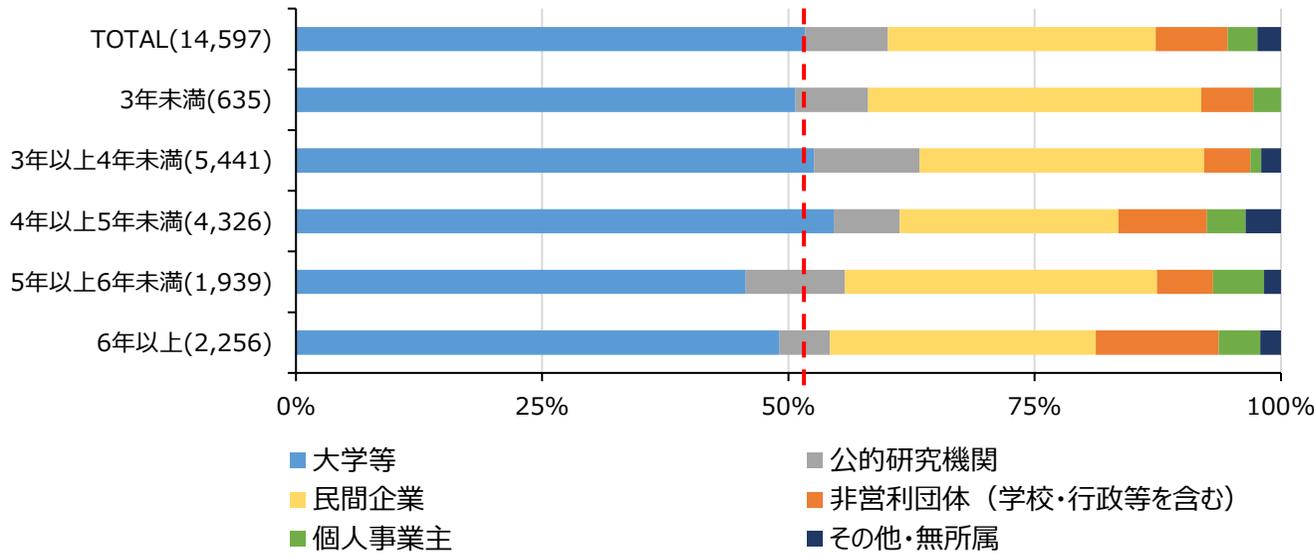
Compared to ten years ago, in your institution has the average time to complete a doctoral programme decreased, remained stable or increased?



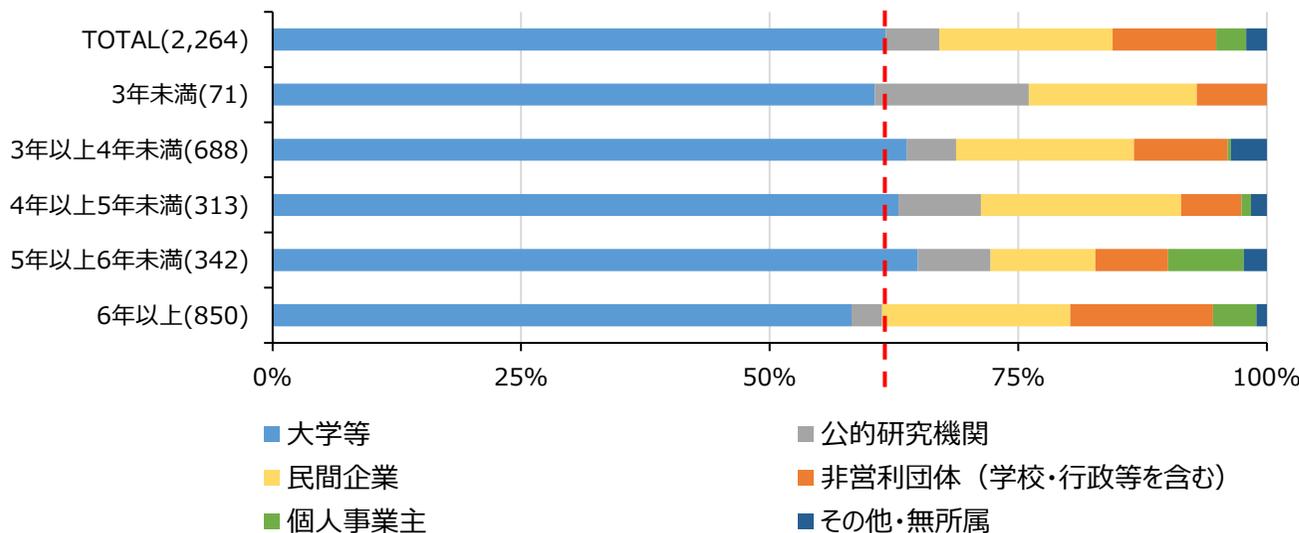
- 欧州諸国における博士課程修了に要する年数は3.5～4.5年が標準的となっている(全分野)
- また、10年前と比較して博士課程修了に要する年数は「減った」とする機関が43%存在しており、「増えた」とする回答は15%となっている

博士後期課程の在籍年数と就職先（課程修了1.5年後）の関係性

博士課程在籍年数と雇用先（全分野）



博士課程在籍年数と雇用先（人社）

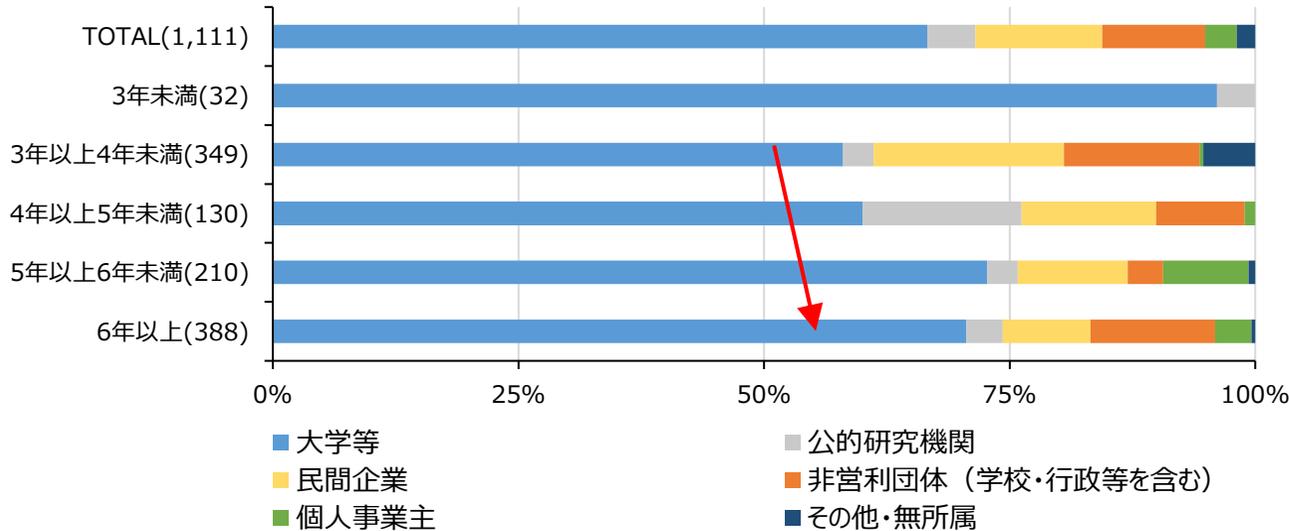


- 博士課程在籍年数と修了1.5年後の雇用先の関係性をグラフ化
- 全分野で見ると、博士課程在籍年数と雇用先との関係性に明確な傾向は見られない
- 人文科学・社会科学系では、博士課程在籍年数によらず大学等に雇用されている割合が全分野平均と比較して10ポイント程度高い

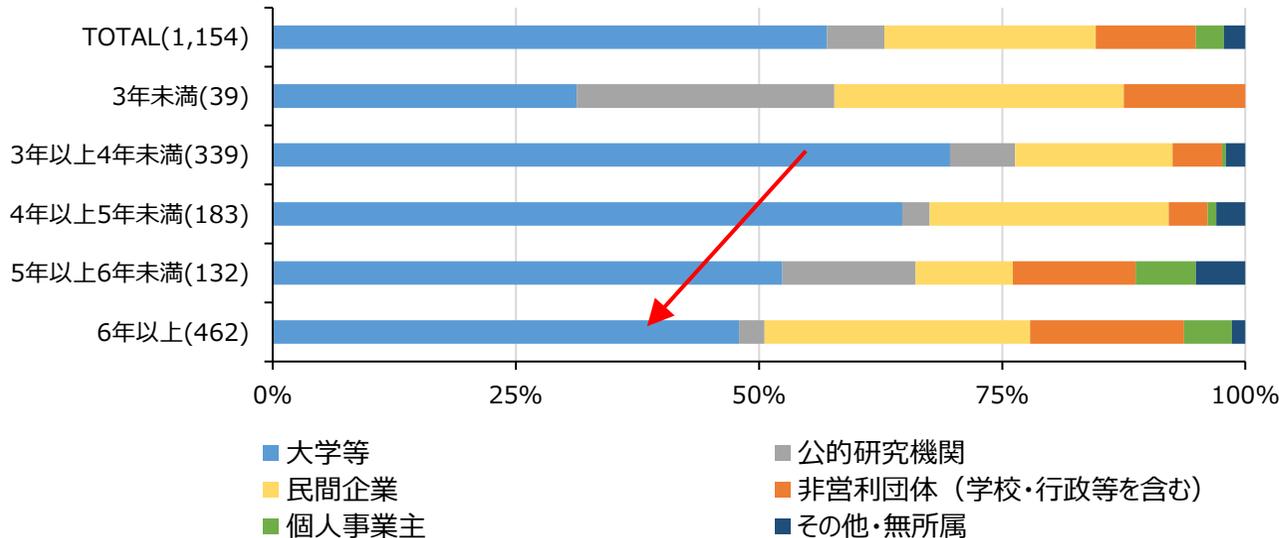
【出典】 科学技術・学術政策研究所「博士人材追跡調査」より、2018年博士課程修了者の1.5年後の状況についてグラフ化
 （※回答者数は数字は重みづけされた値）

博士後期課程の在籍年数と就職先（課程修了1.5年後）の関係性

博士課程在籍年数と雇用先（人文科学）



博士課程在籍年数と雇用先（社会科学）

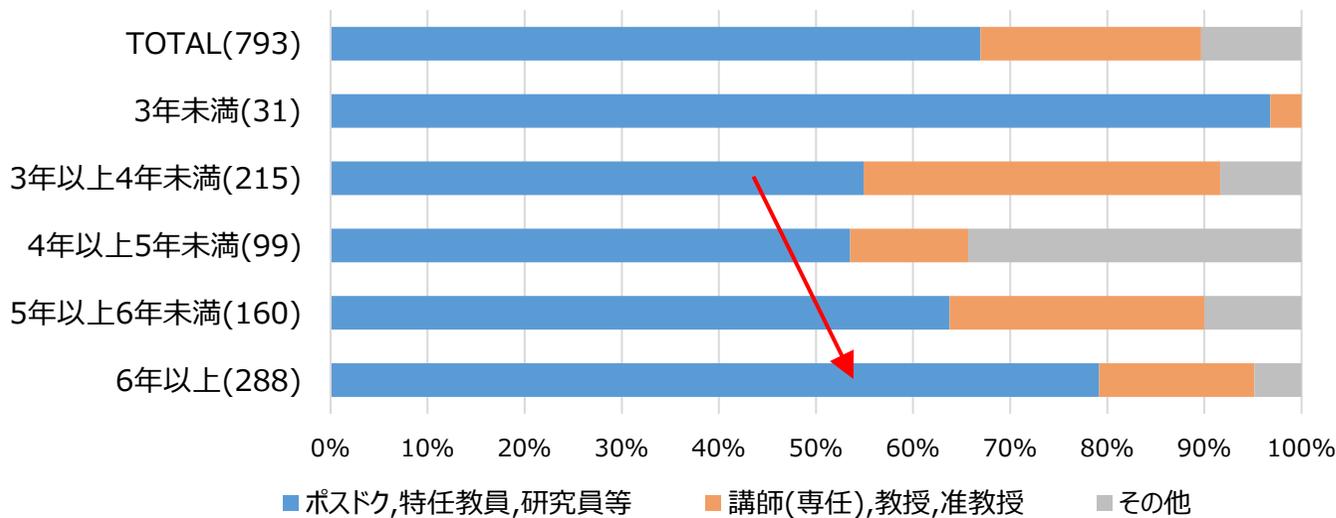


- 人文科学系では、標準修業年限を超過するほど大学等で雇用されている割合がやや高い傾向
- 社会科学系では、標準修業年限を超過するほど大学以外で雇用されている割合が高い傾向
- 在籍年数3年未満（早期卒業者等）においては、人文科学系では大学等で、社会科学系では大学以外で雇用されている割合が高い

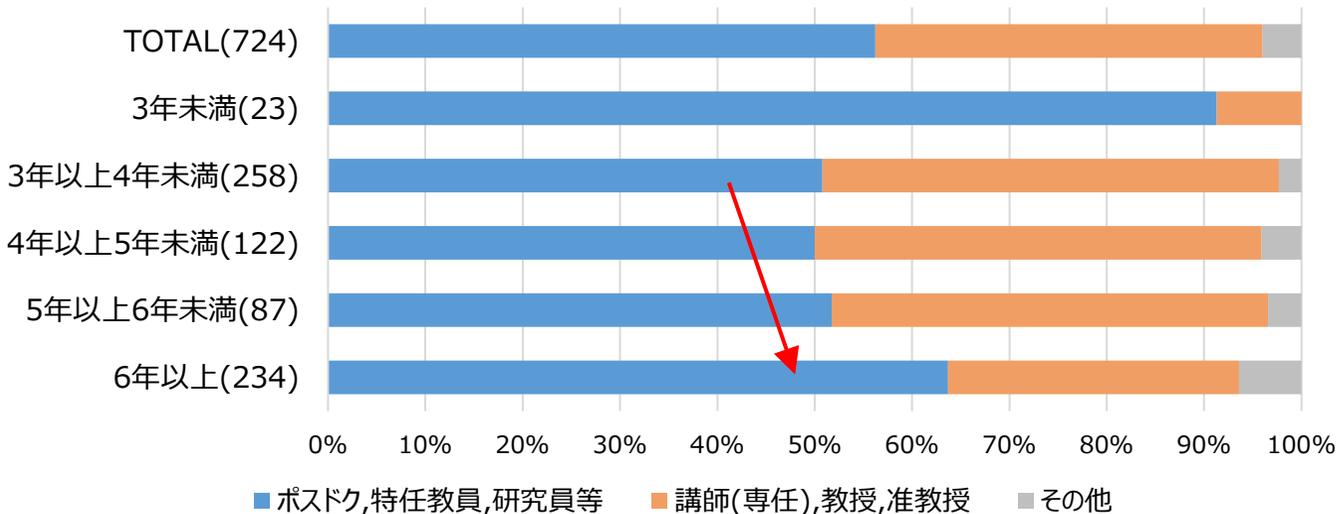
【出典】科学技術・学術政策研究所「博士人材追跡調査」より、2018年博士課程修了者の1.5年後の状況についてグラフ化（※回答者数は数字は重みづけされた値）

博士後期課程の在籍年数と就職先（課程修了1.5年後）の関係性

博士課程在籍年数と大学等での雇用形態（人文科学）



博士課程在籍年数と大学等での雇用形態（社会科学）



- 博士課程在籍年数ごとに修了者の大学等における雇用の内訳(正規・非正規)を分析
- 人文科学系と社会科学系では、ともに標準修業年限を超過するにつれて、ポスドク、研究員等としての雇用(≒非正規雇用)割合が高まる傾向
- 在籍年数3年未満(早期卒業者等)においては、ポスドク、研究員等が多い

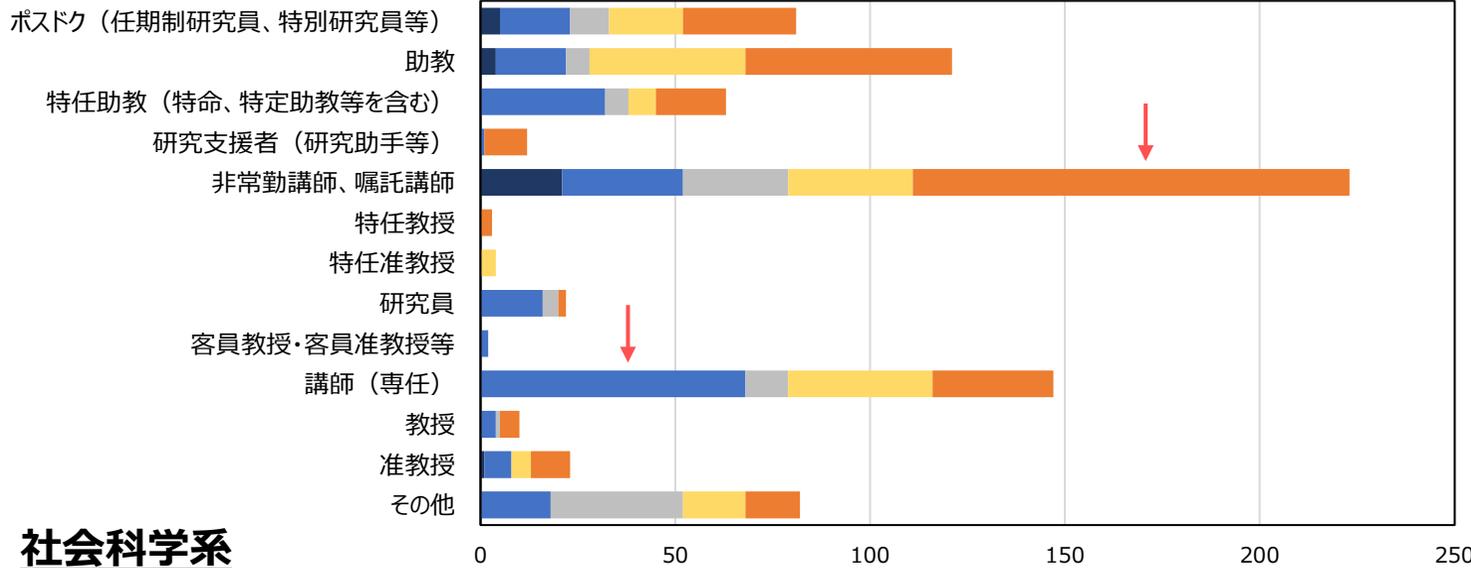
■ : ポスドク, 助教, 特任助教, 研究支援者, 非常勤・委託講師, 特任教授, 特任准教授, 研究員, 客員教授, 客員准教授

■ : 講師(専任), 教授, 准教授

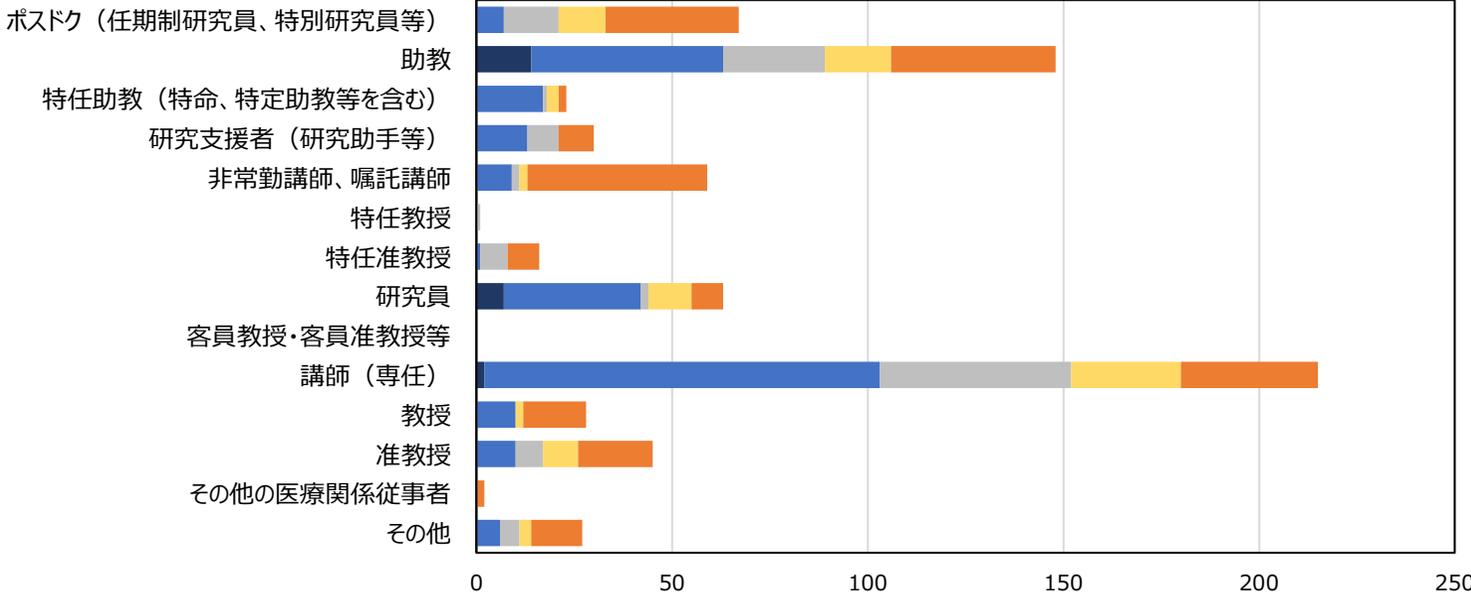
博士後期課程の在籍年数と就職先（課程修了1.5年後）の関係性

人文科学系

■ 3年未満 ■ 3年以上4年未満 ■ 4年以上5年未満 ■ 5年以上6年未満 ■ 6年以上



社会科学系



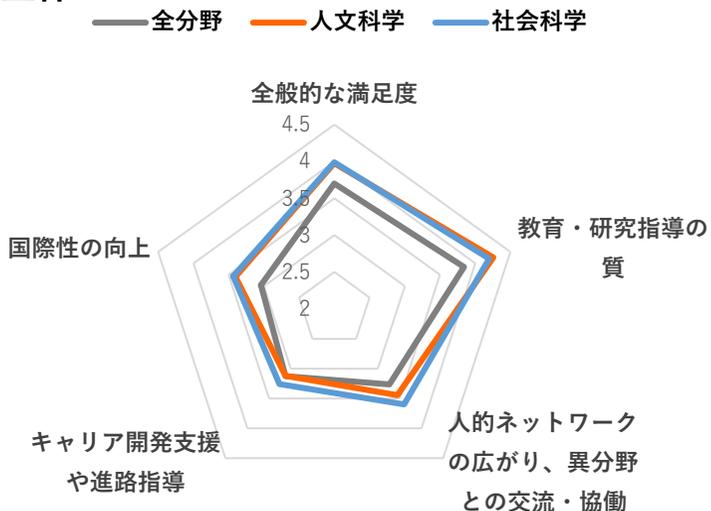
- 大学等での職位ごとに、雇用されている博士課程修了者の博士課程在籍年数の内訳を分析
- 人文科学系では非常勤講師・委託講師として雇用されている者が多く、その約半数が博士課程に6年以上在籍した者
- 人文科学系の講師（専任）については、その約半数が博士課程に3年以上4年未満在籍した者
- 社会科学系では講師（専任）として雇用されている者が多く、その約半数が博士課程に3年以上4年未満在籍した者

4. 大学院教育・研究

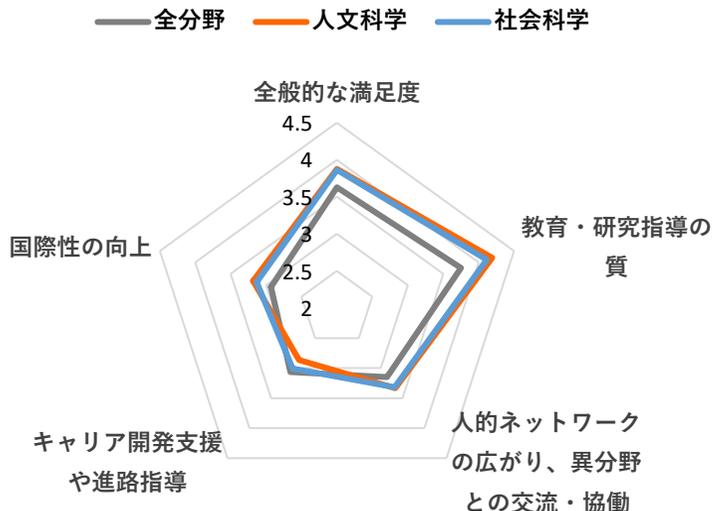
修士課程の満足度

- 人文科学・社会科学系における修士課程在籍中の経験に対する満足度は、「キャリア開発支援」及び社会人学生からの「人的ネットワーク」を除き、他の分野に比して高い傾向にある

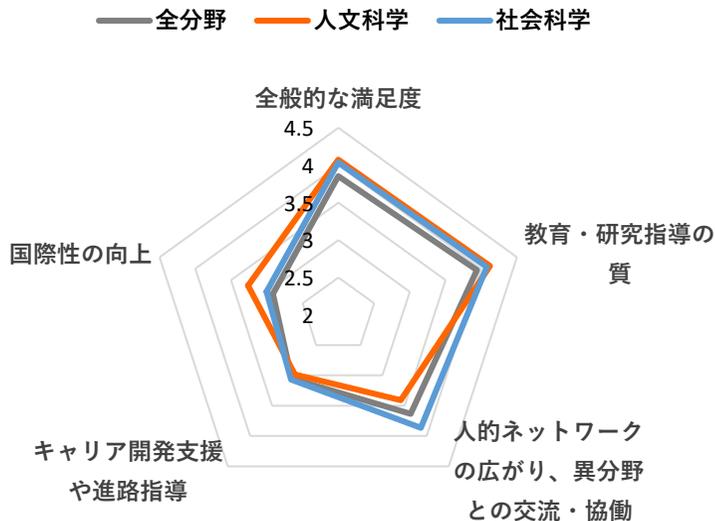
修了者全体



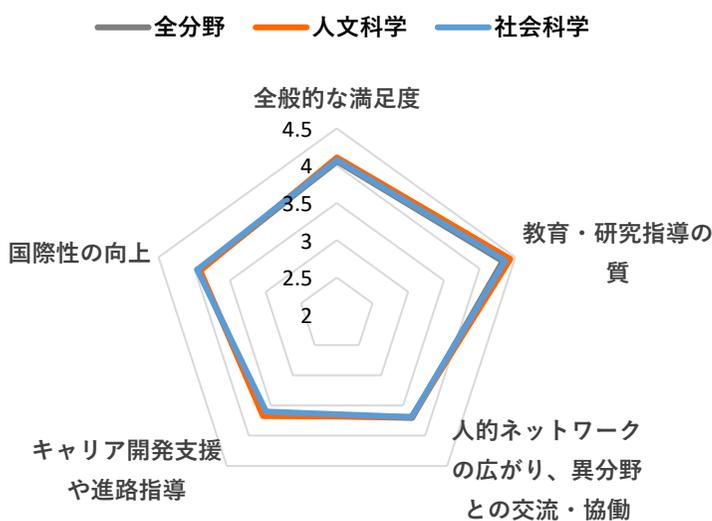
ストレート



社会人



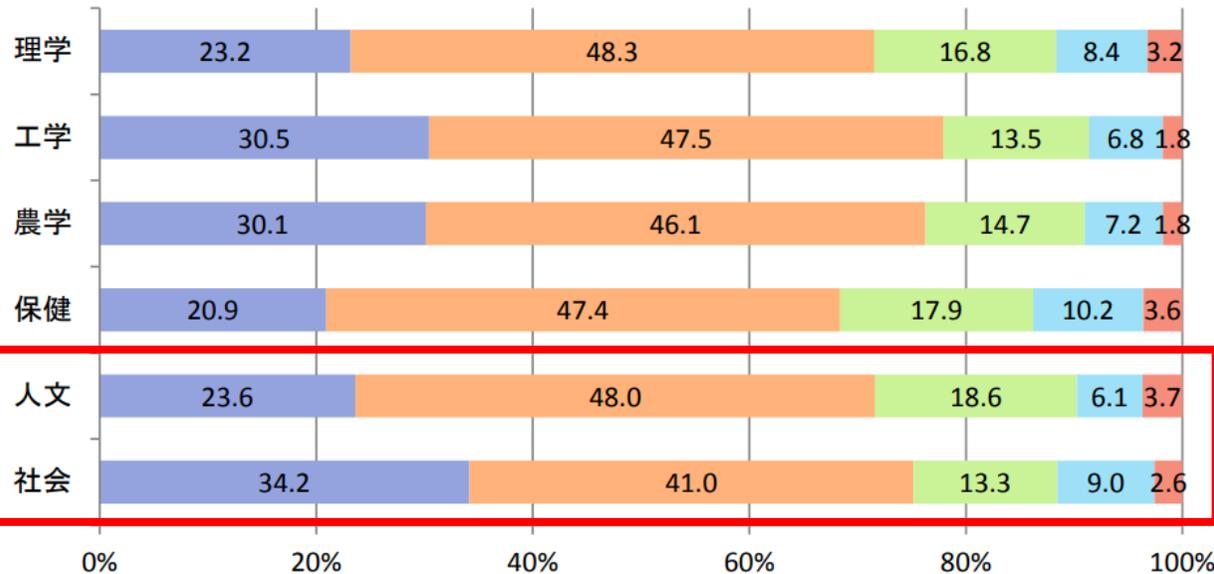
留学生



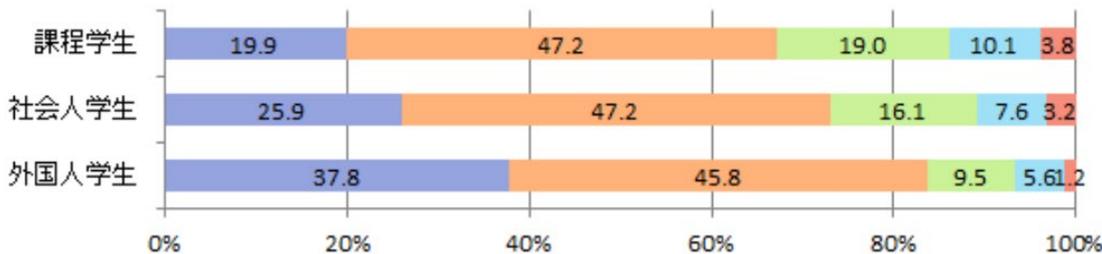
博士課程の満足度

- 博士課程プログラムに対する満足度は、人文科学・社会科学系と他の分野とで大きな差はない
- なお博士課程プログラムへの満足度は、全分野平均において課程学生(ストレート)が最も低く、社会人学生、外国人学生の順に高くなる傾向

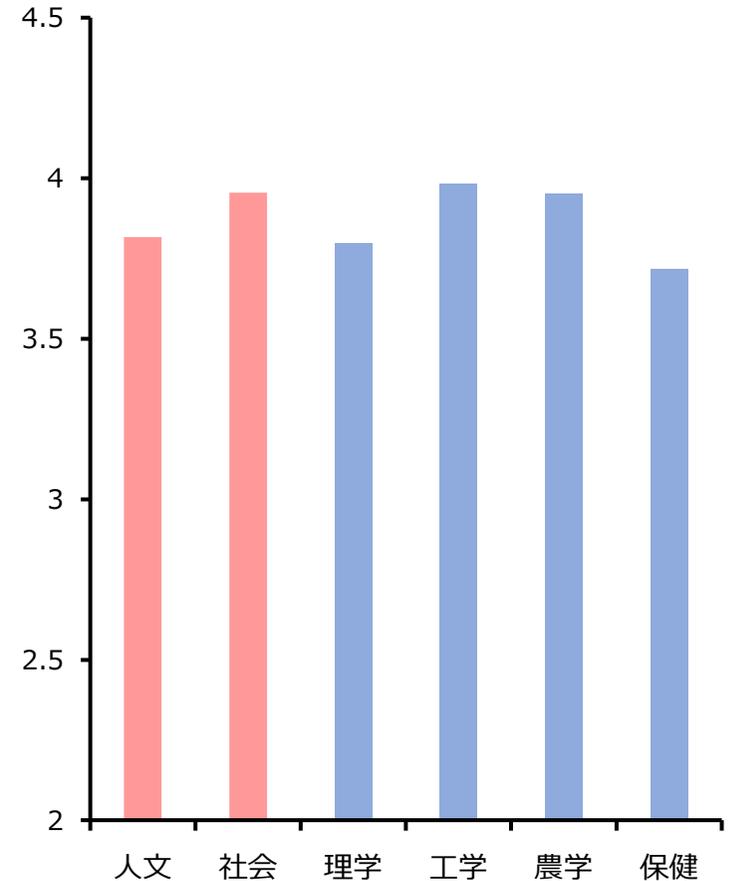
■ とても良い ■ まあ良い ■ どちらともいえない ■ あまり良くない ■ 全く良くない



■ とても良い ■ まあ良い ■ どちらともいえない ■ あまり良くない ■ 全く良くない

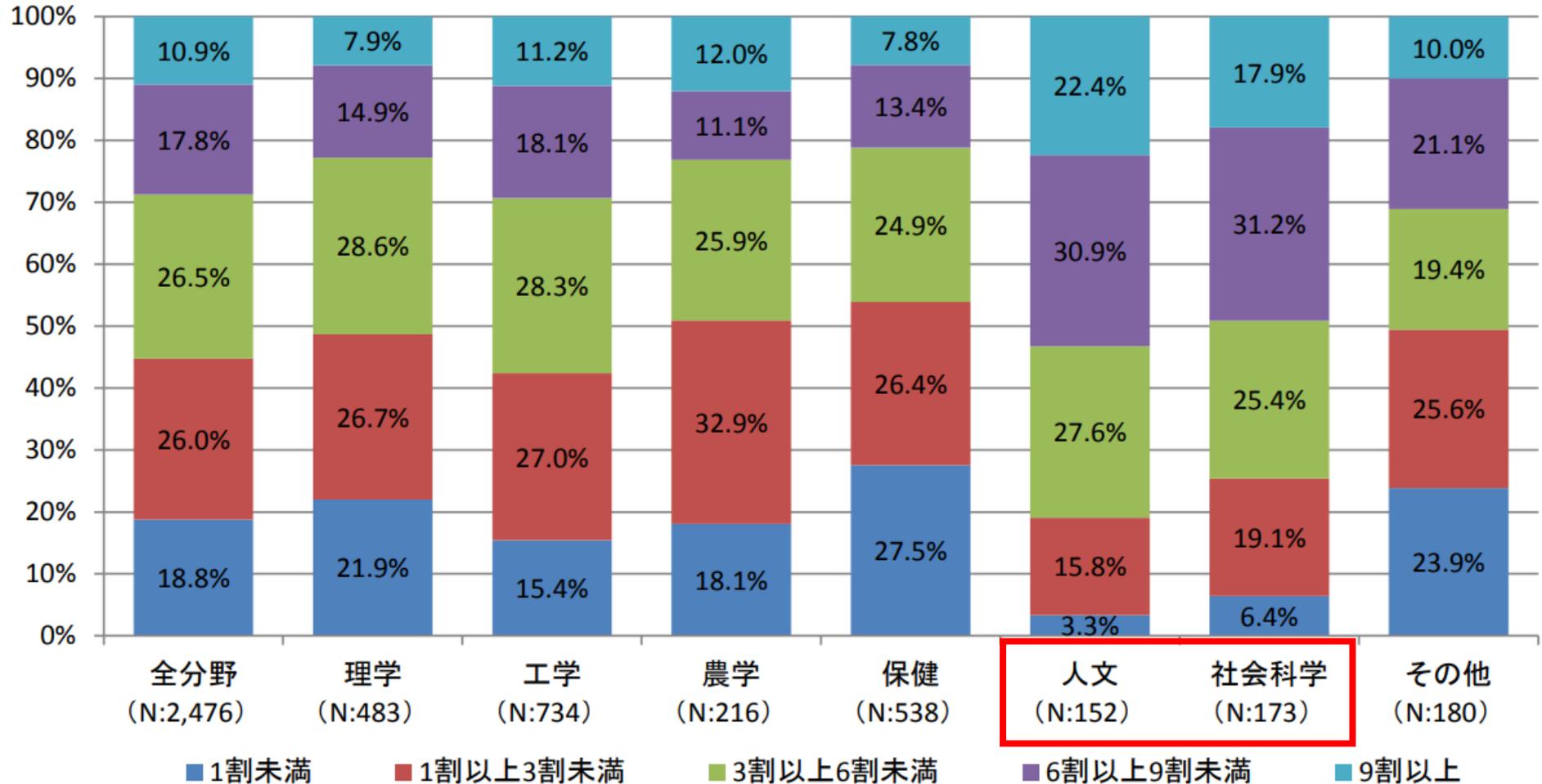


スコア化



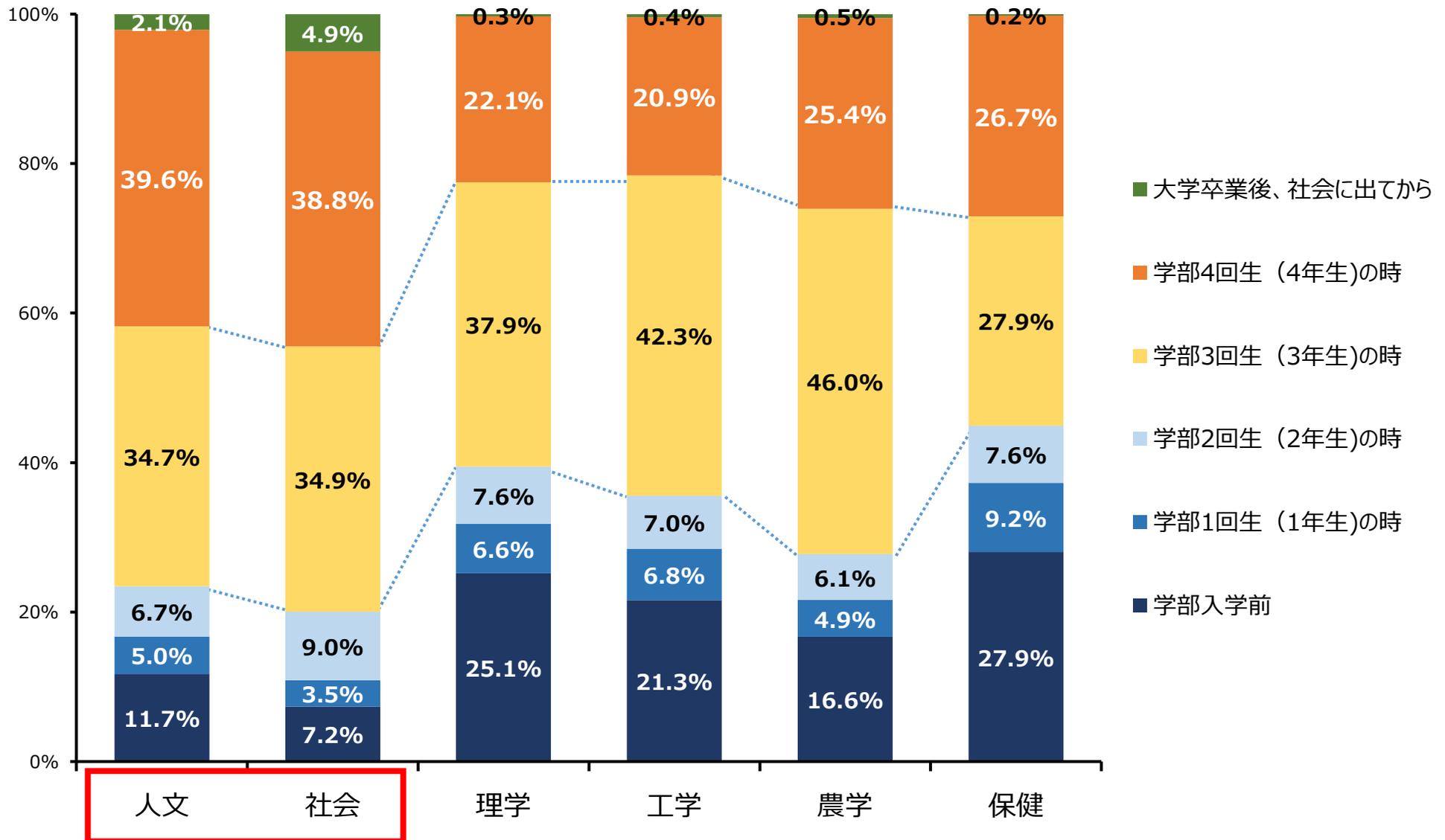
大学院で履修した授業のうち履修して良かったと思う授業の割合

- 大学院(修士・博士)の授業のうち履修して良かったと思う授業が6割以上を占めると回答した学生は3割以下に留まる
- 人文・社会科学系では他の分野と比べて履修して良かったと思う授業の割合が高い



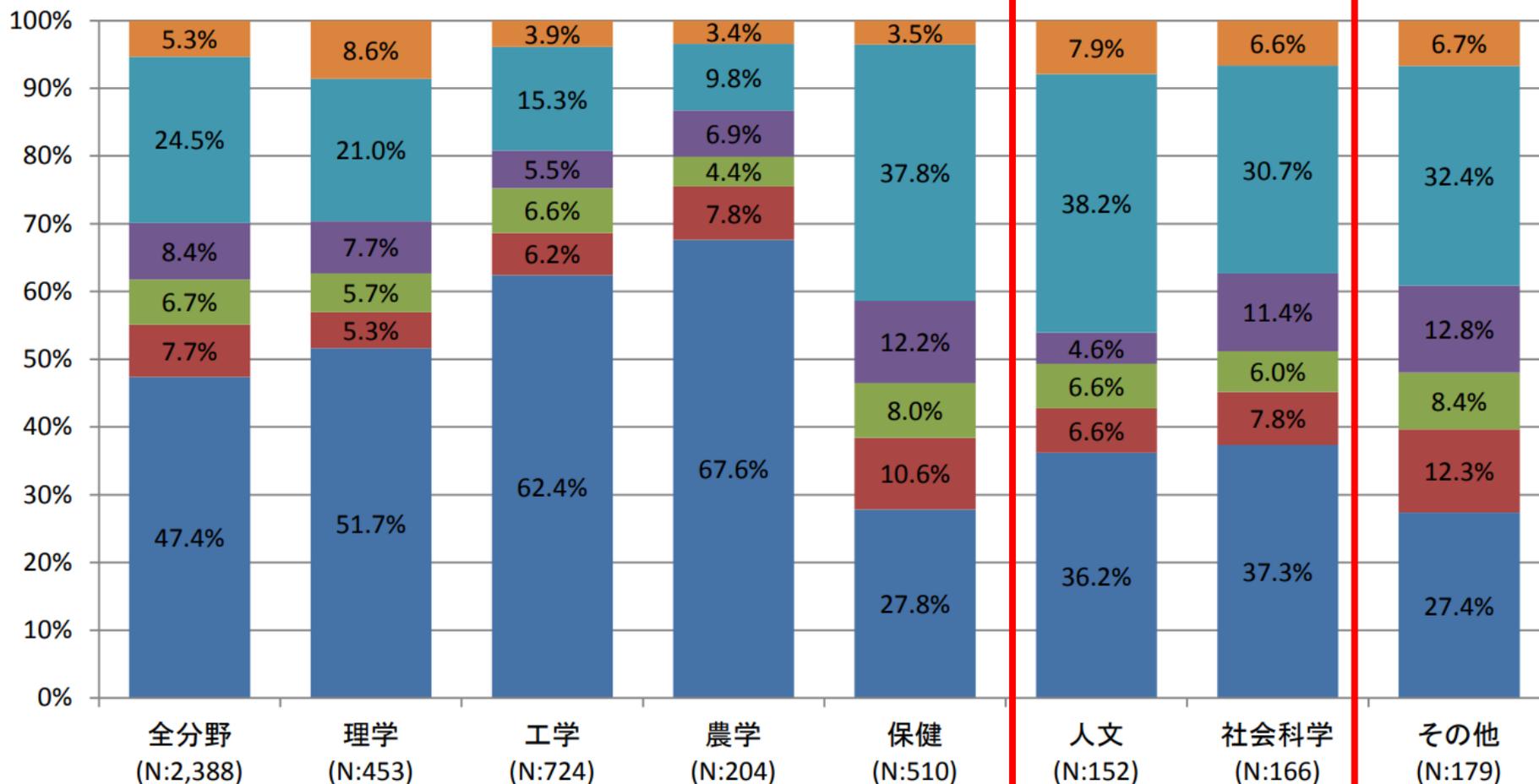
修士課程進学を決めた時期（社会人経験なしの学生）

● 人文科学・社会科学系では、他の分野と比較して修士課程への進学を決める時期が遅い。



博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期

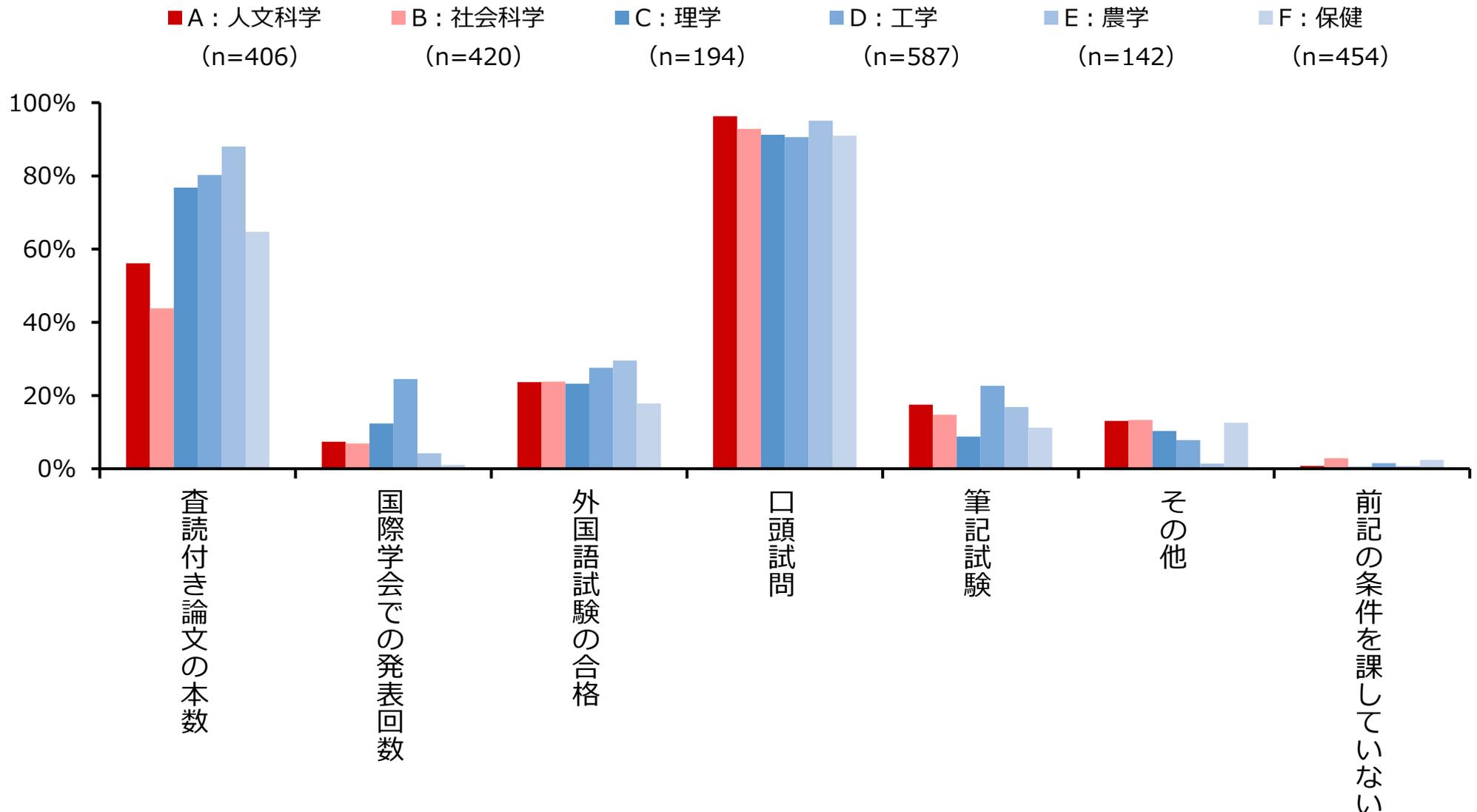
- 人文・社会科学系では博士論文のテーマが決定する時期が他の分野に比較して遅く、人文系では約4割が進学後1年以降となっている



- 博士課程へ進学・入学以前
- 博士課程進学1ヶ月以降3ヶ月以内
- 博士課程進学3ヶ月以降半年以内
- 博士課程進学半年以降1年以内
- 1年以降
- 特に合意はしていない

課程博士授与にあたっての条件

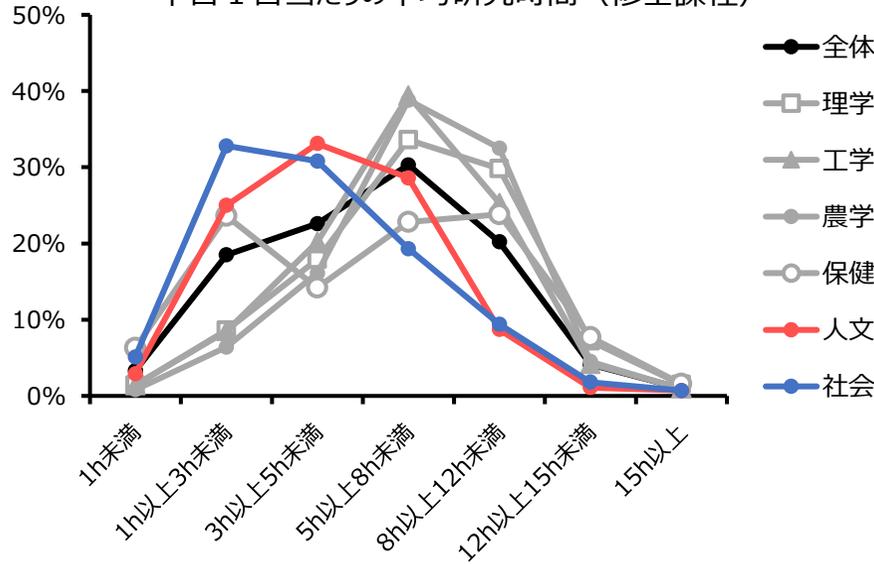
- 人文科学・社会科学系では査読付き論文の本数について、課程博士の授与条件としている割合が少ない



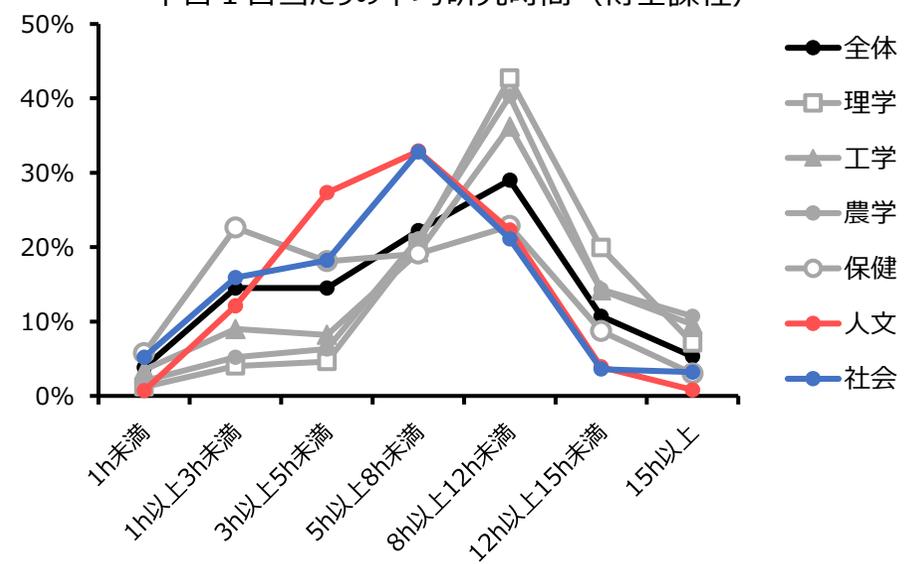
人文科学・社会科学系の研究教育特性

● 数字だけで見ると、人文科学・社会科学系の大学院生の研究時間は自然科学系よりも短い

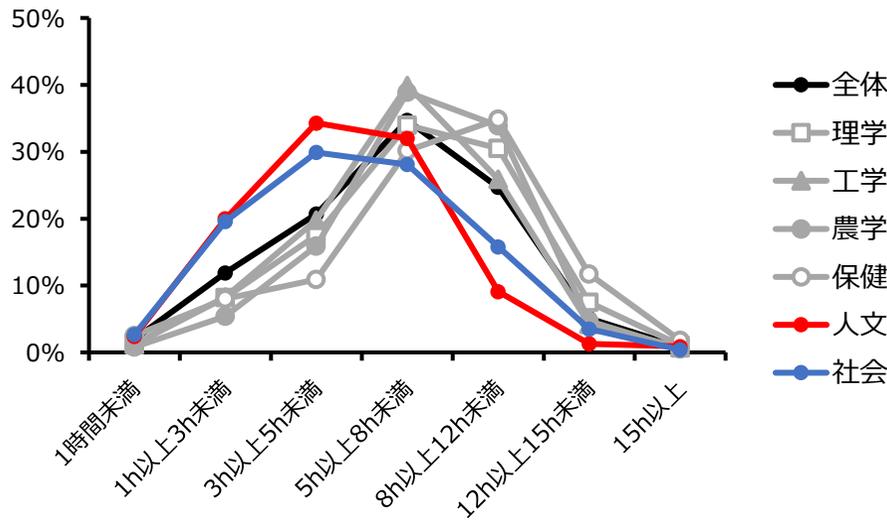
平日 1 日当たりの平均研究時間 (修士課程)



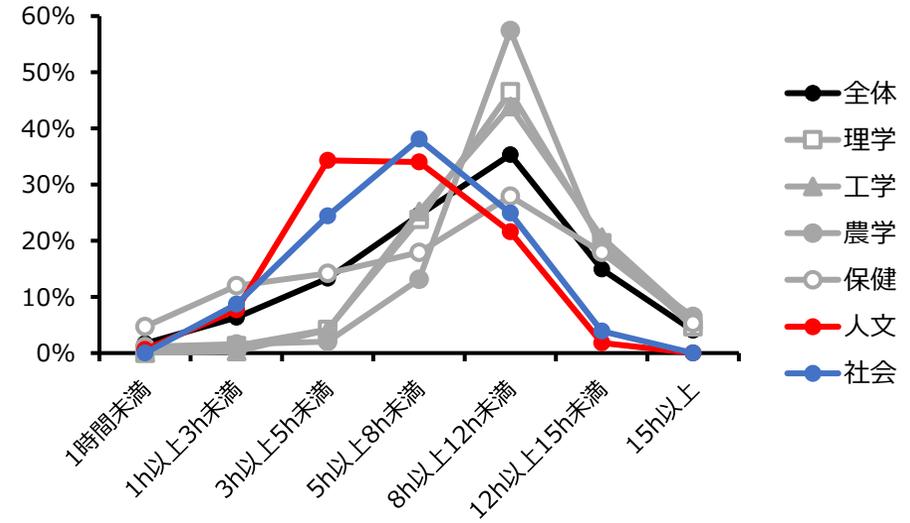
平日 1 日当たりの平均研究時間 (博士課程)



平日 1 日当たりの平均研究時間
(修士課程・社会人学生及び留学生を除く)



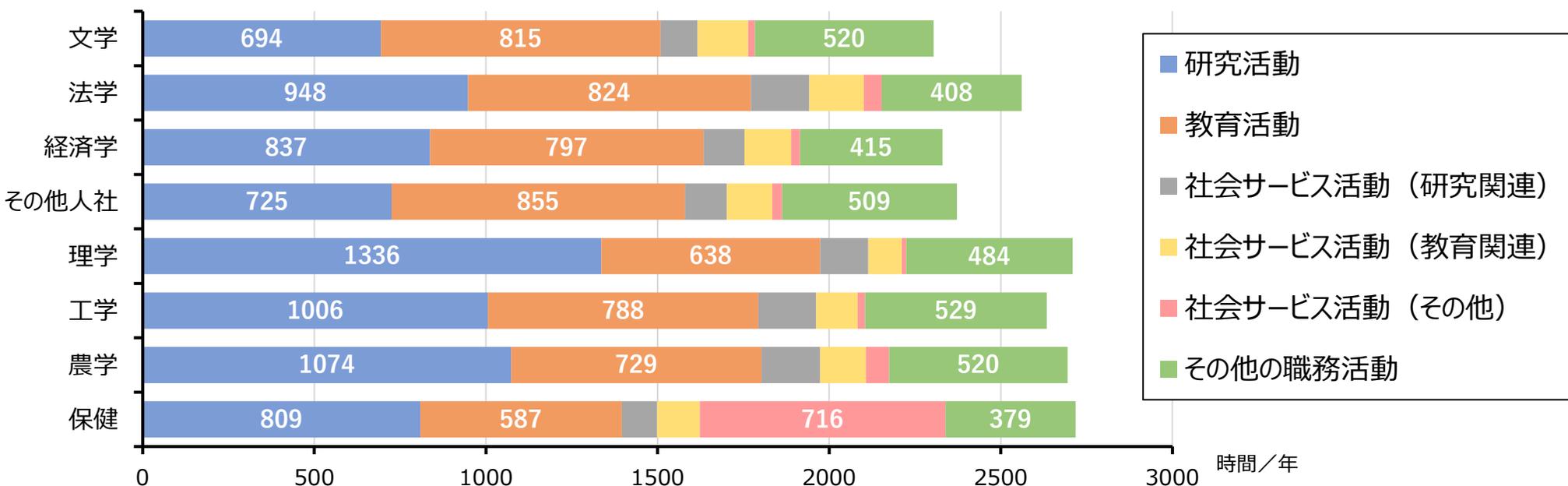
平日 1 日当たりの平均研究時間
(博士課程・社会人学生及び留学生を除く)



人文科学・社会科学系の研究教育特性

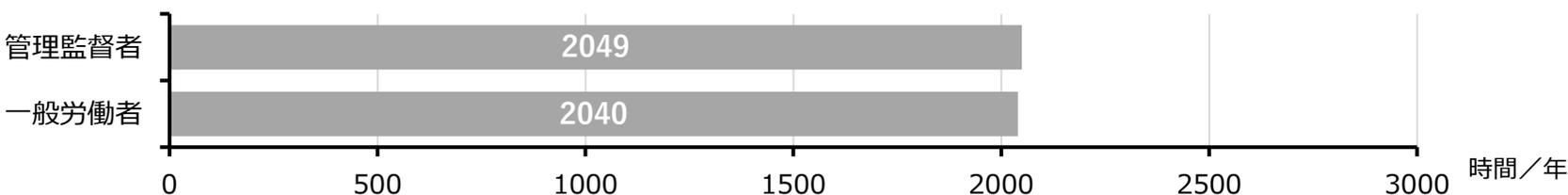
- 数字だけで見ると、人文科学・社会科学系の教員の総活動時間は自然科学系よりも短い(ただし、一般の民間企業よりも長い)

教員の総職務時間の活動時間の組織の学問分野別内訳 (平成29年度)



※ 1年間における活動パターン別の日数と活動パターン別の標準的な1日における職務時間を乗じることで、年間の職務従事時間を集計
 【出典】文部科学省「大学等におけるフルタイム換算データに関する調査報告書」(平成31年3月, 株式会社日経リサーチ)

(参考) 民間企業の年間労働時間平均 (2017年)

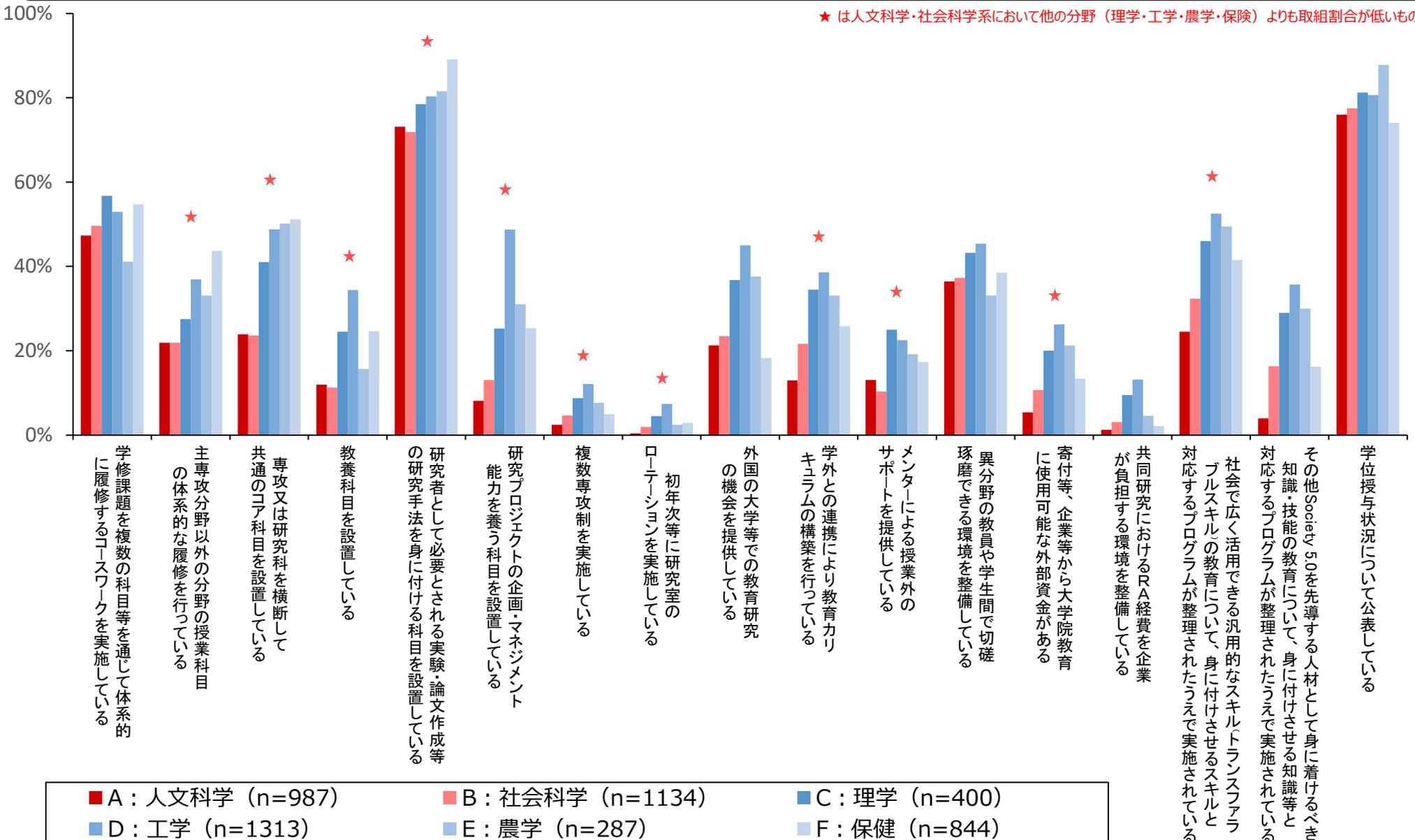


5. 組織的な取組

大学院教育改革状況（体系的な大学院教育）

● 答申等で示されてきた大学院教育の改革方針について、人文科学・社会科学系では全般的に取組が進んでいない

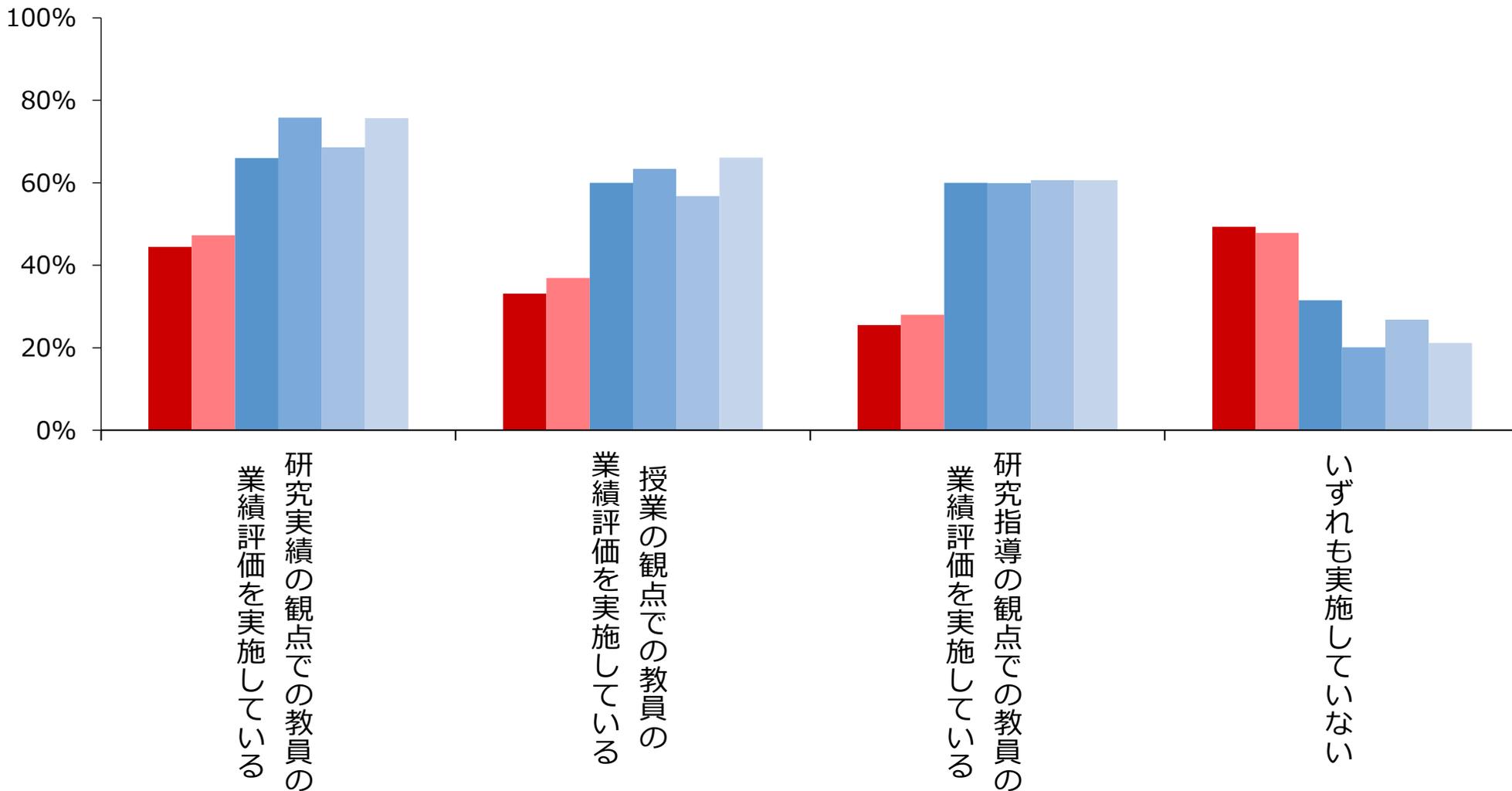
★ は人文科学・社会科学系において他の分野（理学・工学・農学・保健）よりも取組割合が低いもの



【出典】令和3年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング、令和4年）

大学院教育改革状況（教員の業績評価）

- 人文科学・社会科学系では理工系分野と比較して、教員の教育研究活動に対する業績評価が行われていない



■ A : 人文科学 (n=987)

■ B : 社会科学 (n=1134)

■ C : 理学 (n=400)

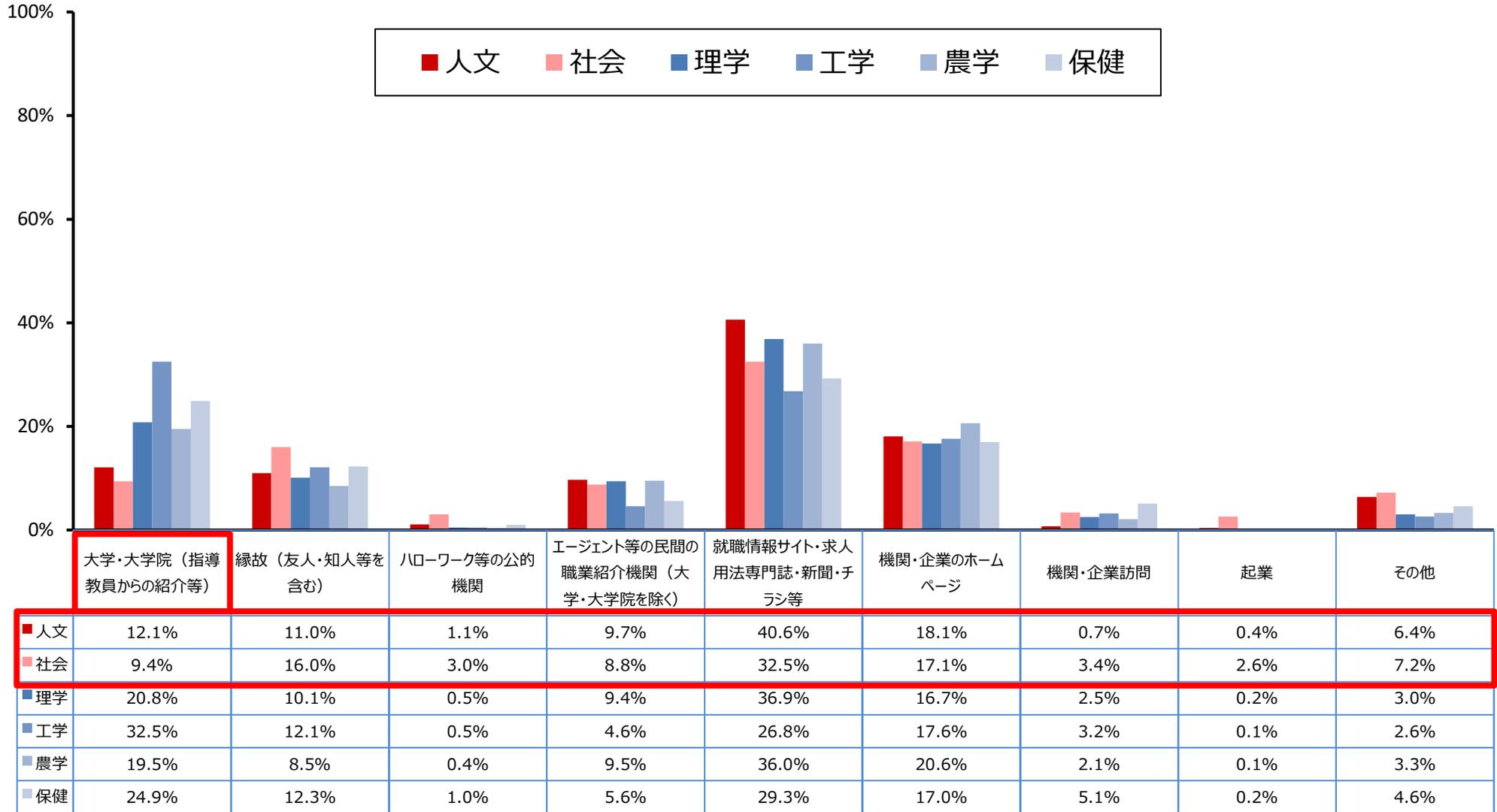
■ D : 工学 (n=1313)

■ E : 農学 (n=287)

■ F : 保健 (n=844)

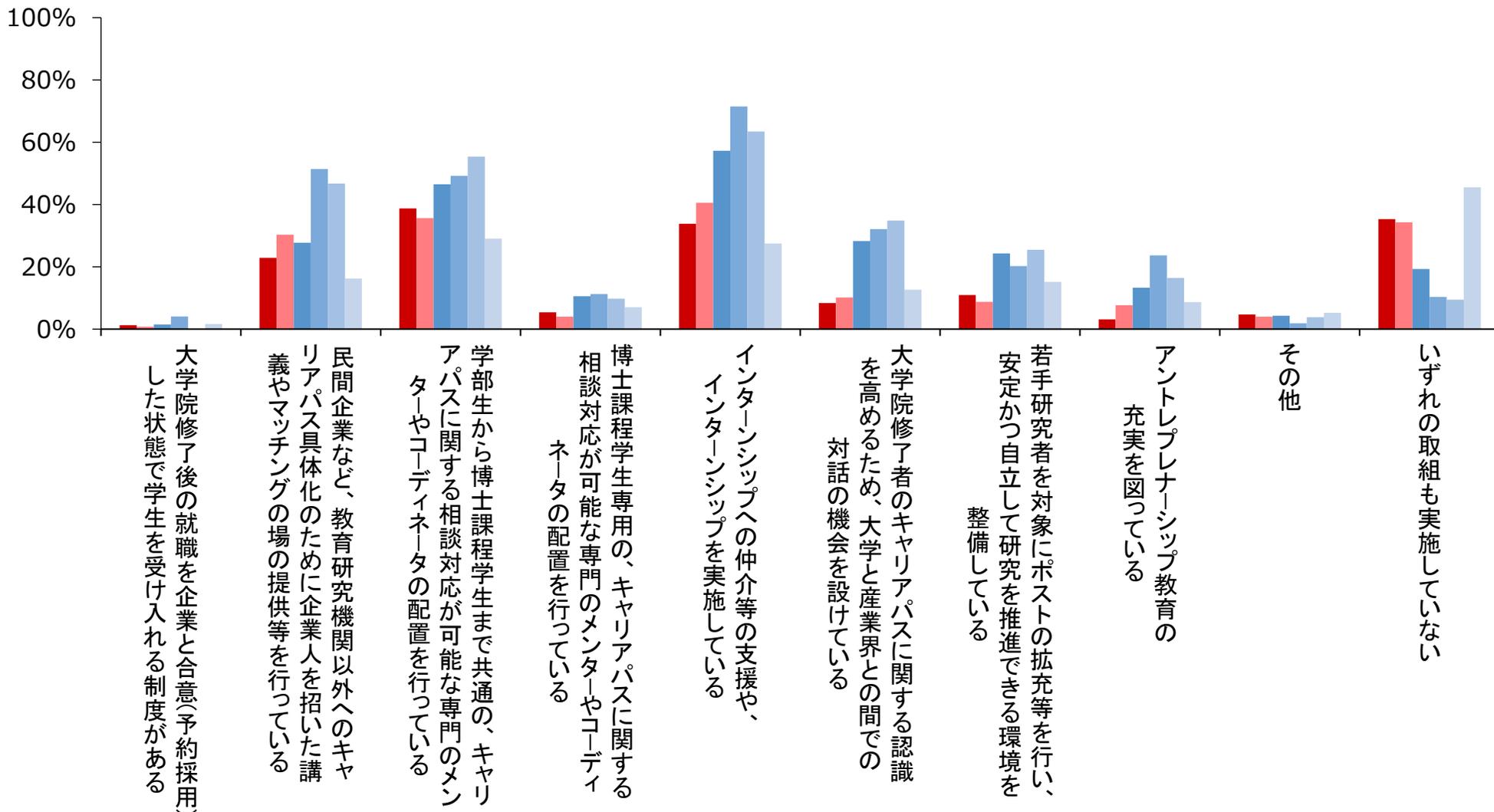
雇用先の入職経路

- 人文科学・社会科学系では、理工農系と比較して、大学院や指導教員からの紹介等による就職事例が少ない。



大学院教育改革状況（組織的な就職支援）

● 人文科学・社会科学系では民間企業とのマッチングや対話の機会の確保、若手の安定的な環境の整備等が低調



■ A : 人文科学 (n=987)

■ B : 社会科学 (n=1134)

■ C : 理学 (n=400)

■ D : 工学 (n=1313)

■ E : 農学 (n=287)

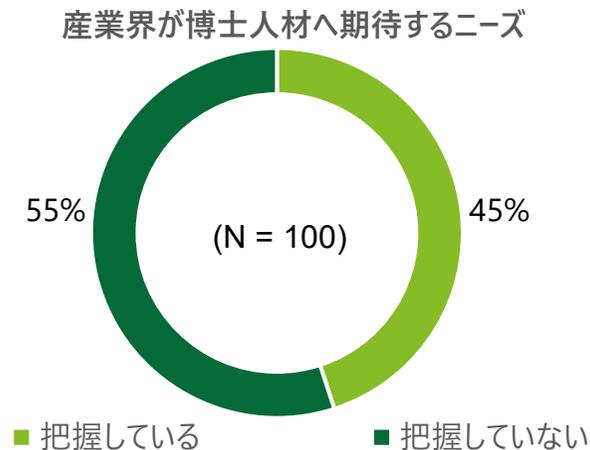
■ F : 保健 (n=844)

大学院教育改革状況（組織的な就職支援）

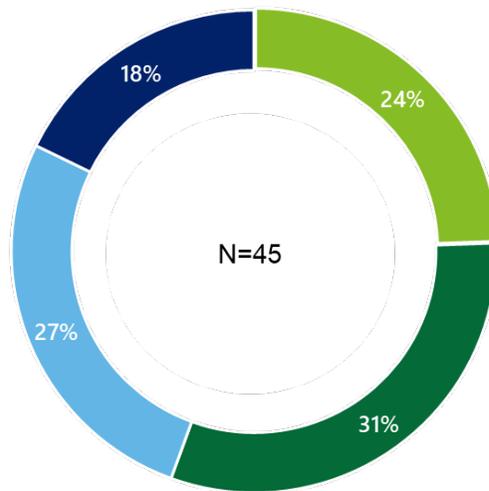
大学へのアンケート調査①

- 博士課程後期修了者を平成30年に30名程度以上輩出している国公立大学115校に対してアンケート調査を実施し、100校から回答を得た。
- 「産業界が博士人材に期待するニーズを把握しているか」という設問では、半数以上の大学が「把握していない」と回答しているが、把握している大学においては、そうでない大学よりも産業界への就職率が高い傾向にある。

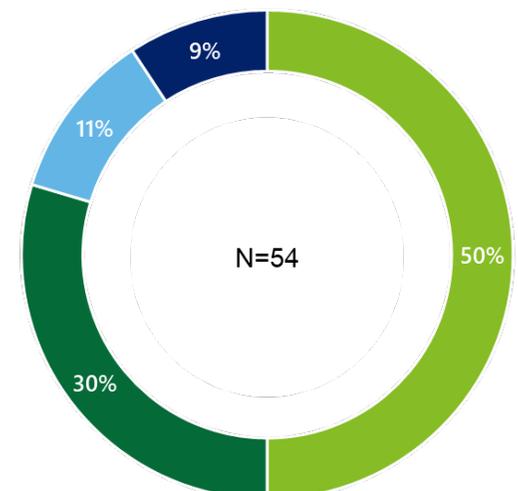
産業界のニーズを把握している大学



産業界のニーズを把握していない大学



■ 0-10% ■ 10-20% ■ 20-30% ■ 30%<
産業界へ就職した博士課程修了者が全修了者に占める割合

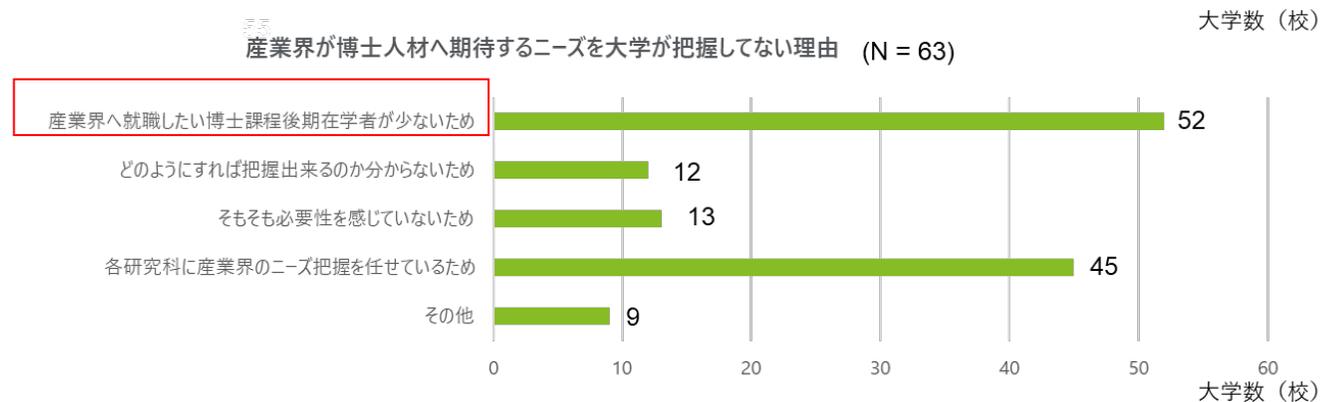


■ 0-10% ■ 10-20% ■ 20-30% ■ 30%<
産業界へ就職した博士課程修了者が全修了者に占める割合

大学院教育改革状況（組織的な就職支援）

大学へのアンケート調査②

- **産業界のニーズを把握していない理由としては、「産業界へ就職したい博士課程後期在学生在が少ないため」との回答が最多。**
- 産業界のニーズを把握した場合の活用方法は、「博士課程在籍者に情報提供している」「博士課程在籍者向けのカリキュラムに反映している」との回答が多い。



*本設問は複数回答可



*本設問は複数回答可